

外科専門研修プログラム

2019年度

東京女子医科大学病院

<プログラムの名称>

東京女子医科大学 外科専門研修プログラム

<外科専門医の理念と目的>

外科専門医とは、医の倫理を体得し、一定の修練を経て、診断、手術適応判断、手術及び術前後の管理・処置、合併症など、一般外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し、プロフェッショナルとしての態度を身に付けた医師である。また、規定の手術を経験し、一定の資格認定試験を経て認定される。外科専門医はサブスペシャリティ領域（消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・小児外科・乳腺外科・内分泌外科）やそれに準じた外科関連領域の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格である。この専門医の維持と更新には、最新の知識・テクニック・スキルを継続して、安全かつ信頼される医療を実施していることが必須条件となる。

そのため、外科医として幅広く一般診療を行う能力を育成し、基礎的知識や検査・画像診断、麻酔手技、周術期の全身管理の基礎を習得する。さらに、高度な知識や判断能力の育成をはかり、基礎的能力の習得が円滑に行われるよう、専攻医1人1人に合わせたプログラムを設定し、優れた臨床医の養成、将来の外科治療を牽引する医師としての養成を目的としている。また、感染対策、医療安全及び医療倫理の基礎能力の育成を行い、日常診療を通じて様々な状況に対応し、かつ適切な判断のもと、治療法の選択が行える基礎的能力を育成する。

上記を踏まえ、チーム医療の一員として治療方針の決定の一翼を担うことができること、及び、インフォームド・コンセントを通じて良好な患者・医師関係を築き、患者背景に配慮した安全な外科治療の提供ができることを目標とする。

<外科専門医の使命>

外科専門医は、標準的かつ包括的な外科医療を提供することにより国民の健康を保持し福祉に貢献する。また、外科領域診療に関わる最新の知識・テクニック・スキルを習得し、実践できる能力を養いつつ、この領域の学問的発展に貢献することを使命とする。

目 次

プログラム指導者と研修施設	1
専門研修プログラム管理委員会	3
外科専門医の使命と本プログラム修了後の医師像	4
外科専門研修の目標	4
1. 一般目標	4
2. 到達目標	4
研修内容	
1. 経験症例	5
(1) 外科専門医カリキュラムの症例を経験する	
①到達目標（修得すべき知識・技能・態度まで）	
i 専門知識	5
ii 専門技能	6
iii 学問的姿勢	7
iv 医師としての倫理性、社会性など	7
②経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法）	
i 経験すべき疾患・病態	7
ii 経験すべき診察・検査等	9
(2) 350 例の手術手技を経験する	9
(3) ②のうち、術者として 120 例以上を経験する	9
(4) 各領域の基本的な手技を経験する	9
(5) 地域医療の経験	11
2. 学術活動	11
3. 臨床現場を離れた学習	12
4. 自己学習	12
5. 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス	12
専門研修プログラム具体例	13
研修期間	14
研修スケジュール	14
研修の週間および年間スケジュール	16
施設群による研修プログラムおよび地域医療について	16
研修評価・修了	17
研修修了認定	17
プログラム修了後の進路	17
専門医研修猶予の猶予	18
専門研修実績記録システム、マニュアル等	18
専攻医募集および専攻方法	19
身分および待遇	19
資料請求先	19

診療科紹介

消化器・一般外科	21
心臓血管外科	23
呼吸器外科	27
小児外科	29
乳腺・内分泌外科	31
腎臓外科	33
救命救急センター	35

連携施設紹介

東京女子医科大学東医療センター	38
東京女子医科大学附属八千代医療センター	44
愛媛県立中央病院	48
医療法人社団 荻窪病院	52
社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院	54
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院	56
地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	60
医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター	62
医療法人社団常仁会 牛久愛和総合病院	64
大分市医師会立 アルメイダ病院	66
一般社団法人 至誠会第二病院	68
社会医療法人三栄会 中央林間病院	70
医療法人社団けいせい会 東京北部病院	72
医療法人財団中山会 八王子消化器病院	74
医療法人社団保健会 谷津保健病院	76
医療法人社団三喜会 横浜新緑総合病院	78
公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院	80
医療法人誠壽会 上福岡総合病院	82
公益社団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	84
公益社団法人東京都保健医療公社 豊島病院	86
社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	88
防府消化器病センター 防府胃腸病院	90
独立行政法人地域医療機能推進機構 山梨病院	93
東京医科大学 茨城医療センター	95
埼玉県済生会 栗橋病院	98
東京都立多摩総合医療センター	100
社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院	102
熊本赤十字病院	105
独立行政法人地域医療機能推進機構 東京城東病院	107
医療法人社団栄悠会 綾瀬循環器病院	109
国際医療福祉大学熱海病院	111

<プログラム指導者と研修施設>

東京女子医科大学病院と連携施設（31 施設）により、専門研修施設群を構成している。
本専門研修施設群では、118名の専門研修指導医が専攻医を指導する。

専門研修プログラム統括責任者

東京女子医科大学消化器・一般外科 山本 雅一

専門研修副プログラム統括責任者

東京女子医科大学心臓血管外科 新浪 博
東京女子医科大学呼吸器外科 神崎 正人
東京女子医科大学乳腺・内分泌外科 岡本 高宏

各領域責任者

消化器外科	山本 雅一	(東京女子医科大学 消化器・一般外科)
心臓血管外科	新浪 博	(東京女子医科大学 心臓血管外科)
呼吸器外科	神崎 正人	(東京女子医科大学 呼吸器外科)
小児外科	世川 修	(東京女子医科大学 小児外科)
乳腺外科、内分泌外科	岡本 高宏	(東京女子医科大学 乳腺・内分泌外科)
腎臓外科	渕之上 昌平	(東京女子医科大学 腎臓外科)
救命救急センター	矢口 有乃	(東京女子医科大学 救命救急センター)

専門研修指導医

有泉俊一、東 隆、新川武史、井坂珠子、板橋道朗、井上雄志、江川裕人、江黒葉子、大木岳志、小川真平、神尾孝子、神崎正人、菊地千鶴男、北島久視子、工藤健司、小寺由人、駒ヶ嶺正英、小山一朗、小山邦広、斎藤 聡、齋藤博之、坂本明子、谷澤武久、道本 哲、頓所 展、中島一朗、成宮孝祐、中山祐樹、西中知博、樋口亮太、堀内喜代美、松村剛毅、松本卓子、村上 徹、村杉雅秀、矢口有乃、山田卓司、甲斐耕太郎

専門研修基幹施設

東京女子医科大学病院 2016 年 NCD 登録数 (4, 1 3 0)

専門研修連携施設

	NCD 按分数	腹部・消化器	乳腺	呼吸器	心臓・大血管	末梢血管	頭頸部・体表	小児	重症外傷
	2016 年								
(1) 東京女子医科大学東医療センター	200	○	○	○	○	○	○	○	○
(2) 東京女子医科大学附属八千代医療センター	100	○	○	○	○	○	○	○	○

(3)	愛媛県立中央病院	200	○	○	○	○	○						
(4)	医療法人財団荻窪病院	60	○				○	○					
(5)	社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院	547	○	○	○	○	○						
(6)	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院	360	○	○	○						○		
(7)	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	230					○	○			○		
(8)	医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター	558	○	○	○			○	○	○	○	○	
(9)	医療法人社団常仁会牛久愛和総合病院	322	○	○					○			○	
(10)	大分市医師会立アルメイダ病院	525	○	○	○			○	○	○	○	○	
(11)	一般社団法人至誠会第二病院	230	○	○	○						○		
(12)	社会医療法人三栄会中央林間病院	251	○	○	○				○				
(13)	医療法人社団けいせい会東京北部病院	535	○										
(14)	八王子消化器病院	301	○										
(15)	谷津保健病院	201	○	○	○			○	○	○	○	○	
(16)	医療法人社団三喜会横浜新緑総合病院	421	○	○				○	○				
(17)	公益財団法人東京都保健医療公社荏原病院	254	○	○	○						○		
(18)	医療法人誠壽会上福岡総合病院	247	○	○	○			○	○	○	○	○	
(19)	公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	170	○	○									
(20)	公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院	240	○										
(21)	社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院	232	○	○	○			○	○	○			
(22)	防府消化器病センター防府胃腸病院	299	○						○				
(23)	独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院	107	○	○	○				○	○	○		
(24)	東京医科大学茨城医療センター	135	○	○	○								
(25)	埼玉県済生会栗橋病院	350	○		○	○	○	○	○	○	○		
(26)	東京都立多摩総合医療センター	50			○								
(27)	社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院	170	○	○			○	○	○				
(28)	熊本赤十字病院	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(29)	独立行政法人地域医療機能推進機構 東京城東病院	169	○							○			
(30)	医療法人社団栄悠会 綾瀬循環器病院	161					○	○					
(31)	国際医療福祉大学熱海病院	168	○					○					
		NCD 按分数	腹部・消化器	乳腺	呼吸器	心臓・大血管	末梢血管	・頭頸部・内分泌	小児	重症外傷			
		2016年											

専門研修連携施設

2016年 NCD 登録数 (7,993)

本専門研修施設群

2016年 NCD 登録数の合計 (12,123)

本年度の募集専攻医数 20 名

< 専門研修プログラム管理委員会 >

① 基幹施設担当者

プログラム統括責任者	山本雅一
副プログラム統括責任者	新浪 博、神崎正人、岡本高宏
委員	世川 修、湊之上 昌平、矢口有乃、江川裕人、村杉雅秀、小寺由人、松村剛毅、板橋道朗、神尾孝子、小山一郎、堀内喜代美、武田宗和

② 連携施設責任者及び担当者

東京女子医科大学東医療センター	成高 義彦
東京女子医科大学附属八千代医療センター	新井田 達雄、齋藤 博之、片桐 聡
愛媛県立中央病院	石戸谷 浩
医療法人財団荻窪病院	澤 重治
社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院	上杉 英之
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院 聖隷浜松病院	鈴木 一史
地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	中島 雅人
医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター	藤田 竜一
医療法人社団常仁会牛久愛和総合病院	亀岡 信悟、野口 岳春
大分市医師会立アルメイダ病院	白鳥 敏夫、橋本 拓造
一般社団法人至誠会第二病院	吉田 一成
社会医療法人三栄会中央林間病院	木山 智、河野 正寛
医療法人社団けいせい会東京北部病院	谷 英己
八王子消化器病院	小池 伸定
谷津保健病院	宮崎 正二郎
医療法人社団三喜会横浜新緑総合病院	齊藤 修治
公益財団法人東京都保健医療公社荏原病院	太田 岳洋
医療法人誠壽会上福岡総合病院	井上 達夫
公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	桂川 秀雄
公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院	福田 晃、安藤 昌之
社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院	宮平 工
防府消化器病センター防府胃腸病院	三浦 修
独立行政法人地域医療機能推進機構山梨病院	安村 友敬
東京医科大学茨城医療センター	鈴木 修司
埼玉県済生会栗橋病院	宮野 裕
東京都立多摩総合医療センター	小原 徹也
社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院	児玉 ひとみ
熊本赤十字病院	吉元 和彦
独立行政法人地域医療機能推進機構 東京城東病院	阪井 守
医療法人社団栄悠会 綾瀬循環器病院	丁 毅文
国際医療福祉大学熱海病院	唐仁原 全、白井 博之

③研修プログラム管理委員会の役割と権限

- (1) 当管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者、専門研修副プログラム統括責任者および、各診療科専門研修指導医、専門研修プログラム連携施設担当者等で構成される。
- (2) 専門研修プログラムの作成、管理、改善などを行う。
- (3) 専攻医の研修全般の管理を行う。
- (4) 専門研修プログラム修了時に専攻医の修了判定の審査を行い、専門研修プログラム統括責任者が修了判定を行う。
- (5) 専攻医および専門研修指導医から提出される意見を参照し、専門研修プログラムや専門研修体制の継続的改良を行う。
- (6) 6か月～1年毎に開催する。
- (7) 研修プログラム統括責任者は専攻医から提出されたプログラム評価報告内容を匿名化し、本委員会で審議を行いプログラムの改善を行う。
- (8) 専攻医からの指導医評価報告をもとに指導医の教育能力を向上させる支援を行う。

<外科専門医の使命と本プログラム修了後の医師像>

- (1) 医の倫理を体得し、医療を適正に実践する
- (2) 一般外科医療に関する標準的な知識と技量を修得し、診断、手術および術前後の管理処置を適切に施行する
- (3) 外科専門医研修後も最新の知識・技術を継続して学習し、信頼される医療を実践する
- (4) サブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科・内分泌外科など）の専門研修を行うために必要な知識、技術、人格を有する
- (5) 臨床研究または学術的研究を発信し、後進の教育的指導ができる

<外科専門研修の目標>

1. 一般目標

- (1) 一般外科的な臨床判断能力や問題解決能力を修得する
- (2) 中・低難度手術を適切に実施できる能力を修得する
- (3) 術前術後管理を適切に行う能力を修得する
- (4) 医の倫理に配慮し、外科診療を行う上で適切な態度と習慣を身に付ける
- (5) 外科学の進歩に合わせた生涯学習を行う基本的な能力を修得する
- (6) 地域医療の特殊性、問題点を認識する

2. 到達目標

- (1) 外科診療に必要な基礎的知識を習熟し、臨床応用できる（研修医手帳を参照）
- (2) 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、臨床応用できる
- (3) 外科診療に必要な疾患を経験・理解できる
- (4) 外科診療に必要な各領域の手術を経験する

- (5) 地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる
- (6) 外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し実行できる
- (7) 医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度・習慣を身に付ける

<研修内容>

1. 経験症例

(1) 外科専門医カリキュラムの症例を経験する

①到達目標（修得すべき知識・技術・態度など）

i 専門知識

外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用できる。(研修手帳参照)

- (1) 局所解剖：手術をはじめとする外科診療上で必要な局所解剖について述べることができる。
- (2) 病理学：外科病理学の基礎を理解している。
- (3) 腫瘍学
 - ①発癌過程、転移形成およびTNM 分類について述べるができる。
 - ②手術、化学療法および放射線療法を含む集学的治療の適応を述べるができる。
 - ③化学療法（抗腫瘍薬、分子標的薬など）と放射線療法の有害事象について理解している。
- (4) 病態生理
 - ①周術期管理や集中治療などに必要な病態生理を理解している。
 - ②手術侵襲の大きさと手術のリスクを判断することができる。
- (5) 輸液・輸血：周術期・外傷患者に対する輸液・輸血について述べるができる。
- (6) 血液凝固と線溶現象
 - ①出血傾向を鑑別し、リスクを評価することができる。
 - ②血栓症の予防、診断および治療の方法について述べるができる。
- (7) 栄養・代謝学
 - ①病態や疾患に応じた必要熱量を計算し、適切な経腸、経静脈栄養剤の投与、管理について述べるができる。
 - ②外傷、手術などの侵襲に対する生体反応と代謝の変化を理解できる。
- (8) 感染症
 - ①臓器特有、あるいは疾病特有の細菌の知識を持ち、抗菌薬を適切に選択することができる。
 - ②術後発熱の鑑別診断ができる。
 - ③抗菌薬による有害事象を理解できる。
 - ④破傷風トキソイドと破傷風免疫ヒトグロブリン投与の適応を述べるができる。
- (9) 免疫学
 - ①アナフィラキシーショックを理解できる。
 - ②組織適合と拒絶反応について述べるができる。
- (10) 創傷治癒：創傷治癒の基本を理解し、適切な創傷処置を実践することができる。
- (11) 周術期の管理：病態別の検査計画、治療計画を立てることができる。
- (12) 麻酔科学
 - ①局所・浸潤麻酔の原理と局所麻酔薬の極量を述べることができる。
 - ②脊椎麻酔の原理を述べることができる。
 - ③気管挿管による全身麻酔の原理を述べることができる。
 - ④硬膜外麻酔の原理を述べることができる。
- (13) 集中治療
 - ①集中治療について述べるができる。

- ②基本的な人工呼吸管理について述べることができる。
- ③播種性血管内凝固症候群(disseminated intravascular coagulation)と多臓器不全(multiple organ failure)の病態を理解し、適切な診断・治療を行うことができる。

(14) 救命・救急医療

- ①蘇生術について理解し、実践することができる。
- ②ショックを理解し、初療を実践することができる。
- ③重度外傷の病態を理解し、初療を実践することができる。
- ④重度熱傷の病態を理解し、初療を実践することができる。

ii 専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)

A. 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用ができる。

(到達目標2)

(1) 下記の検査手技ができる。

- ①超音波検査：自身で実施し、病態を診断できる。
- ②エックス線単純撮影、CT、MRI：適応を決定し、読影することができる。
- ③上・下部消化管造影、血管造影等：適応を決定し、読影することができる。
- ④内視鏡検査：上・下部消化管内視鏡検査、気管支内視鏡検査、術中胆道鏡検査、ERCP等の必要性を判断し、読影することができる。
- ⑤心臓カテーテル：必要性を判断することができる。
- ⑥呼吸機能検査の適応を決定し、結果を解釈できる。

(2) 周術期管理ができる。

- ①術後疼痛管理の重要性を理解し、これを行うことができる。
- ②周術期の補正輸液と維持療法を行うことができる。
- ③輸血量を決定し、成分輸血を含め適切に施行できる。
- ④出血傾向に対処できる。
- ⑤血栓症の治療について述べることができる。
- ⑥経腸栄養の投与と管理ができる。
- ⑦抗菌薬の適正な使用ができる。
- ⑧抗菌薬の有害事象に対処できる。
- ⑨デブリードマン、切開およびドレナージを適切にできる。

(3) 次の麻酔手技を安全に行うことができる。

- ①局所・浸潤麻酔
- ②脊椎麻酔
- ③硬膜外麻酔(望ましい)
- ④気管挿管による全身麻酔

(4) 外傷の診断・治療ができる。

- ①すべての専門領域で、外傷の初期治療ができる。
- ②多発外傷における治療の優先度を判断し、トリアージを行うことができる。
- ③緊急手術の適応を判断し、それに対処することができる。

(5) 以下の手技を含む外科的クリティカルケアができる。

- ①心肺蘇生法—一次救命処置(Basic Life Support)、二次救命処置(Advanced Life Support)
- ②動脈穿刺
- ③中心静脈カテーテルの挿入とそれによる循環管理
- ④人工呼吸器による呼吸管理
- ⑤気管支鏡による気道管理
- ⑥熱傷初期輸液療法
- ⑦気管切開、輪状甲状軟骨切開

- ⑧心嚢穿刺
 - ⑨胸腔ドレナージ
 - ⑩ショックの診断と原因別治療（輸液、輸血、成分輸血、薬物療法を含む）
 - ⑪播種性血管内凝固症候群(disseminated intravascular coagulation)、多臓器不全(multiple organ failure)、全身性炎症反応症候群(systemic inflammatory response syndrome)、代償性抗炎症性反応症候群(compensatory anti-inflammatory response syndrome)の診断と治療
 - ⑫化学療法（抗腫瘍薬、分子標的薬など）と放射線療法の有害事象に対処することができる。
- (6) 外科系サブスペシャリティまたはそれに準ずる外科関連領域の分野の初期治療ができ、かつ、専門医への転送の必要性を判断することができる。
- B. 一定レベルの手術を適切に実施できる能力を修得し、その臨床応用ができる。(経験目標2)
一般外科に包含される下記領域の手術を実施することができる。

(手術手技一覧対応表参照)

- ①消化管および腹部内臓
- ②乳腺
- ③呼吸器
- ④心臓・大血管
- ⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）
- ⑥ 頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）
- ⑦小児外科
- ⑧外傷の修練
- ⑨上記①～⑧の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）

iii 学問的姿勢

外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し実行できる。

- (1) カンファレンス、その他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加することができる。
- (2) 専門の学術出版物や研究発表に接し、批判的吟味をすることができる。
- (3) 学術集会や学術出版物に、症例報告や臨床研究の結果を発表することができる。
- (4) 学術研究の目的または直面している症例の問題解決のため、資料の収集や文献検索を独力で行うことができる。

iv 医師としての倫理性、社会性など

外科診療を行う上で、医師としての倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身に付ける。

- (1) 医療行為に関する法律を理解し、遵守できる。
- (2) 患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。
- (3) 外科診療における適切なインフォームド・コンセントをえることができる。
- (4) 関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。
- (5) ターミナルケアを適切に行うことができる。
- (6) インシデント・アクシデントが生じた際、的確に処置ができ、患者に説明することができる。
- (7) 初期臨床研修医や学生などに、外科診療の指導をすることができる。
- (8) すべての医療行為、患者に行った説明など治療の経過を书面化し、管理することができる。
- (9) 診断書・証明書などの書類を作成、管理することができる。

② 経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法）

i 経験すべき疾患・病態

外科診療に必要な下記の疾患を経験または理解する。（研修手帳参照）

(1) 消化管および腹部内臓

①食道疾患：

- 1) 食道癌
- 2) 胃食道逆流症（食道裂孔ヘルニアを含む）
- 3) 食道アカラシア
- 4) 特発性食道破裂

②胃・十二指腸疾患：

- 1) 胃十二指腸潰瘍（穿孔を含む）
- 2) 胃癌
- 3) その他の胃腫瘍（GISTなど）
- 4) 十二指腸癌

③小腸・結腸疾患

- 1) 結腸癌
- 2) 腸閉塞
- 3) 難治性炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチェット病など）
- 4) 憩室炎・虫垂炎

④直腸・肛門疾患

- 1) 直腸癌
- 2) 肛門疾患（内痔核・外痔核、痔瘻）

⑤肝臓疾患

- 1) 肝細胞癌
- 2) 肝内胆管癌
- 3) 転移性肝腫瘍

⑥胆道疾患

- 1) 胆道癌（胆嚢癌、胆管癌、乳頭部癌）
- 2) 胆石症（胆嚢結石症、総胆管結石症、胆嚢ポリープ）
- 3) 胆道系感染症

⑦膵臓疾患

- 1) 膵癌
- 2) 膵管内乳頭状粘液性腫瘍、粘液性嚢胞腫瘍
- 3) その他の膵腫瘍（膵内分泌腫瘍など）
- 4) 膵炎（慢性膵炎、急性膵炎）

⑧脾臓疾患

- 1) 脾機能亢進症
- 2) 食道・胃静脈瘤

⑨その他

- 1) ヘルニア（鼠径ヘルニア、大腿ヘルニア）
- 2) 腸間膜虚血性疾患（塞栓、血栓、NOMI）

(2) 乳腺

①乳腺疾患

- 1) 乳癌

(3) 呼吸器

①肺疾患

- 1) 原発性肺腫瘍
- 2) 転移性肺腫瘍
- 3) 先天性肺疾患

- 4) 炎症性肺疾患
- ②縦隔疾患
 - 1) 縦隔腫瘍
 - 2) 頸胸境界領域疾患
- ③胸壁・胸膜疾患
 - 1) 気胸
 - 2) 膿胸
 - 3) 胸壁・胸膜腫瘍
- ④気道系疾患
 - 1) 気道異物・閉塞
 - 2) 気道系腫瘍
- (4) 心臓・大血管
 - ①後天性心疾患
 - 1) 虚血性心疾患
 - 2) 弁膜症
 - ②先天性心疾患
 - ③大動脈疾患
 - 1) 動脈瘤（胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）
- (5) 末梢血管（頭蓋内血管を除く）
 - 1) 閉塞性動脈硬化症
 - 2) 下肢静脈瘤
- (6) 頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）
 - 1) 甲状腺癌
 - 2) 体表腫瘍
- (7) 小児外科
 - 1) ヘルニア（鼠径ヘルニア、臍ヘルニアなど）
 - 2) 陰嚢水腫、停留精巣、包茎
 - 3) 腸重積症
 - 4) 虫垂炎
- (8) 外傷

ii 経験すべき診察・検査等

外科診療に必要な下記の検査・診察（管理）を経験する。

- (1) 下記の検査手技ができる。
 - ①超音波検査：自身で実施し、病態を診断できる。
 - ②エックス線単純撮影、CT、MRI：適応を決定し、読影することができる。
 - ③上・下部消化管造影、血管造影等：適応を決定し、読影することができる。
 - ④内視鏡検査：上・下部消化管内視鏡検査、気管支内視鏡検査、術中胆道鏡検査、ERCP等の必要性を判断し、読影することができる。
 - ⑤心臓カテーテル：必要性を判断することができる。
 - ⑥呼吸機能検査の適応を決定し、結果を解釈できる。
- (2) 周術期管理ができる。
 - ①術後疼痛管理の重要性を理解し、これを行うことができる。
 - ②周術期の補正輸液と維持療法を行うことができる。
 - ③輸血量を決定し、成分輸血を含め適切に施行できる。
 - ④出血傾向に対処できる。

- ⑤血栓症の治療について述べることができる。
- ⑥経腸栄養の投与と管理ができる。
- ⑦抗菌薬の適正な使用ができる。
- ⑧抗菌薬の有害事象に対処できる。
- ⑨デブリードマン、切開およびドレナージを適切にできる。
- (3) 次の麻酔手技を安全に行うことができる。
 - ①局所・浸潤麻酔
 - ②脊椎麻酔
 - ③硬膜外麻酔（望ましい）
 - ④気管挿管による全身麻酔
- (4) 外傷の診断・治療ができる。
 - ①すべての専門領域の外傷の初期治療ができる。
 - ②多発外傷における治療の優先度を判断し、トリアージを行うことができる。
 - ③緊急手術の適応を判断し、それに対処することができる。
- (5) 以下の手技を含む外科的クリティカルケアができる。
 - ①心肺蘇生法—一次救命処置(Basic Life Support)、二次救命処置(Advanced Life Support)
 - ②動脈穿刺
 - ③中心静脈カテーテルの挿入とそれによる循環管理
 - ④人工呼吸器による呼吸管理
 - ⑤気管支鏡による気道管理
 - ⑥熱傷初期輸液療法
 - ⑦気管切開，輪状甲状軟骨切開
 - ⑧心嚢穿刺
 - ⑨胸腔ドレナージ
 - ⑩ショックの診断と原因別治療（輸液、輸血、成分輸血、薬物療法を含む）
 - ⑪播種性血管内凝固症候群(disseminated intravascular coagulation)，多臓器不全(multiple organ failure)、全身性炎症反応症候群(systemic inflammatory response syndrome)、代償性抗炎症性反応症候群(compensatory anti-inflammatory response syndrome)の診断と治療
 - ⑫化学療法（抗腫瘍薬、分子標的薬など）と放射線療法の有害事象に対処することができる

(2) 350例の手術手技を経験する（NCDに登録されていることが必須）

(3) ②のうち、術者として120例以上を経験する（NCDに登録されていることが必須）

(4) 各領域の基本的な手術手技を経験する ※（ ）内は最低症例数

- ①消化管及び腹部内臓（50例）
- ②乳腺（10例）
- ③呼吸器（10例）
- ④心臓・大血管（10例）
- ⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10例）
- ⑥頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）（10例）
- ⑦小児外科（10例）
- ⑧外傷の修練（10点）*
- ⑨上記、①～⑦の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・鏡腔鏡を含む）（10例）

※初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限定して、手術症例数に加算できる。

※術者として独立して実施できる一定数は設定しない。

- * 体幹（胸腹部）臓器損傷手術 3点（術者）、2点（助手）
 - ・上記以外の外傷手術（NCDの規定に準拠）・・・1点
 - ・日本外科学会外傷講習会受講・・・・・・・・・・1点
 - ・日本外傷診療研究機構 e-learning 受講・・・・・・・・2点
 - ・外傷初期診療研修コース（JATEC）受講（日本外傷診療研究機構）・・・・4点
 - ・動物もしくは遺体を用いた外傷研修コース・・・・4点
 - ATOM（Advanced Trauma Operative Management）コース
 - DSTC™（Definitive Surgical Trauma Care）コース
 - ASSET（Advanced Surgical Skills for Exposure in Trauma）
 - ・外傷外科手術指南塾受講（日本 Acute Care Surgery 学会主催講習会）・・・・3点
 - ・日本腹部救急医学会認定医制度セミナー受講・・・・1点
 - ・日本 Acute Care Surgery 学会外傷教育セミナー・・・・1点
 - ・日本外傷学会外傷教育セミナー受講・・・・・・・・1点

(5) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療）

地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる。

- ①連携施設（または基幹施設）において地域医療を経験し、病診連携・病病連携を理解し実践する。
- ②地域で進展している高齢化または都市部での高齢者急増に向けた地域包括ケアシステムを理解し、介護と連携して外科診療を実践する。
- ③在宅医療を理解し、終末期を含めた自宅療法を希望する患者に病診または病病連携を通して在宅医療を実践する。

2. 学術活動

- (1) 指定の学術集会または学術刊行物に、筆頭者として研究発表あるいは論文発表*をする
- (2) 日本外科学会定期学術集会に1回以上参加する
- (3) 臨床研修また学術研究に参加し、医の倫理と後進の教育指導ができる'Academic surgeon'を目指すのに 必要な基礎的知識，スキルおよび志を修得する。

* 学術発表における必要な業績（筆頭者）は下記の合計 20 単位を必要とする

研究発表	
(1) 日本外科学会定期学術集会	20 単位
(2) 海外の学会（例：American Society of Clinical Oncology など）	20 単位
(3) 外科系（サブスペシャルティ）の学会の年次総会、定期学術集会 （例：日本消化器外科学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本小児外科学会など）	15 単位
(4) 全国規模の外科系（サブスペシャルティ）以外の学会の年次総会、定期学術集会 （例：日本消化器病学会、日本内視鏡外科学会、日本救急医学会、日本癌学会など）	10 単位
(5) 外科系（サブスペシャルティ）の学会の地方会、支部会（例：研究発表(3)参照）	7 単位
(6) 各地区外科集談会（例：外科集談会、大阪外科集談会、九州外科学会、山陰外科集談会など）	7 単位
(7) 全国規模の研究会（例：大腸癌研究会、日本肝移植研究会、日本ヘルニア研究会など）	7 単位
(8) 地区単位の学術集会、研究会（例：北海道医学大会、四国内視鏡外科研究会、九州内分泌学会など）	5 単位
(9) 全国規模の外科系（サブスペシャルティ）以外の学会の地方会、支部会 （例：研究発表(4)参照）	3 単位
(10) その他	3 単位
論文発表	
(1) 日本外科学会雑誌、Surgery Today	20 単位
(2) 英文による雑誌（例：Journal of clinical oncology, Annals of Surgery など）	20 単位
(3) 著作による書籍	20 単位

(4) 外科系(サブスペシャリティ)の学会の和文雑誌(例:研究発表(3)参照)	15 単位
(5) 全国規模の外科系(サブスペシャリティ)以外の学会の和文雑誌(例:研究発表(4)参照)	10 単位
(6) 編纂された書籍の一部	10 単位
(7) その他	7 単位
(8) 論文査読: Surgery Today および Surgical Case Reports 投稿論文査読 1 編につき 5 単位(単位は仮)	

3. 臨床現場を離れた学習

臨床現場以外でも知識やスキル獲得のため学会やセミナーに参加する。セミナーには学会主催または専門研修施設群主催の教育研修(医療安全、感染対策、医療倫理、救急など)、臨床研究・臨床試験の講習(eラーニングなど)、外科学の最新情報に関する講習や大動物(ブタ)を用いたトレーニング研修が含まれる。医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会の受講はそれぞれ1単位合計3単位を必須とする。(1回の講習は1時間とし、1時間の講習受講をもって1単位と算定)

4. 自己学習

自己学習は、生涯学習の観点から重要である。外科領域は広範囲にわたるため、研修施設での臨床修練だけでなく書籍や論文などを通読して幅広く学習する。さらに日本外科学会が作成しているビデオライブラリーや日本消化器外科学会が用意している教育講座(eラーニング)、各研修施設群などで作成した教材などを利用して深く学習する。

5. 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

各専門研修プログラムで年度次ごとの研修目標と修練内容を設定し、個々の専攻医に合わせた研修計画を示して、年度毎の修練プロセスを明示する。また、年度毎に到達度の自己評価および指導評価を受け、付属分については次年度での研修を行う。

専門研修1年目

知識: 外科診療に必要な基礎的知識・病態を習得す。

技能: 外科診療に必要な検査・処置・手術(助手)・麻酔手技・術前術後のマネージメントを習得する。外傷領域、消化管および腹部内臓領域、乳腺領域、小児外科領域、およびそれぞれ領域の内視鏡外科の研修

態度: 医の倫理や医療安全に関する基盤の知識を持ち、指導医とともに患者中心の医療を行う

■希望診療科Aに所属し、消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、腎臓外科、(麻酔科、救命救急)の研修を行う<経験症例150例、術者30例>

専門研修2年目

知識: 専門研修2年間で専門知識、専門技能、経験症例の知識を習得する。

技能: 専門研修1年目の研修事項を確実にこなせることを踏まえ、不足した領域の症例経験と低難度手術から術者としての基本的スキル修得を目指す。外傷領域、呼吸器領域、心臓・大血管、末梢血管領域、頭頸部・体表・内分泌外科領域、およびそれぞれ領域の内視鏡外科の研修

学問: 経験した症例の学会発表を行う基本的能力を身に付ける。

態度：医の倫理や医療安全を習得し、プロフェッショナリズムに基づく医療を実践できる。

- 消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、腎臓外科（麻酔科、救命救急）、または連携施設の研修を行う <経験症例200例、術者60例>

専門研修3年目

知識：サブスペシャリティまたはそれに準じた外科関連領域の基盤となる外科領域全般の専門知識、専門技能、経験症例の知識を習得する。

技能：専門研修2年間で修得できなかった領域の修得を目指す。専門研修2年間の研修事項を確実にこなせることを踏まえ、より高度な技術を要するサブスペシャリティ（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の研修を進める。

学問：学会発表・論文執筆の基本的知識を身に付ける。

態度：倫理感に根ざした患者中心の安全な医療を実践し、研修医や学生などのロールモデルとなる。




- 消化器・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、腎臓外科（麻酔科、救命救急）、連携施設で外科研修を行う。<経験症例200例、術者60例>

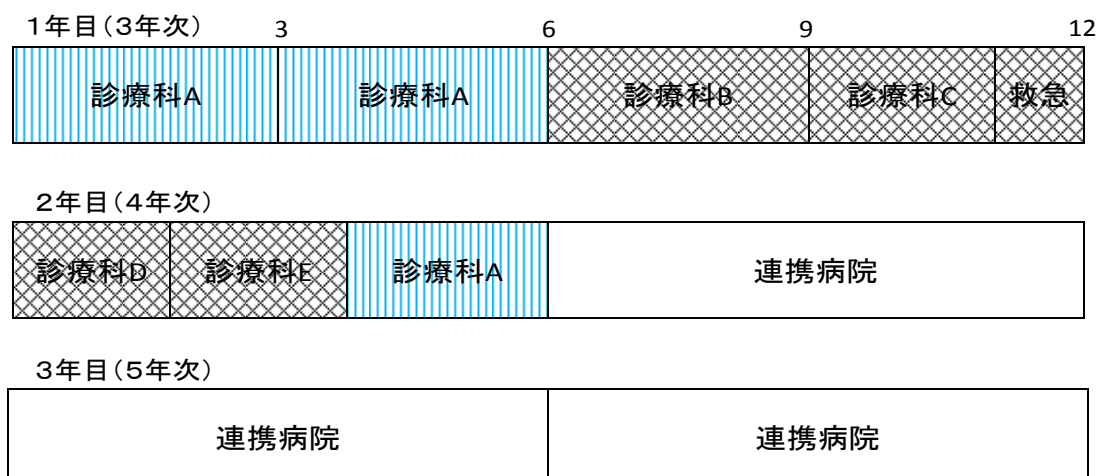
ただし不足症例に関しては、各領域に特化した施設及び本学をローテートし到達度の達成を目指す。また、3年間を通して学術発表20単位以上を目指す。

<具体例>

本大学外科専門研修プログラムの1例を下記に示す。

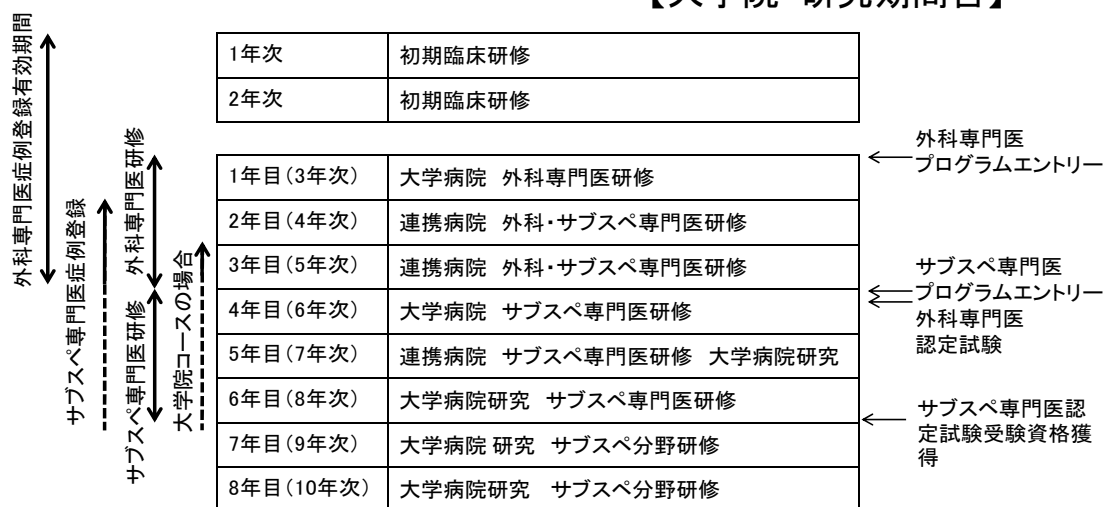
■外科研修プログラムの一例

-  所属希望診療科
-  所属大学ローテーション
-  連携施設



■ 初期からサブスペシャリティ研修の一例

【大学院・研究期間含】



- ・ 5年間の研修で6年次に外科専門医を取得
- ・ 外科専門医研修期間中にサブスペ専門医研修へのエントリーを決定
- ・ 7年間の研修で(8年次に)サブスペ専門医受験資格獲得を目指す
- ・ 大学院コース(4年間)は基本3年目より開始。症例数によって外科専門医研修期間(通常3年間)を延期する場合あり

<研修期間>

専攻医の研修期間は初期臨床研修修了後3年(以上)とする。

<研修スケジュール>

※初期臨床研修修了時の到達度をチェックした上で、1年目に麻酔科、救命救急の研修を行う場合がある。

1年次	東京女子医科大学病院	消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、内分泌外科、外科、(麻酔科、救命救急)
2年次	東京女子医科大学病院/連携施設	研修進捗により年次初めからの連携施設研修可能である
3年次	東京女子医科大学病院/連携施設	不足症例に関して各領域をローテート

【消化器・一般外科連動型の概要】

4年次	東京女子医科大学病院消化器外科	消化管外科/肝胆膵外科/移植外科
5年次	連携施設 東京女子医科大学病院消化器外科	消化器外科専門医症例を経験する サブスペシャリティ外科専属

【心臓血管外科連動型の概要】

4年次	連携施設 東京女子医科大学病院心臓血管外科	成人心臓血管外科/小児心臓血管外科/補助心臓班ローテーション/連携施設ローテーション
5年次	連携施設 東京女子医科大学病院心臓血管外科	成人心臓血管外科/小児心臓血管外科/補助心臓班ローテーション/連携施設ローテーション

【呼吸器外科連動型の概要】

4年次	東京女子医科大学病院呼吸器外科	呼吸器外科全般
5年次	連携施設 東京女子医科大学病院呼吸器外科	呼吸器外科専門医症例の経験 サブスペシャリティ外科専属

【小児外科連動型の概要】

4年次	東京女子医科大学病院小児外科 連携施設	日本小児外科学会認定施設または教育関連施設で、小児外科専門医症例を経験する
5年次	東京女子医科大学病院小児外科 連携施設	日本小児外科学会認定施設または教育関連施設で、小児外科専門医症例を経験する

【乳腺外科連動型の概要】

専攻医 1,2,3年次とも、乳癌学会認定施設あるいは認定関連施設での研修が必須。

4年次	東京女子医科大学病院乳腺内分泌外科	乳腺外科専属、乳腺認定医症例を経験、学位研究開始、外科専門医取得
5年次	東京女子医科大学病院乳腺内分泌外科	乳腺外科専属、乳腺専門医症例を経験、乳腺認定医取得

【内分泌外科連動型の概要】

4年次	東京女子医科大学病院乳腺内分泌外科	内分泌外科&乳腺外科の研修
5年次	連携施設 東京女子医科大学病院乳腺内分泌外科	内分泌外科専門医取得に向けて基本の手術を術者として経験

【腎臓外科連動型の概要】

4年次	東京女子医科大学病院腎臓外科	腎臓移植、バスキュラーアクセス手術
5年次	連携施設	外科専門医取得に向けて研修

- ①初期臨床研修修了時の外科症例経験は NCD 登録によって確認し、研修スケジュールは柔軟に対応する
- ②1年次（卒後3年目）は基幹施設で研修する
- ③2年次3年次のうち少なくとも1年間は連携施設で研修する
- ④原則、ローテーションは本人の希望優先とする。ただし、外科専門医を取るにあたり足りない症例を第一に経験させる為、多少の変更はある
- ⑤希望を出した上で、経験症例を加味し連携施設を決定する

<研修の週間および年間スケジュール>

① 間スケジュール (本学消化器・一般外科の場合)

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
7:30~8:30	症例カンファレンス							
7:30~8:30	抄読会・緊急手術報告							
8:30~9:00	教授回診							
18:00~19:00 不定期	内科外科病理合同カンファレンス							
8:00~9:00	医局会・スタッフ会議 (1回/月)							
18:00~19:30	消化器病フォーラム (不定期)							

※他の週間スケジュールは各診療科紹介及び連携施設紹介ページを参照

②年間スケジュール (案)

月	全体行事予定	
4	<ul style="list-style-type: none"> 外科専門研修開始。オリエンテーションにて研修マニュアルおよび研修手帳の配布。 日本外科学会参加予定 (発表)。 	医療安全講習会、 感染対策講習会、 医療倫理講習会は 1年目で受講とする 各学会の年次総会、 定期学術集会等は各 診療科の研修中に参 加予定とする
5	<ul style="list-style-type: none"> 研修修了者：専門医認定審査申請・提出 	
8	<ul style="list-style-type: none"> 研修修了者：専門医認定審査 (筆記試験) 	
11	<ul style="list-style-type: none"> 臨床外科学会参加予定 (発表)。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> 専攻医：研修目標達成評価および経験症例数の作成 研修プログラム評価報告の作成 指導医、指導責任者：指導実績報告の作成 	
3	<ul style="list-style-type: none"> その年度の研修修了 専攻医：その年度の研修目標達成評価および経験症例数の報告書提出 指導医、指導責任者：前年度の指導実績報告書提出 研修プログラム管理委員会開催 	

<施設群による研修プログラムおよび地域医療について>

①本研修プログラムでは、地域の連携施設とともに病院施設群を構成している。専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能である。大学の研修で不足しがちな **common diseases** の症例を地域の連携病院で経験し、医師としての基本的な力を獲得するプログラムとしている。多種多様な症例を経験するために、本大学および地域の連携施設で研修を行うことが重要である。また、指導内容や経験症例数に不公平が生じないように十分配慮する。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、本大学外科専門研修プログラム管理委員会が決定する。

②地域の連携病院では多くの症例を経験することができる。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶ。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめる。

- ◆本研修プログラムの連携施設には、その地域における地域医療の拠点となっている施設があり、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能。
- ◆地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解し実践する。
- ◆消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療が経験できる。

<研修評価・修了>

- ①指導医マニュアルに沿って専攻医を形成的に評価する
 - (1) 専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価する。
- ②研修施設の移動やローテーション毎に、研修マニュアルに基づく研修目標達成度評価を行い、研修プログラム管理委員会に報告する
- ③3年次（卒後5年目）専門研修プログラム修了時に外科専門医研修プログラム管理委員会にて総括的評価を行う
 - (1) 知識、病態の理解度、処置や手術手技の到達度、学術業績、プロフェッショナルとしての態度と社会性など、年度ごとに行われる形成的評価を参考に評価する。最終年度の専攻医指導評価と目標達成度評価報告で基準以下（到達レベルDまたは1.劣る）の場合は未修了とする
 - (2) 多職種（看護師など）のメディカルスタッフの意見も取り入れて評価を行う
 - (3) 研修期間中の休止期間が規定を超える場合、専門研修修了時に未修了扱いとし、原則、引き続き同一の専門研修プログラムで研修を行い、規定を超えた休止日数分以上の日数の研修を行う

<研修修了認定>

3年次（卒後5年目）専門研修プログラム修了時に外科専門医研修プログラム管理委員会より、総括的評価にて修了要件を満たした者に対しては、外科専門医研修修了証を交付する

<プログラム修了後の進路>

東京女子医科大学のサブスペシャリティのプログラムに移行可能である。また、他施設のサブスペシャリティ単独型コースへの移行も可能である

<専門医研修期間の猶予>

- ① 3年間の専門研修プログラムにおける休止期間は最長180日とする。
- ②妊娠・出産・育児、傷病・その他の正当な理由による休止期間が180日を超える場合、研修延期となり、引き続き同一の専門研修プログラムで休止日数分以上の研修を行う。
- ③大学院（研究専任）、または留学などによる研究専念期間が6か月を超える場合、研修延期となり、②同様、休止日数分以上の研修を行う。（ただし大学院コースの場合は例外とする。）
- ④専門研修プログラムの移動は原則認めない。（ただし、結婚・出産・傷病、親族の介護、その他正当な理由などで同一のプログラムでの専門研修継続が困難となった場合で、本人より申し出があり、外科研修委員会の承認があれば、他の外科専門研修プログラムに移動できる。）
- ⑤症例経験基準、手術経験基準を満たしていない場合にも未修了として取扱い、原則として引き続き同一の専門研修プログラムで当該専攻医の研修を行い、不足する経験基準以上の研修を行うことが必要である。
ただし、休止期間中の学会参加実績、論文、発表実績、講習受講実績は、専門医認定要件への加算を認める。（中断期間中のものは認めない。）

<専門研修実績記録システム、マニュアル等>

研修実績および評価の記録

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。

専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価および専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価を保管する。

プログラム運用マニュアル

◆専攻医研修マニュアル ※別紙「専攻医研修マニュアル」参照

◆指導者マニュアル ※別紙「指導者マニュアル」参照

◆専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録、手術症例はNCDに登録

◆指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録

<専攻医募集及び選考方法>

- ①応募時期：公募
- ②応募人数：20名
- ③応募書類：願書、履歴書、写真（無帽上半身・カラー光沢3×4cm）、最終学歴卒業証明書、医師免許証（写し）、健康確認票（指定書式）、初期研修修了（見込み）証明書（書式不問）
- ④選考方法：試験（小論文）、面接
- ⑤選考時期：未定（詳細は病院HPで確認）※募集定員に満たない場合は追加試験あり
- ⑥選考結果：専攻医登録システムによりメールにて通知予定

<身分及び待遇>

- ①身分：東京女子医科大学病院の後期研修医（常勤）として採用する
- ②給与：本学規定により支給
- ③保険関係：本学健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険に加入

<資料請求先>

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
東京女子医科大学病院 卒後臨床研修センター
TEL 03-3353-8111（内線20331～2）
FAX 03-5269-7825
e-mail sotsuken.bm@twmu.ac.jp

東京女子医科大学病院

診療科紹介

診療科名：消化器・一般外科

1. 診療科の特徴

創立者である中山恒明先生の理念のもと、優れた臨床医の育成を目指した卒後研修として医療練士制度を骨格とした卒後臨床研修が中心となり、多くの同門生を輩出しています。

中心理念は“患者さんを中心とした医療”であり、心温かな良い臨床医を育てることを目標にしています。5年間のプログラムを完遂することで、どのような消化器病疾患にも対応可能である医療人を育成いたします。初期1年間は上部・下部消化管・肝・胆・膵グループをローテーションします。同時に内視鏡検査・超音波検査・レントゲン検査、病理の基本を学び診断から治療まで総括的な研修を行います。消化器外科医でありながら内視鏡専門医の習得も可能です。2年目からは2年間研修連携病院にて初期1年間で学んだことの実践、あわせて手術手技の研鑽を積みます。最後の2年間は大学へ帰局し、サブスペシャリティとしての研究班にフィックスし、より高い専門性を持った研修を行います。また内視鏡や超音波、IVRなどは診断のみならず、ESDやENBD・RFA・TACEなど治療の実践を目的とした研修を行います。

2. 指導医・外科スタッフ（11名）

教授・講座主任	山本雅一	講師	小寺由人
教授	江川裕人	講師	大木岳志
教授	板橋道朗	講師	樋口亮太
准教授	井上雄志	講師	小川真平
准教授	有泉俊一	講師	成宮孝祐

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	318人	189.2人
2015年	300人	172.2人
2016年	332人	178.0人

※消化器病センター（内科・外科両方含む）の患者数

②許可病床数

108床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数
2014年	1,054件
2015年	846件
2016年	1023件
平均	974.3件

経験可能数
974件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
食道亜全摘再建術	42 件	0 件	42 件
胃悪性腫瘍手術	189 件	30 件	159 件
結腸・直腸切除術	142 件	50 件	92 件
炎症性腸疾患	31 件	10 件	21 件
肝切除術	144 件	20 件	124 件
膵臓悪性腫瘍手術	66 件	0 件	66 件
胆道疾患手術	97 件	50 件	47 件
肝移植術	12 件	0 件	12 件
合 計	1023 件	160 件	863 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器の疾患についてはすべての疾患を網羅し、食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵などすべての消化器（胃腸科）疾患に対する検査、治療を行っている。検査はレントゲン、内視鏡、超音波（エコー）、CT、MRI などを主に行い、治療では内科的、外科的治療の他、ESD 等の内視鏡治療や腹腔鏡手術も行っている。また肝癌に対するラジオ波治療や肝動脈塞栓術(TACE)にも力を入れている。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
7:30～8:30	症例カンファレンス							
7:30～8:30	抄読会・緊急手術報告							
8:30～9:00	教授回診							
18:00～19:00 不定期	内科外科病理合同カンファレンス							
8:00～9:00	医局会・スタッフ会議（1回/月）							
18:00～19:30	消化器病フォーラム（不定期）							

5. 診療実績

手術件数

上部消化管手術	231 例
下部消化管手術	173 例
肝胆膵手術	319 例
肝動脈塞栓術	120 例
ラジオ波凝固療法	80 例
肝移植術(生体・脳死)	12 例

診療科名：心臓血管外科

1. 診療科の特徴

日本心臓血管研究所として 1951 年の開設以来、積み重ねた症例数は 35,000 例を超えており、国内随一の high volume center として心臓血管外科領域の手術を行っている。虚血性心疾患や大動脈疾患、弁膜症、先天性心疾患のみならず重症心不全に対する植込型補助人工心臓 (VAD)、心臓移植、さらには血管内治療 (ステントグラフト、ステントバルブ等) と、心臓血管外科領域のあらゆる専門分野の手術を行っている。当科ではこれら全ての疾患とそれに対する手術、術後管理を網羅的に研修することを必須としている。当科における研修は、専門医となるための必須条件を満たしており、将来、心臓血管外科領域の中で更に専門分野の選択する際にも、選択肢の幅は最大限にあるのが特徴である。

① 豊富な症例数と幅広い専門分野

虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患、重症心不全/心臓移植、血管内治療の各分野の研修・研究を行う。重症例の術後管理を成し得るよう指導し、また早期から基本手技を習熟できる体制をとっている。ICU での術後管理は、特に心臓血管外科手術術後の予後に大きく影響するために、その研修は必須となっている。IABP、PCPS、CHDF などに加え、高度低心機能症例、VAD (補助人工心臓) や心臓移植後の術後管理、急変時の対応の技術・知識を習得する。基本的な気管内挿管、胸腔穿刺、中心静脈カテーテル挿入から、IABP や PCPS の挿入など、重症例の管理を行うにあたって必須の手技に関しては、早期より上級医の指導のもとに積極的に習熟する体制をとっている。また、若手医師にむけた勉強会も行い知識の習得にも力を入れている。Wet labo の開催、さらには国内外での学会発表、論文執筆を積極的に薦めている。

心臓血管外科の ICU 管理に麻酔科の心臓血管外科専門チーム (TCAT) も加わり、共に術後管理を行うことで、さらなる成績の向上を目指している。朝の ICU ラウンドでは、心臓血管外科医師、担当看護師だけでなく、麻酔科医、臨床工学士、薬剤師も参加し、多職種による多角的なディスカッションのもと、治療にあたっている。

さらに近年、VAD (補助人工心臓) や心臓移植の領域において、「ハートチーム」の重要性が指摘されている。当科では医師 (心外・循環器内科)・看護師・臨床工学技士・リハビリ・リエゾン・移植コーディネーターなど多くの職種からなるシームレスな重症心不全チームを結成しており、患者中心の医療を提供できるように努めている。

2014 年 4 月からは、最新式のハイブリッド手術室を導入し心血管治療においても高度なチーム医療を実践している。とりわけ動脈瘤治療の分野では、開窓型ステントグラフト (高度医療機器承認、グッドデザイン賞受賞) を導入することで、日本で初めてステントグラフト実施基準の施設認定を取得して以来、世界最高水準の大動脈瘤の血管内治療を展開している。循環器内科とのハートチームによる経皮的動脈弁置換術や、エキシマレーザーによるペースメーカーリード抜去など、この施設でしか経験できない治療も数多く行っている。

② 海外留学、研究などの選択肢の多様性

当科では、海外留学を積極的に進めており、世界各地の施設に常時 5～6 名の医局員が留学している。また大学院での研究も可能で、自分が興味のある研究テーマを研究することが可能である。本学はもとより、TWIns (東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医学研究施設) での研究や、他施設や他科との共同研究も可能となっている。

③ 豊富な関連病院

当科は心臓血管外科黎明期から手術を行い、多くの心臓外科医を輩出し、全国各地の病院に心臓血管外科を立ち上げてきたという歴史的背景があり、年間症例数 100～200 の開心術を行っている関連病院が多数ある。関連病院・出向先には、東京女子医科大学八千代医療センター、東京女子医科大学東医療センター、仙台循環器病センター、北海道循環器病院、松戸市立総合医療センター、聖隷浜松病院、山梨県立中央病院、長野中央

病院、岐阜県立総合医療センター、済生会熊本病院、綾瀬循環器病院、伊勢崎市民病院、国立循環器病研究センター、千葉県こども病院、国立病院機構横浜医療センター、富山県立中央病院、長野県立こども病院、愛媛県立中央病院、福山循環器病院、荻窪病院、佐久総合病院、愛媛大学、手稲溪仁会病院、市立函館病院、千葉西総合病院、さいたま市立病院、大和成和病院、日高病院、等がある。

④ 先端医療

東京女子医科大学・早稲田大学で研究開発を行った植込型補助人工心臓 EVAHEART は良好な治療成績を上げ厚生労働省より承認を受け、市販後も良好な成績を上げている。成人・小児の心臓移植認定施設となっている。組織工学を応用した再生血管の臨床応用を世界に先駆けて行った他、虚血性心疾患を持つ重症心不全への世界初の筋芽細胞シート移植の治験に参画し良好な結果を得た。弓部大動脈瘤や分岐部の複雑病変に対する開窓型ステントグラフト治療を多数行っており良好な成績を上げている。ステントバルブ (TAVI) も内科・外科協同ハートチームにより行っている。

⑤ 大学院

希望により大学院へ入学することが可能である。研究テーマに関しては教授・講座主任と相談して、興味ある分野での研究が可能である。

2. 指導医・外科スタッフ (9名)

教授・講座主任	新浪 博	准教授	新川武史	講師	松村剛毅
准教授	齋藤 聡	講師	菊地千鶴男	講師	道本 智
准教授	西中知博	講師	齋藤博之	医局長	駒ヶ嶺正英

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	38.0人	47.1人
2015年	36.0人	47.6人
2016年	35.0人	42.8人

②許可病床数

40床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数	経験可能数
2014年	523件	479件
2015年	514件	
2016年	479件	
平均	505件	

④症例別経験可能数 (術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載)

症例	手術数	術者として	助手として
開心術 (各グループ配属時)	50~100件	数件	50~100件
非開心術 (ペースメーカー等を含む)	20~50件	10前後件	20~50件
創傷処置・IABP等・必須外科処置	件	件	件
合計	70~150件	10~20件	70~150件

⑥ 取り扱っている疾患の特徴

先天性心疾患・成人先天性心疾患・虚血性心疾患・弁膜症・大血管・不整脈・心筋症

を含む重症心不全など、全ての心血管疾患を対象としている。補助人工心臓を使った重症心不全治療と再生医療で国内外の中心的役割を担っている。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
7:20~7:50	カンファレンス							
7:50~8:20	講座主任総回診							
8:30/17:00/終了時	心臓病 ICU 申し送り							
9:00	手術 (成人)							
9:00	手術 (小児)							
9:00~	外来							
8:15~8:45	心外・循内合同カンファレンス							
9:00~	スタッフミーティング							
17:00~18:00	心不全・移植カンファレンス							

5. 診療実績 (2017年)

成人心臓血管外科

大血管手術 (上行大動脈、弓部大動脈、下行大動脈を含む)	32例
冠状動脈バイパス術 (On pump、Off pump)	79例
弁置換・形成術	84例
ステント治療 (TEVAR・EVAR)	72例
心移植	3例
補助人工心臓	5例
心臓腫瘍	9例

小児心臓血管外科 (2016年)

新生児 (18例)

鎖骨下動脈フラップ術+肺動脈絞扼術	1例
ジャチーン手術	3例
ブラロック氏手術	4例
心室中隔欠損症根治術	1例
総肺静脈還流異常症手術	2例
両側肺動脈絞扼術	2例
肺動脈絞扼術	2例
動脈管開存症手術	3例

乳児 (39例)

鎖骨下動脈フラップ術+肺動脈絞扼術	1例
ダムス・ケー・スタンベル+右室肺動脈シャント術	1例
ブラロック氏手術	7例
肺動脈絞扼術	5例
総肺静脈還流異常症手術	2例
心室中隔欠損症根治術	7例
房室中隔欠損症手術	3例
ノルウッド手術	1例
僧帽弁置換術	1例
両方向性グレン手術	2例
補助心臓移植術	1例
心房中隔欠損症根治術	2例
大動脈肺動脈窓手術	1例
ファロー四徴症手術	2例
右室流出路形成術	2例

共通房室弁形成術	1 例
----------	-----

1～15 才 (37 例)

心外導管型フォンタン術	5 例
安井手術	1 例
冠動脈形成術	2 例
ラステリー手術	4 例
ファロー四徴症手術	4 例
両方向性グレン手術	2 例
不完全型房室中隔欠損症根治術	3 例
部分肺静脈還流異常症手術	1 例
大動脈弁上狭窄解除術	1 例
主要大動脈肺動脈側副血行路手術	4 例
右室流出路形成術 (Palliative を含む)	3 例
心房中隔欠損症根治術	7 例
補助心臓移植術	2 例
肺動脈狭窄症解除術	1 例

15 才～ (28 例)

三尖弁形成術	1 例
三尖弁置換術	1 例
肺動脈狭窄症解除術	2 例
右室流出路形成術	1 例
肺動脈弁置換術	2 例
大動脈弁置換術	7 例
部分肺静脈還流異常症手術	1 例
僧帽弁置換術	1 例
僧帽弁形成術	1 例
上行大動脈置換術	1 例
TCPC conversion	7 例
ペースメーカー関連手術	1 例
心外導管型フォンタン術	1 例
右室流出路形成術	1 例
心室中隔欠損症根治術	1 例

診療科名：呼吸器外科

1. 診療科の特徴

疾患としては肺腫瘍（肺癌に加え、良性、悪性）、縦隔腫瘍（胸腺腫、胸腺癌、気管支原生嚢胞など）、嚢胞性肺疾患（気胸、巨大肺嚢胞など）が多く、その他には重症筋無力症、胸膜中皮腫、膿胸、喀血症例など、呼吸器外科全般について診療を行っている。約9割の症例は胸腔鏡下手術であるが、開胸手術では、血管形成、気管支形成など拡大手術を行っている。また、硬性・軟性気管支鏡を用いたインターベンション治療では、気管気管支内レーザー焼灼、ステント挿入術、気管支充填術を行っている。近年は、肺癌、縦隔腫瘍、重症筋無力症症例では、ロボット手術支援装置を用いて縦隔腫瘍摘出術、肺葉切除術を施行している。

2. 指導医・外科スタッフ（4名）

教授・診療部長	神崎正人	講師	井坂珠子
准教授	村杉雅秀	助教	松本卓子

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	35人	22人
2015年	35人	20人
2016年	39人	16人

②許可病床数

22床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数
2014年	300件
2015年	266件
2016年	276件
平均	280件

経験可能数
82件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
気胸 胸腔鏡下肺部分切除術	8件	5件	3件
転移性肺腫瘍 胸腔鏡下部分切除術	15件	12件	3件
縦隔腫瘍摘出術	4件	1件	3件
肺癌 胸腔鏡下肺部分切除術	18件	5件	13件
肺癌 胸腔鏡下肺区域切除術	15件	2件	13件
肺癌 胸腔鏡下肺葉切除術	16件	1件	15件

気管支鏡下レーザー、ステント	4件	1件	3件
膿胸	2件	1件	1件
合計	82件	28件	44件

⑤取り扱っている疾患の特徴

当科では、胸部領域の心臓以外、つまり、胸壁、気管、気管支、肺、縦隔、横隔膜などの部位の疾患、手術を扱っている。疾患としては、肺癌がもっとも多く、ついで、転移性肺腫瘍、気胸などの嚢胞性肺疾患、縦隔腫瘍などが多い。また、大学病院であることより、他疾患合併症例（先天性心疾患術後を含む、心臓血管合併症例、腎移植後、糖尿病合併症例、他臓器悪性腫瘍合併症例など多岐にわたる）を多く認める。

当科で施行している術式の特徴は、肺癌、転移性肺腫瘍などの悪性疾患のほか、良性疾患においても、できるだけ肺機能温存を目的として、肺を少なく切除するために、区域切除が多く施行している点である。術前のCTよりCTTRYを用いて、肺の三次元画像（血管、気管支）を作製し、切除範囲の術前シミュレーションを行うことで、よりスムーズな、完全鏡視下手術が可能となっている。この方法によって、肺門部に近い腫瘍や、肺切除術後の腫瘍など、解剖学的に変化した症例であっても、肺の切除が可能となっている。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～8:40	抄読会 症例カンファレンス							
9:00～	手術							
9:00～12:00	午前外来							
1:30～4:00	午後外来							
9:00～17:00	病棟業務							
9:00～10:00	総回診							
8:40～8:50	朝回診							
16:00～16:30	夕回診							
18:00～19:00	呼吸器カンファレンス（月1回）							

5. 診療実績

2015年症例 実績	症例数	胸腔鏡下手術症例
肺癌 肺葉切除	66例	61例
肺区域切除	23例	22例
部分切除	17例	16例
転移性肺腫瘍 部分切除	35例	35例
区域切除	10例	10例
縦隔腫瘍	21例	16例
膿胸	7例	7例
気胸、嚢胞性疾患	31例	31例
ロボット支援下手術	2例	

診療科名：小児外科

1. 診療科の特徴

東京女子医科大学小児外科は、第二外科学講座内に属する独立した診療科であり、都内でも有数の日本小児外科学会認定施設に認定されている。第二外科学講座は、乳腺・内分泌外科、小児外科で構成されており、小児外科専門医取得のための必須条件である外科専門医取得に際し、講座内および関連施設を中心とした研修ができるという利点がある。

また、小児科、腎臓小児科、循環器小児科、母子総合医療センター新生児部門、脳神経外科小児部門とともに小児総合医療センターが設立されており、高度な小児チーム医療の中で小児外科の研修を行うことが可能である。

2. 指導医・外科スタッフ（ 2名 ）

臨床教授 世川 修

助教 山口隆介

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	9人	4.4人
2015年	9人	4.3人
2016年	9人	4.3人

②許可病床数

5床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数
2014年	248件
2015年	243件
2016年	205件
平均	232件

経験可能数

150件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
鼠径ヘルニア	53件	15件	25件
停留精巣、遊走精巣	25件	10件	15件
包茎	15件	4件	6件
臍ヘルニア	11件	3件	3件
虫垂炎	6件	4件	3件
その他、小手術	20件	10件	10件
合 計	130件	46件	52件

⑤取り扱っている疾患の特徴

小児外科の対象疾患は出生直後の新生児期から学童期(16歳未満)までの頭頸部・呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌臓器・体表・小児腫瘍であり、小児泌尿生殖器も含めた幅広い小児外科研修が可能である。当院では、小児総合医療センター内の各診療科が、非常に高度で専門性の高い小児医療を行っているため、診断・治療が困難である高度な合併奇形を有する小児症例が多いことが、大きな特徴となっている。

また、日本内視鏡外科学会技術認定取得医(小児外科領域)による腹腔鏡・胸腔鏡を用いた小児内視鏡手術や、小児消化器内視鏡診断・治療が大きな特徴となっており、最先端の小児内視鏡外科手術を研修することができる。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
午前、午後	外来業務							
午後	外来透視検査、処置							
午前、午後	手術							
手術終了後	教授回診							
午前	症例検討会							
午後	手技練習会							
午後	入院透視検査、処置							

5. 診療実績

・年間手術実績

鼠径ヘルニア根治術(腹腔鏡を含む)	: 53件
精巣固定術	: 25件
環状切開術	: 15件
臍形成術	: 11件
消化器内視鏡検査および処置	: 10件
人工肛門造設術	: 6件
気管切開術	: 5件
腹腔鏡下虫垂切除術	: 5件
腹腔鏡下噴門形成術および胃瘻造設術	: 5件
膀胱尿管逆流症手術	: 4件
腸閉塞手術	: 4件
尿道下裂手術	: 3件
漏斗胸手術	: 2件
鎖肛根治術	: 2件
腎瘻造設術	: 2件
審査腹腔鏡	: 2件
尿膜管遺残症手術	: 2件
その他	: 約100件

・新生児手術年間症例

: 12件

診療科名：乳腺内分泌外科

1. 診療科の特徴

乳腺の診療では、年間 250~300 症例の乳癌手術を行っており、近年同時再建症例も増加している。超音波や乳管内視鏡検査を用いた早期乳癌の診断にも力を入れており、薬物療法や放射線治療などの集学的治療も積極的に行っている。大学ならではの心疾患、腎疾患、糖尿病、リウマチ・膠原病などの合併症を有した症例経験も豊富である。

内分泌領域では甲状腺腫瘍や副甲状腺機能亢進症のほか副腎腫瘍、希少疾患である多発性内分泌腫瘍症、副腎癌そしてまれな内分泌癌（甲状腺髄様癌、甲状腺未分化癌、副甲状腺癌、副腎癌、悪性褐色細胞腫）などを経験している。

乳腺内分泌領域の疾患は専門性が高いが一般外科の診療で遭遇することも稀でない。職業人としての確かな判断と対応ができるよう、まず基本となる知識と技能を身に付ける研修を行う。また、乳腺内分泌外科にとどまらず、関連病院とも密に連携して幅広い一般外科診療の能力を磨くこともできる。

大学院を含め、学位取得を積極的に支援している。医学研究は新しい知識や技術を創造する知的活動である。価値ある成果を得るために心を砕き、それを伝える言葉の選び方、使い方にも気を遣うことは普段の臨床で「他を思う心」（仁）にも繋がる。大学で学ぶことの意義がここにある。

「安心を届け、つらさを分かち合う」医療を実践するために生涯をかけて知識、技能、そして態度を学び続ける。私たちはそういう価値観を共有している。

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

教授・講座主任	岡本高宏
教授	神尾孝子
講師	堀内喜代美
准講師	坂本明子
准講師	尾身葉子

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	109人	22人
2015年	48*人	13*人
2016年	99人	16人

*内分泌外科のみの数字です

②許可病床数

18床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数
2014年	560件
2015年	505件
2016年	556件
平均	540件

経験可能数
168件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数（2016年実績）	術者として	助手として
甲状腺悪性腫瘍	95件	7件	88件
甲状腺良性腫瘍、バセドウ病	38件	10件	28件
原発性副甲状腺機能亢進症	61件	18件	43件
続発性副甲状腺機能亢進症	5件	4件	1件
副腎腫瘍	21件	0件	21件
乳がん	305件	70件	235件
合計	556件	168件	388件

* 術者としての症例数は、実際に2016に後期研修医が経験をした数です。

⑤取り扱っている疾患の特徴

乳腺、甲状腺、副甲状腺そして副腎などホルモンが関与する臓器の疾患を扱っている。これらの臓器に生じた腫瘍や機能亢進症を外科的に治療する。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00~17:00	手術	■		■		■		
9:00~17:00	外来	■	■	■	■	■	■	
7:30~17:00	病棟業務	■	■	■	■	■	■	
8:00~8:45	朝カンファレンス	■		■		■		
8:00~8:40	総回診		■		■			
16:20~16:40	エビデンス レビュー	■		■		■		
16:40~17:00	術後カンファレンス	■						
17:00~17:40	レサーチワークショップ（第三水曜日）			■				
17:05~17:45	放射線・病理・外科カンファレンス （第二水曜日）			■				
18:00~18:40	内分泌センター合同カンファレンス （2ヵ月毎）	■						
18:00~19:00	オープンリサーチプロジェクト（任意）	■		■		■		

5. 診療実績

上記3に示したとおりである。

診療科名：腎臓外科

1. 診療科の特徴

腎臓、膵臓などの臓器移植、腎不全外科、一般外科、血液浄化療法、人工臓器の研究と診療を行っている。腎移植、膵移植の分野では国内随一の症例数を有し、新規の免疫抑制療法や術式等を内外に発信し、生存率、生着率等においても良好な成績を収めている。研究面では移植免疫寛容、異種移植等の基礎研究、臨床研究に携わっている。本教室の研究・診療の目標は、臓器不全に対して総合的にアプローチすることであり、さまざまな方向から患者本位の医療の発展に向け力を注いでいる。

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

准教授 瀧之上昌平

講師 中島一朗

准講師 廣谷紗千子

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	63人	25人
2015年	61人	22人
2016年	68人	21人

②許可病床数

25床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数
2014年	1,534件
2015年	1,498件
2016年	1,396件
平均	1,476件

経験可能数
200件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
生体腎移植術	90件	10件	35件
屍体腎移植術	10件	2件	8件
膵移植術	10件	0件	5件
屍体腎摘出術	10件	3件	7件
屍体膵摘出術	10件	3件	7件
移植用腎採取術	90件	5件	40件
バスキュラーアクセス手術	700件	100件	200件

経皮的血管拡張術	700 件	100 件	200 件
副甲状腺全摘術	20 件	5 件	5 件
一般外科・腹部外科手術	20 件	10 件	10 件
合 計	1,660 件	238 件	517 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

腎臓、膵臓などの臓器移植

透析用バスキュラーアクセスの手術、IVR

副甲状腺機能亢進症などの腎不全関連疾患の手術

その他一般外科手術

臓器移植、免疫低下状態における合併疾患（肺炎や悪性腫瘍など）の診療

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
午前 7 時 30 分	病棟回診							
午前 8 時	抄読会							
午前 8 時	症例検討会							
午前 8 時	医局会（第二木曜日）							
午前 8 時	勉強会（第一、三、四木曜日）							

5. 診療実績

腎移植は 1971 年に第 1 例目を実施し、現在まで症例を積み重ねているが、1990 年代には年間 30 数例であった腎移植件数は年々数を増やし、2009 年からは年間 100 例前後で推移している。膵移植に関しては 1990 年より心停止ドナーから 11 例、臓器移植法定後からは脳死ドナーからの移植を 40 例以上実施している。膵、腎ともに国内有数の症例数であり、high volume center として我が国の臓器移植の一翼を担い、さまざまな臨床研究（血液型不適合移植、免疫寛容導入療法など）を国外にも発信している。

バスキュラーアクセスの治療では、関東一円を医療圏とし、年間 1500 件近い手術を実施している。アクセス作成困難例についても「最後の砦」としての地位を築き、腎不全治療に貢献している。

診療科名：救命救急・救急診療

1. 診療科の特徴

救命救急センターとして三次救急患者と Emergency Division: EmD (救急外来) での一次、二次患者の急性疾病に対応する。外傷患者の特徴として、三次救急では、交通外傷、墜落・転落外傷等による躯幹外傷に、頭部・四肢外傷を合併する多発外傷症例が主体である。また、EmD では、頭部外傷、四肢外傷を中心に、形成外科的な処置を要する軽症から中等症の外傷患者の対応にあたる。

2. 指導医・外科スタッフ (2名)

教授 矢口有乃 准教授 武田宗和

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	70人	35人
2015年	60人	30人
2016年	60人	30人

②許可病床数

35床

③2014-2016年のNCD登録数

	NCD登録数
2014年	112件
2015年	70件
2016年	36件
平均	72件

経験可能数
10件

④症例別経験可能数 (術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載)

症例	手術数	術者として	助手として
腹部外傷手術	5件	1件	4件
消化管穿孔	2件	1件	1件
腸間膜血行不全	1件	0件	1件
腹膜炎手術	2件	1件	1件
合計	10件	3件	7件

⑤取り扱っている疾患の特徴

主に、多発外傷による、躯幹内臓器損傷症例
術前、術後集中治療を必要とする重症急性腹症症例

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:30	朝カンファレンス（日・祝日は9:00-）							
9:30-10:30	午前回診（ICU・病棟）							
10:30-16:00	処置・検査含む病棟業務							
13:00-14:00	リハビリカンファレンス							
16:00-17:00	夕カンファレンス							
17:00-18:00	夕回診（ICU・病棟）							
17:30-18:00	脳外科・神経内科合同カンファレンス							
12:00-13:30	勉強会							
9:00-12:00	フォローアップ外来							
0:00-	ICU回診（当直勤務帯）							
9:00-17:00	救急外来日勤							
17:00-9:00	救急外来夜勤（原則翌日休日）							
	手術（原則待機手術なし）							

5. 診療実績

腹部外傷、急性腹症に対して24時間体制で緊急手術を行い、全身状態が不良な患者については、継続して救命救急センターでの集中治療による全身管理にも携わる。

救命救急ローテーション中、以下の下線に該当する項目の点数取得が可能である。

体幹（胸腹部）臓器損傷手術 3点（術者）、2点（助手）

上記以外の外傷手術（NCDの規定に準拠） 1点

- ・ 重症外傷（ISS 16以上）初療参加・・・1点
- ・ 日本外科学会外傷講習会受講・・・1点
- ・ 外傷初期診療研修コース受講・・・4点
- ・ e-learning 受講・・・2点
- ・ ATOM コース受講・・・4点
- ・ 外傷外科手術指南塾受講（日本 Acute Care Surgery 学会主催講習会）・・・3点
- ・ 日本腹部救急医学会認定医制度セミナー受講（分野 V(外科治療)－C.Trauma surgery）・・・1点

連携施設紹介

施設名：東京女子医科大学東医療センター

〒116-8567 東京都荒川区西尾久 2-1-10
TEL 03(3810)1111, FAX 03(3894)0282
URL [http:// www.twmu.ac.jp/DNH/](http://www.twmu.ac.jp/DNH/)

【1】外科

1. 地域における役割と施設の特徴

当外科は地域に密着した幅広い医療と大学病院としての特徴を生かした高度先端医療の提供の両立を目指しています。各診療領域の専門医のもと、手術手技の修得のみにとどまらず、各種内視鏡等の検査手技から術前診断、さらに化学療法まで、術前・術後を通した一連の診断・治療が行える優れた臨床医の育成を目指したカリキュラムを組んでおります。また、現医局員の3分の1以上が女性外科医のため、女性外科医のライフイベントも考慮した働きやすい職場作りにも配慮しています。外科のチームは全体で約20名のスタッフからなり、それは「食道・胃」、「胆道」、「大腸・肛門」、「小児外科」および「乳腺」の各専門領域の臨床グループで診療および研究活動を行っています。当科の研修ではすべてのチームをローテーションし幅広く消化器外科および乳腺外科を学び、外科に入局した後は5～6年目に自分の専門領域を決定するようにしています。これらの臨床グループが主体となり学会、研究活動にも力を注いでおり、各外科系の学会には毎年多くの演題を出しています。また、チーム医療の実践のため、外来化学療法、緩和医療、栄養サポートといったカテゴリーで外科医師が質の高い医療の提供を目指すことを目的にこれらのチームの中心的役割も果たしています。最終的には外科の手術手技や術後管理の修得のみならず、外来での患者フォローアップ、終末期医療まで全人的な医療を目指しています。

2. 指導医・外科スタッフ (13名)

成高義彦 診療部長・教授	碓井健文 准講師	山田泰史 助教
勝部隆男 准教授	浅香晋一 准講師	中安靖代 助教
島川 武 准教授	久原浩太郎 助教	川島章子 助教
塩澤俊一 准教授	岡山幸代 助教	関千寿花 助教
横溝 肇 講師	宮内竜臣 助教	

- ・日本外科学会 外科専門医 36名, 同 指導医 14名
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医 18名, 同 指導医 10名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数(2016年実績)

のべ入院患者数 消化器外科 1,183人、乳腺外科 235人
のべ外来患者数 消化器外科 14,000人、乳腺外科 9,459人

② 許可病床数

外科 約50床

③ 2014-2016年のNCD登録数(消化器外科手術)

	施設全体
2014年	658件
2015年	794件
2016年	725件
平均	725件

経験可能数
200件

※東医療センター全体の可能数

④ 症例別経験可能数（術者または助手として最大限、経験可能な手術数。専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合もあります）

症 例	手術数	術者として	助手として
食道癌	25 件	0 件	25 件
胃癌	100 件	10 件	90 件
大腸癌	180 件	20 件	160 件
肝胆膵癌	60 件	5 件	55 件
胆嚢結石症	80 件	70 件	10 件
ヘルニア	70 件	50 件	20 件
救急疾患(急性虫垂炎/消化管穿孔/腹膜炎など)	40 件	20 件	20 件
小児外科疾患	20 件	10 件	10 件
その他 体表小手術など	25 件	25 件	0 件
合 計	600 件	200 件	400 件

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

- 1) 消化器外科領域では良性疾患(胆石症、腸閉塞、ヘルニアなど)から悪性疾患、とくに専門性の高い消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌、肝胆膵癌)の手術まで幅広く行っています。また、緊急性の高い救急疾患(急性虫垂炎、消化管穿孔/出血、腹膜炎、ヘルニア嵌頓など)にも随時対応しています。
- 2) 小児外科領域では鼠径ヘルニア、急性虫垂炎を中心とし、鏡観下手術にも力を入れています。
- 3) 手術療法以外の治療では、食道静脈瘤に対する硬化療法、早期食道癌、胃癌、大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除/剥離術(EMR, ESD)、総胆管結石に対する内視鏡的切石術(EPBD/EST)、肝癌に対する経カテーテル的肝動脈化学塞栓術(TACE)も外科で行っており、手術以外の消化器疾患の治療法の習得も可能です。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～	部長回診							
8:00～	診療グループ別回診□							
16:00～	診療グループ別回診□							
17:00～(第2月曜)	消化器病合同カンファレンス							
19:00～(第3月曜)	抄読会							
17:00～(第4月曜)	キャンサーボード							
17:30～	術前検討会							
9:00～	手術							
9:00～	消化器系検査/治療(内視鏡・血管造影検査)							
18:00～	重症例検討会・学会予演会など							

5. 診療実績

- 1) 良性疾患(胆石症 80 例、腸閉塞 15 例、鼠径ヘルニア 80 例、など)
- 2) 悪性疾患(食道癌 25 例、胃癌 130 例、大腸癌 180 例、肝胆膵癌 60 例、など)
- 3) 救急疾患(急性虫垂炎 20 例、腸閉塞 15 例、消化管穿孔/腹膜炎 15 例、など)
- 4) 小児外科疾患 15～20 例
- 5) 内視鏡治療(食道静脈硬化療法 50 例、胃粘膜切開剥離術 20 例、大腸粘膜切開剥離術 15 例、総胆管結石切石術 50 例、胆道ドレナージ・胆管ステント挿入 60 例、など)
- 6) 血管内治療(経カテーテル的肝動脈化学塞栓術 50 例)
- 7) CV ポート挿入 20 例
- 8) 消化器癌外来化学療法 約 1,250 例

【2】 心臓血管外科

1. 地域における役割と施設の特徴

当センターは区北東部二次医療圏において、唯一 3 次救急、周産期治療など超急性期治療を行える中核病院で、急性期医療を中心とした高度な医療を行っています。

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

2018 年 4 月の時点で指導医 1 名、専門医 1 名（指導医 1 名含む）

3. 患者数、病床数、3 年間の NCD 登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

心臓血管外科（呼吸器外科含む）年間延べ入院数

2014 年 7991 人/年、 2015 年 10,802 人/年、 2016 年 10,204 人/年

②許可病床数

10 床

③2014-2016 年の NCD 登録数

	施設全体
2014 年	261 件
2015 年	189 件
2016 年	203 件
平均	217 件

経験可能数
200 件

※東医療センター全体の可能数

④症例別経験可能数(術者または助手として経験可能な手術数を記載；2014 年度)

症 例	手術数	術者として	助手として
先天性疾患	1 件	0 件	1 件
弁膜症	31 件	0 件	31 件
虚血性（OPCAB）心疾患	14 件	0 件	14 件
胸部大動脈瘤	4 件	0 件	4 件
弁膜症+CABG	1 件	0 件	1 件
腹部大動脈瘤	11 件	0 件	11 件
急性大動脈解離	10 件	0 件	10 件
TEVAR	23 件	0 件	23 件
EVAR	21 件	0 件	21 件
末梢血管	23 件	10 件	13 件
下肢静脈瘤	12 件	12 件	12 件
内シヤント造設	23 件	13 件	10 件
その他（上記以外の末梢血管含む）	11 件	7 件	4 件
合 計	195 件	42 件	167 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

弁膜症、虚血性、大血管(ステントグラフト)手術

腹部大動脈、末梢血管へ手術（ステントグラフト、PTA、コイリングなどの血管内治療を含む）

心大血管手術から末梢血管手術まで、偏りのない症例の経験と研修が可能です。

4. 週間スケジュール

月 8:00 回診 9:00 手術
火 8:00 回診 9:00 心臓カテーテル検査
水 8:00 勉強会 9:00 手術
木 8:00 回診、病棟業務
金 8:00 循環器内科・心臓血管外科合同カンファレンス 9:00 手術
土 8:30 病棟業務

5. 診療実績

診療責任者としての心臓大血管手術成績 (1998年4月-2013年12月)

術式	症例数	病院死亡	死亡率 (%)
冠動脈バイパス	789	6	0.8
弁膜症	690	9	1.3
心筋梗塞合併症	35	3	8.5
解離性動脈瘤	82	9	11.0
胸部・胸腹部動脈瘤	107	3	2.8
腹部動脈瘤	246	5	2.0
先天性心疾患	57	0	0.0
その他	24	0	0.0
不整脈：Maze (他と重複)	109	0	0.0
合計 (不整脈を除く)	2136	28	1.3

【3】 呼吸器外科

1. 地域における役割と施設の特徴

東京都の城北地区である足立区、荒川区には、地域の特異性として肺癌、胸膜中皮腫という悪性疾患が多く、進行してからの発見例も多くみられます。特に高齢者、在留外国人の方々も多いですが、当施設では積極的に患者さんを受け入れています。肺疾患、胸膜疾患、縦隔腫瘍に対して、ほぼ全例で胸腔鏡下手術を行っています。この地域には呼吸器外科専門医および胸腔鏡設備の揃った病院は当施設以外になく、多くの患者さんを地域の病院・診療所よりご紹介いただいております。

2. 指導医・外科スタッフ (4名)

前 昌宏 診療部長・准教授 清水俊榮 准講師 高圓瑛博 助教

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

肺癌、転移性肺腫瘍、胸膜疾患 (胸膜炎、胸膜中皮腫、気胸)、縦隔腫瘍などが大半を占めています。また、3次救急の受け入れが多いため、胸部外傷の患者も診ることができます。

2017年の実績では、肺癌手術 58例、転移性肺腫瘍切除 22例、縦隔腫瘍 10例、急性膿胸 3例、気胸および巨大肺嚢胞 50例でした。

②許可病床数

平均 12 床を使用しています。

③2014-2016 年の NCD 登録数

	施設全体
2014 年	177 件
2015 年	185 件
2016 年	166 件
平均	176 件

経験可能数
200 件

※東医療センター全体の可能数

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載。専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合もあります）

症 例	手術数	術者として	助手として
肺癌手術	66 件	10 件	56 件
転移性肺腫瘍	27 件	5 件	22 件
急性膿胸	12 件	2 件	10 件
気胸、気腫性疾患	48 件	16 件	32 件
胸腔鏡下生検等	32 件	18 件	14 件
合 計	185 件	51 件	134 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

緊急例、待機例を問わず治療の適応があれば積極的に受け入れて治療を行っております。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:00	病棟							
13:30-16:00	気管支鏡検査							
9:00-17:00	手術							
8:00-9:00	カンファレンス							

5. 診療実績

2017 年実績は以下の通りです。

呼吸器外科全身麻酔下手術 168 件、うち胸腔鏡手術 150 件

気管支鏡検査 133 件、気管支ステント留置 4 件、

気管支動脈コイル塞栓術 2 件、化学療法：入院、外来延べ 382 件

【4】 乳腺外科

1. 地域における役割と施設の特徴

荒川区、足立区乳癌検診の一次・二次検診を請け負う中心的役割とともに、全診療科を有する総合病院として併存症をもつ症例も広く受け入れています。

2. 指導医・乳腺外科スタッフ（3名）

平野 明 診療部長・准教授

小倉 薫 准講師

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数(2016年実績)

年間乳癌手術件数 160件

年間良性腫瘍手術件数 20件

② 許可病床数

5床(乳腺外科として)

③2014-2016年のNCD登録数(消化器外科領域)

	施設全体
2014年	170件
2015年	174件
2016年	179件
平均	174件

経験可能数
200件

※東医療センター全体の可能数

④症例別経験可能数(術者もしくは助手として最大限、経験可能な手術数を記載。専攻医数とローテーションの期間によって異なる場合があります)

症 例	手術数	術者として	助手として
乳房切除術(乳癌)	58件	30件	10件
乳房部分切除術(乳癌)	100件	20件	80件
皮膚温存乳房切除術(乳癌)	20件	0件	20件
腫瘍核出術(乳腺良性腫瘍)	20件	20件	0件
合 計	180件	70件	110件

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

乳癌を中心に乳腺良性腫瘍の治療も行っています。

乳癌に対しては術前・術後化学療法も当科で施行しています。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00-8:30	病棟回診							
8:30-9:00	病棟業務							
9:00-12:00	外来診療							
9:00-16:00	手術							
16:30-17:00	病棟回診							
17:00-18:00	症例カンファレンス							

5. 診療実績

2016年実績

乳腺手術例 約170~180件

外来化学療法 約600件

施設名：東京女子医科大学附属八千代医療センター

1. 地域における役割と施設の特徴

本学の理念である「至誠と愛」に基づき、信頼される病院を目指します。患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。患者さんに合った最善のチーム医療を行います。中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し、健康を維持・増進します。

2. 指導医・外科スタッフ（13名）

消化器外科

教授（病院長） 新井田達雄
 客員教授 福永正氣
 准教授（診療科長） 片桐聡
 准教授 太田正穂
 講師 鬼沢俊輔
 准講師 濱野美枝

心臓血管外科

講師（診療科長） 富岡秀行

呼吸器外科

教授（診療科長） 関根康雄
 准教授 星野英久
 講師 黄 英哲

乳腺・内分泌外科

准講師（診療科長） 地曳典恵

小児外科

准教授（診療科長） 幸地克憲

日本外科学会指導医：新井田達雄、関根康雄、片桐聡、太田正穂

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（27年度）

外来患者延数 251,844人 1日当りの外来患者数 896人
 入院患者延数 104,188人 1日当りの入院患者数 285人

②許可病床数

357床(28年度より501床)

③2013-2015年のNCD登録数

	施設全体
2013年	1,100件
2014年	1,180件
2015年	1,393件
平均	1,224件

経験可能数
100件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
消化器疾患等（年）	約500件	15件	150件
呼吸器疾患等（年）	約200件	6件	60件
乳腺・内分泌疾患等（年）	約100件	3件	30件
心臓血管外科疾患等（年）	約100件	1件	30件
小児外科疾患等（年）	約400件	80件	120件
救命救急疾患等（年）	約200件	6件	60件
合計	約1,500件	約111件	450件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、小児外科とも、移植医療以外はすべての疾患を網羅し、手術を中心に治療を行なっている。

診療科	疾患の特徴
消化器外科	すべての消化器疾患（食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵など）を網羅し、検査、治療を行っている。外科的治療の他、ESD、胃瘻造設等の内視鏡治療や腹腔鏡手術も行っている。
呼吸器外科	肺腫瘍(肺癌など悪性腫瘍、血管腫・結核腫など良性腫瘍)、胸腺腫・神経鞘腫などの縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、気胸・肺嚢胞、肺気腫、膿胸・胸膜炎、重症筋無力症、漏斗胸等の呼吸器外科的疾患全般の診療を行っている。
乳腺外科	乳がん、乳腺良性腫瘍、乳腺炎を取り扱う。腫瘍が大きい方には術前の薬物治療を行い、術後は、将来の再発を予防するために薬物治療や放射線治療を行う。
心臓血管外科	先天性心疾患・虚血性心疾患・大動脈瘤・弁膜症・不整脈・重症心不全など全ての心疾患に対し外科治療を行っている。また複雑心奇形や重症心不全治療と再生医療も本院との連携下で行なっている。
小児外科	出産直後の新生児期から学童期(16歳未満)までの頭頸部・呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌臓器・体表・小児腫瘍・小児泌尿生殖器など幅広い疾患を扱っている。
救命救急センター	あらゆる分野の重症患者を24時間受け入れている。心肺停止の重症者をはじめ、緊急手術を要する患者、中毒、外傷なども対象である。また、心疾患、呼吸器疾患、頭部疾患も受け入れ、専門医と協力し治療している。

4. 週間スケジュール

消化器外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:20～	病棟カンファレンス							
18:00～	症例検討会							
9:00～	手術							
9:00～	回診							
9:00～	検査（内視鏡など）							

呼吸器外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:20～	病棟回診							
9:00～	手術							
14:00～	検査（気管支視鏡など）							
15:30～	カンファレンス							
16:20～	病棟回診							

乳腺・内分泌外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:20～	病棟回診							
9:00～	手術							
16:30～	病棟回診							
13:30～	検査（生検など）							
17:00～	症例検討会							

心臓血管外科

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:15 ～	ICU 病棟回診							
17:30～	症例検討会							
9:00～	手術							
16:00～	ICU 病棟回診							

小児外科

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:30～	ミーティング 朝回診							
9:00～	手術							
17:00～	夕回診							
13:00～	画像検査、造影検査							
17:00～	症例検討会							

5. 診療実績

消化器外科

手術症例は500例を超え年々増加しています。日本外科学会専門医(8名)・指導医(3名)と日本消化器外科学会専門医(7名)・指導医(6名)から、肝胆膵外科高度技能指導医(新井田、片桐)、食道外科専門医(太田)、内視鏡外科技術認定医(福永)も在籍し、あらゆる消化器疾患に対して専門的な診断治療ができる体制を整えています。がん薬物療法専門医(倉持)も消化器外科内で活躍しており、最新のがん化学療法を行っています。院内各科との相互連携でも、救急科と連携下に腹部救急に対しては迅速に対応しています。また内視鏡科と腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)も導入し、在宅医療、地域連携にも力を入れています。

呼吸器外科

胸部の呼吸器・縦隔・胸壁に対する内視鏡検査や外科治療を中心に行っています。肺がんや胸腺腫などの悪性腫瘍と自然気胸などの良性疾患、肺膿瘍などの感染・炎症性疾患の症例を多く扱っており、70%の症例で胸腔鏡下手術を行い、通常術後気胸で2日、肺がんで6日ほどの術後入院期間です。癌に対しての術後抗がん剤治療も外科で積極的に行っています。新患者数および手術件数は年々増加傾向を示しています。手術の約半数が肺癌で、以下自然気胸、胸腺腫、転移性肺癌、悪性胸膜中皮腫などの手術が多くみられます。手術関連死亡はなく、肺炎などの重い術後合併症は2%以下であります。

乳腺・内分泌外科

乳がん、乳腺良性腫瘍、乳腺炎を取り扱う。腫瘍が大きい方には術前の薬物治療を行い、術後は、将来の再発を予防するために薬物治療や放射線治療を行う

心臓血管外科

2012年より手術を開始し、成人心臓血管外科(虚血性、弁膜症、大血管)手術を担当しています。手術症例は2012年21例、2013年102例、2014年115例と年々増加傾向です。新病棟竣工後は循環器内科とともにハートセンターを立ち上げ、シームレスな循環器疾患治療体制を整えていきます。

小児外科

平成26年度の手術件数は387例でした。対象としている疾患も幅広く、頭頸部18例、胸部(漏斗胸を含む)19例、腹部疾患201例、泌尿器疾患89例、外傷10例などあります。検査では、CT、MRIはもとより、消化管や泌尿器などの造影検査、内視鏡を用いた気管(6)、食道/胃/十二指腸(55)・大腸(6)・膀胱(15)などの検査も積極的に行っています。(表1, 2)

※施設基準届出手術件数

1. 区分1に分類される手術 手術の件数

ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	99
イ	黄斑下手術等	10
ウ	鼓室形成手術等	1
エ	肺悪性腫瘍手術等	117
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	1

2. 区分2に分類される手術 手術の件数

ア	靭帯断裂形成手術等	4
イ	水頭症手術等	24
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
エ	尿道形成手術等	15
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	31
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	6

3. 区分3に分類される手術 手術の件数

ア	上顎骨形成術等	2
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	0
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0
エ	母指化手術等	0
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	8
キ	同種死体腎移植術等	12

4. 区分4に分類される手術の件数 313

その他の区分に分類される手術 手術の件数

ア	人工関節置換術	49
イ	乳児外科施設基準対象手術	2
ウ	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	26
エ	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	73
オ	経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの 不安定狭心症に対するもの その他のもの	67 100 128
カ	経皮的冠動脈粥腫切除術	0
キ	経皮的冠動脈ステント留置術 急性心筋梗塞に対するもの 不安定狭心症に対するもの その他のもの	62 89 109

施設名：愛媛県立中央病院

1. 地域における役割と施設の特徴

『県民の安心の拠り所となる病院であること』の基本理念のもと、平成25年5月に開院した新本院では、24時間対応の救命救急センターの拡充、基幹災害医療センターとしての機能強化、高度先進医療機器の導入などによる診療機能の充実を図り、県民の皆様はもとより、地域の医療・介護関係者の方の期待にも応えられる体制を整備した。

当院は、県民医療の最後の砦として、超高齢の患者さんや重篤な合併症を持つ極めて状態の悪い患者さんなどリスクの高い症例も多く受け入れるとともに、これらの症例に対し、確かな専門技術と最先端の医療機器の融合による質の高い医療を提供し、県民の安心・安全を守っている。

また、愛媛県の基幹災害拠点病院に指定されており、災害時には愛媛県の災害医療の中心的役割を担う立場にあるため、院内に多職種からなるDMATを編成するとともに、県下の災害拠点病院、自治体等とも連携し、災害時の医療提供体制の構築に取り組んでいる。

さらには、医療の機能分化が求められる中で、急性期病院としての役割を担うとともに、地域の医療機関との連携を強化し、地域の中で医療を完結するための体制作りを進めている。

2. 指導医・外科スタッフ（17名）

副院長：河崎秀樹	消外部長：原田雅光	消外部長：大谷広美
消外部長：吉山広嗣	消外部長：藤井正彦	消外部長：八木草彦
消外部長：渡邊常太	消外部長：發知将規	消外部長：佐藤公一
消外医長：金本真美	消外部長：大野吏輝	
心外部長：石戸谷浩	心外部長：佐々木英樹	
呼外部長：古川克郎	小児外部長：近藤剛	
乳腺外科：佐川庸	乳腺外科：松岡欣也	

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（H28年）

入院患者： 19,579 人 外来患者： 26,453 人

②許可病床数：

827床（一般：824床、感染症：3床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	2,411件
2015年	2,550件
2016年	2,512件
平均	2,491件

経験可能数
200件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）：年間

症 例	手術数	術者として	助手として
消化器外科領域	約 1,400 件	約 100 件	約 200 件
心臓血管外科領域	約 350 件	5 件	100 件
呼吸器外科領域	約 150 件	約 5 件	約 100 件
小児外科領域	約 150 件	約 15 件	約 120 件
乳腺・内分泌外科領域	約 200 件	約 20 件	約 150 件
合計	約 2,250 件	約 145 件	約 670 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

診療科	疾患の特徴
消化器外科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上部消化管（食道、胃、十二指腸）：食道癌、胃癌、間葉系腫瘍、胃十二指腸潰瘍、食道裂孔ヘルニアなど ・ 下部消化管（小腸、大腸、肛門）：大腸癌（結腸癌、直腸癌）、腸閉塞、炎症性腸疾患、肛門疾患、痔疾患など ・ 肝胆膵（肝臓、胆道、膵臓、脾臓）：肝癌、胆道癌、膵癌、胆石症、脾腫など ・ ヘルニア外来；成人鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど ・ その他；救急疾患（穿孔性腹膜炎、外傷など）、虫垂炎など
心臓血管外科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心筋梗塞、狭心症 ・ 心臓弁膜症 ・ 胸部大動脈 ・ 腹部大動脈 ・ 末梢血管疾患 ・ 下肢静脈瘤 ・ その他、心臓外科は外傷によるもの、心臓腫瘍、心臓に入った異物の取り出し、肺梗塞（血栓が肺内の血管に閉塞する病気）
呼吸器外科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肺癌・転移性肺腫瘍をはじめとする種々の肺腫瘍・縦隔腫瘍・胸壁腫瘍などの腫瘍性疾患、気胸・巨大肺嚢胞などの嚢胞性疾患、肺化膿症・膿胸などの感染性疾患、胸膜中皮腫などの胸膜疾患等 ・ 内科疾患であるびまん性肺疾患に対する肺生検や、原因不明の縦隔リンパ節腫大に対する縦隔鏡を用いたリンパ節生検なども実施
小児外科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新生児外科疾患（消化管閉鎖、直腸肛門奇形、ヒルシュスプルング病、腹壁異常、横隔膜ヘルニア、肺嚢胞症など） ・ 小児の消化器外科疾患（腸重積症、急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症など） ・ 胸腹部腫瘍（神経芽腫、腎芽腫、奇形腫、リンパ管腫など） ・ 鼠径部疾患（鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣など）
乳腺・内分泌外科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種乳腺疾患（特に、乳癌） ・ 甲状腺癌 ・ 良性甲状腺腫瘍、慢性甲状腺炎、バセドウ病などの良性疾患 ・ 副甲状腺疾患

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
消化器外科								
7:45～8:15	抄読会（第1～第3）							
17:15～17:45	消外関連勉強会（月2～3回）							
7:45～8:15	朝カンファレンス（術前・術後・プレゼン予行）							
7:45～8:15	M and M カンファレンス（第4）							
9:00～17:30	手術							
8:30～17:00	病棟業務							
8:30～12:30	午前外来							
13:00～17:00	午後外来							
17:00～17:30	総回診（各グループ）							
18:00～19:00	放射線診断合同カンファレンス							
18:00～19:00	内科外科合同カンファレンス							
18:00～19:00	病理合同カンファレンス							
8:00～8:30	化学療法カンファレンス（月2回）							
心臓血管外科								
8:00～8:20	朝カンファレンス							
9:00～15:00	手術							
8:30～9:00	病棟業務							
15:00～17:00								
17:30～18:00	週間カンファレンス							
呼吸器外科								
7:30～8:30	回診・病棟業務							
8:30～9:30	回診・病棟業務							
8:30～14:00	外来							
8:30～14:00	病棟業務							
9:00～17:30	手術							
14:00～15:00	術前カンファレンス							
15:00～15:20	病棟カンファレンス							
15:20～16:20	抄読会							
17:00～17:30	回診・病棟業務							
16:00～16:30	内科外科放射線科カンファレンス							
小児外科								
08:15～08:30	病棟回診（朝）							
08:30～17:00	外来							
09:00～13:00	手術							
16:00～16:30	抄読会							
17:00～17:30	周産期カンファレンス							
17:00～17:15	病棟回診（夕）							
乳腺・内分泌外科								
07:45～08:10	術前術後カンファレンス							
07:45～08:10	病理カンファレンス（隔週）							
08:30～13:00	午前外来（+エコー検査）							
13:30～17:00	午後外来（+エコー検査）							
13:30～18:30	手術							
18:30～19:00	病棟回診							

5. 診療実績※施設基準届出手術件数(2015年実績)

1	区分1に分類される手術	手術の件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	76
イ	黄斑下手術等	271
ウ	鼓室形成手術等	51
エ	肺悪性腫瘍手術等	112
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	83

2	区分2に分類される手術	手術の件数
ア	靭帯断裂形成手術等	1
イ	水頭症手術等	72
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1
エ	尿道形成手術等	79
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	139
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	11

3	区分3に分類される手術	手術の件数
ア	上顎骨形成術等	11
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	17
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	3
エ	母指化手術等	8
オ	内反足手術等	1
カ	食道切除再建術等	3
キ	同種死体腎移植術等	34

4	区分4に分類される手術	手術の件数
ア	人工関節置換術	76
イ	乳児外科施設基準対象手術	5
ウ	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	84
エ	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	196
オ	経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの 不安定狭心症に対するもの その他のもの	39
カ	経皮的冠動脈粥腫切除術	0
キ	経皮的冠動脈ステント留置術 急性心筋梗塞に対するもの 不安定狭心症に対するもの その他のもの	290

施設名：医療法人財団 荻窪病院（心臓血管外科）

1. 地域における役割と施設の特徴

- ・ 24 時間・365 日、心臓血管疾患に対応
当センターは 24 時間・365 日、心臓血管疾患に対応します。
緊急治療を要する患者さんには、緊急カテーテル治療、緊急心臓血管手術を行います。
- ・ 地域病院・診療所との連携
当センターは地域病院・診療所との連携を密にします。
それぞれの機関の長所を生かし、それぞれの患者さんにとって最適の医療を行います。
- ・ 高度な専門的医療の提供
優秀なスタッフによる、高度な専門的医療を行います。

2. 指導医・外科スタッフ（3 名）

部長 澤 重治
 医長 藤井 奨
 医員 飯田泰功

3. 患者数、病床数、3 年間の NCD 登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（一日平均）

	外来患者数	入院患者数
2014 年	30 人	17 人
2015 年	29 人	15 人
2016 年	10.9 人	15.9 人

②許可病床数

一般 252 床

③2014-2016 年の NCD 登録数

	施設全体
2014 年	211 件
2015 年	178 件
2016 年	191 件
平均	193.3 件

経験可能数
60 件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
虚血性心疾患	50 件	2 件	49 件
弁膜症	40 件	1 件	39 件
急性大動脈解離	30 件	1 件	29 件
胸部大動脈瘤	10 件	1 件	9 件
腹部大動脈瘤	30 件	10 件	20 件
末梢動脈疾患	40 件	20 件	20 件
合 計	200 件	35 件	166 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

虚血性心疾患手術：冠動脈バイパス術、心筋梗塞合併症手術、その他

弁膜症手術：自己心膜を用いた大動脈弁再建術（OZAKI 手術）、僧房弁形成術、その他

大動脈瘤手術：胸部大動脈瘤切除術、腹部大動脈瘤切除術、解離性大動脈瘤手術
ステントグラフト留置術（胸部および腹部）、その他

末梢血管手術：下肢動脈バイパス術、下肢動脈血栓摘除術、その他

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
9:00～17:00	手術							
9:00～17:00	病棟業務（処置を含む）							
9:00～12:00	午前外来							
13:30～17:00	午後外来							
17:30～19:00	合同カンファレンス							
9:00～10:00	総回診							
15:00～16:00	手術カンファレンス							
17:00～18:30	医局会議							
hibrid								

5. 診療実績

1936年設立の荻窪病院は2008年4月心臓血管外科を新設した。同時に循環器内科を併せた心臓血管センターが開設されその活動を開始した。杉並区を中心とした区西部医療圏（城西地区）に加えて練馬区、武蔵野市、三鷹市、北多摩地区の一部からの急性期疾患を24時間体制で受け入れており対象患者は心臓、胸部大動脈、腹部大動脈、末梢血管疾患の手術適応のある方となっている。開心術では冠動脈疾患、弁膜疾患、大動脈疾患の手術が三本柱でありいずれも待機手術のみならず緊急手術の常時受け入れが可能である。特に大動脈疾患に関しては東京都大動脈スーパーネットワークの重点病院に指定されていることから急性大動脈解離や大動脈瘤破裂の緊急手術要請が多く2014年度の急性大動脈疾患取扱件数は東京都4位の実績であった。弁膜疾患では大動脈弁膜症に対して人工弁を使わず自己心膜を用いた大動脈弁再建術（OZAKI手術）を行っており既に100例以上の実績がある。冠動脈疾患はon-pumpとoff-pumpを使い分けたCABG、循環器内科とコラボしたHybrid治療など患者にとって最善の手術を提供している。末梢血管疾患はフットケアセンターとして循環器内科、整形外科とのコラボ治療が多くなっている。2016年度の総手術件数187件（開心術件数112件、非開心術75件。予定手術134件、緊急手術53件。）であった。

施設名：済生会熊本病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は地域における急性期病院としての役割を担うため、「断らない救急」をスローガンに救急・重症患者の受け入れ体制の充実を図ってきました。また「地域医療支援病院」の認定を受け、緊急対応や高度な精密検査が必要な患者さんなど、地域の医療機関からの紹介があれば迅速に対応できる体制を整えています。

2. 指導医・外科スタッフ（7名）

心臓血管外科 部長 上杉 英之
診療技術教育・手術管理部長 押富 隆
副部長 出田 一郎
高志 賢太郎
片山 幸広
佐々 利明
古賀 智典

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（2016年度実績）

外来患者数 503.8名/日
新入院数 14,555名/年

②許可病床数

400床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	2,000件
2015年	2,053件
2016年	2,108件
平均	2,053件

経験可能数
547件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
心臓血管	90件	－件	－件
消化管・腹部内臓	250件	－件	－件
呼吸器	50件	－件	－件
合計	390件	－件	－件

※経験症例数や術者・助手経験数は研修期間や研修内容の希望により異なります。

⑤取り扱っている疾患の特徴

診療科	疾患の特徴
心臓血管外科	心臓血管外科の症例は年間約 600 例で、そのうち開心術が 300 例である。疾患手術の内訳は、単独 CABG、弁膜症、大血管、複合手術である。非開心術では、腹部大動脈瘤手術、ステントグラフト（胸部、腹部）76 例等。
消化器外科	外科の手術の総数は年間約 1,000 例で、悪性腫瘍の手術が約 4 割を占めている。さらに、救命救急センターと連携して Acute Care Surgery の急性腹症を担当して、緊急手術を数多く行っている。悪性疾患、良性疾患、救急疾患をバランスよく学ぶことが可能である。腹腔鏡手術、肝胆膵領域の専門的な手術も行っている。
呼吸器外科	呼吸器外科の手術は年間約 250 例で、肺癌、肺良性腫瘍、良性縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫、悪性縦隔腫瘍等である。内視鏡外科手術の基本手技も経験できる。また、肺癌の化学・放射線療法の臨床にも携わり、悪性腫瘍全般に渡り広く学ぶことができる。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
7:30～	抄読会							
7:30～	カンファレンス、検討会							
午前	部長回診							
午前	手術							
11:00～	外来							
13:30～	手術							
14:00～14:30	心臓マッサージ講習会							
16:00～	患者説明							
17:30～	医局会			第 1				
18:30～	心臓血管外科勉強会							
19:00～21:00	実地医家の会		第 3					

5. 診療実績（2016 年度）

- ・ 手術数 5,765 件／年
- ・ 救急車搬入数 9,842 台／年
- ・ 救急患者数 21,445 人／年
- ・ へり受入数 184 件／年
- ・ 外来患者数 503.8 人／日
- ・ 平均在院日数 9.5 日
- ・ 紹介率 62.6%
- ・ 新入院数 14,555 人／年

施設名：聖隷浜松病院

1. 地域における役割と施設の特徴

聖隷浜松病院は、1962年の開設当初から高度急性期医療を目指し、常に地域ニーズを先取りした病院づくりに取り組んでいます。

救命救急センター・総合周産期母子医療センターをはじめとする質の高い急性期医療、先進医療や多様なセンター機能による専門医療を展開し、そして、医師・看護師をはじめとする優れた医療人の育成に取り組み、常に利用者にとっての価値とは何かを追求し続けています。

2012年には、JCI（国際的医療機能評価機関）による認証を取得するなど、国際標準の安全で良質な医療を実践しています。

2. 指導医・外科スタッフ（16名）

部長	鈴木 一史	主任医長	山本 博崇	専門研修医	高部 裕也
部長	吉田 雅行	医 長	宮木 祐一郎	専門研修医	藤川 遼
部長	小林 靖幸	医 長	鈴木 英絵	専門研修医	田原 俊哉
部長	宮崎 栄治	医 長	森 菜採子	専門研修医	山崎 彩
部長	中村 徹	医 長	立石 実	専門研修医	高柳 佑士
部長	小出 昌秋	医 長	五十嵐 仁	専門研修医	櫻井 陽介
主任医長	國井 佳文	医 師	山田 進	専門研修医	曹 宇晨
主任医長	浜野 孝				
主任医長	小泉 圭				

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

(1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年度	1,634人	696人
2015年度	1,623人	697人
2016年度	1,616人	696人

②許可病床数

744床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	2,365件
2015年	2,302件
2016年	2,477件
平均	2,381件

経験可能数
360件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
食道悪性	2 件	0 件	2 件
胃悪性	10 件	3 件	7 件
結腸悪性	20 件	5 件	15 件
直腸悪性	5 件	1 件	4 件
肝臓悪性	3 件	1 件	2 件
胆膵悪性	4 件	1 件	3 件
胆道良性	18 件	8 件	10 件
虫垂炎	10 件	5 件	5 件
各種ヘルニア	30 件	15 件	15 件
乳癌	20 件	10 件	10 件
肺悪性	10 件	3 件	7 件
小児外科	30 件	15 件	15 件
心臓・大血管	30 件	0 件	30 件
末梢血管	8 件	4 件	4 件
合 計	200 件	71 件	129 件

（専攻医 1 人／1 年の概算です。）

⑤取り扱っている疾患の特徴

診療科	疾患の特徴
消化器外科	消化器外科では主に上部消化管（食道・胃）の悪性・良性疾患を扱っています。胃癌手術、食道癌手術ともに鏡視下手術を導入しており、全症例の半数近くが鏡視下手術となっています。進行癌に対しては、消化器内科や化学療法科、腫瘍放射線科と連携して集学的治療を行い、拡大手術も積極的に行っています。
肝胆膵外科	肝胆膵外科は、肝臓、胆嚢・胆管、膵臓、脾臓、十二指腸、上部小腸の各臓器に発生した腫瘍（良性・悪性）、炎症性疾患などの外科治療を行っています。悪性疾患は主に開腹手術を行っており、良性疾患に対しては腹腔鏡下手術を取り入れ、出来るだけ低侵襲手術となるよう努めています。また、日帰り鼠径ヘルニア手術も実施しています。
大腸肛門科	大腸肛門科は、大腸癌の診断、治療、緩和医療（集学治療も含む）を中心に診療を行っており、その他、痔核等の肛門疾患、潰瘍性大腸炎やクローン氏病といった炎症性腸疾患も扱っています。
小児外科	県西部地区最初の小児外科として発足し、30 年以上にわたって、一般小児外科、小児泌尿器科、新生児外科疾患に対する 20,000 例以上の手術実績があります。日本小児外科学会認定の教育関連施設で、小児外科専門医のもと年間 500 件以上の手術を行っており、全国的にも手術件数の多い施設です。より高度な医療が必要な場合には静岡県立こども病院とも連携して診療を行っています。鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなどの短時間で終わる手術は、ほとんどが日帰り手術で行っています（生後 3 か月以降）。

呼吸器外科	<p>呼吸器外科では、肺、気管・気管支、胸膜、縦隔、横隔膜、胸壁等の疾患を扱っています。病名でいいますと、肺癌、気胸、縦隔腫瘍、肺腫瘍、胸壁腫瘍等です。</p> <p>手術内容は肺切除が基本となりますが、胸腔鏡を用い手術創をなるべく小さく、きれいになるようにしています。</p> <p>肺癌での手術適応は病期ⅢA期の一部までとしています。呼吸器内科との連携により治療方針を決めています。気胸では、再発例はもちろんのこと、初回でもCT等でブラがはっきりあるものは手術を行っています。肺癌では術後5～10日、気胸等では2～4日で退院となります。また、診断が困難な前癌病変や極早期肺癌の鑑別には、CT下マーキングを行った上で、胸腔鏡下手術を行っています。</p> <p>また、原因不明胸水の検査として病理学的な診断のため、局所麻酔下または硬膜外麻酔下で胸腔鏡検査も行っています。また、再発症例に対しても、腫瘍放射線科並びに化学療法科と協力し、加療を行っています。高いQOLを維持できるように努めています。</p>
乳腺科	<p>乳腺にかかわるあらゆる病態や疾患を診療の対象としています。主に乳がんが対象ですが良性腫瘍や乳腺炎の治療も行なっています。</p> <p>乳がん診療においては、乳腺専用機器（マンモトーム生検、MRIなど）を駆使した診断およびエビデンスに基づいた治療を早期症例から進行・再発症例にいたるまで、多くの部署が関わるチーム医療として実践しています。術前化学療法も積極的に行なっており、術後の薬物療法、放射線療法等の総合力により根治を目指します。また、乳房温存手術が難しい方や希望により乳房切除（全摘）が行なわれた方には、形成外科の協力のもとに乳房再建術も行なっております。</p> <p>マンモグラフィなどの乳がん検診の精密検査やセカンド・オピニオン目的に受診される患者さま、遺伝性乳がん卵巣がん症候群が疑われる方のカウンセリングや遺伝子検査も増加しており、そのニーズに十分応えられるような体制構築をはかっています。</p>
心臓血管外科	<p>心臓血管外科は、心臓血管外科専門医3名を含む6名の医師に加え、麻酔科医、臨床工学技士、手術室看護師スタッフ等とともに心臓血管外科手術チームを組み、予定手術のみならず、緊急手術にも24時間対応しております。対象疾患は、虚血性心疾患、心臓弁膜症、大血管疾患、先天性心疾患、末梢血管疾患など全ての手術を必要とする心血管疾患であり、出生直後の新生児から、80歳を越えるご高齢の方まで、全ての年齢層の手術を行っています。</p>

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～9:00	術前症例検討	■						
8:00～9:00	術後症例検討		■					
8:00～9:00	死亡例検討またはカンファレンス			■				
8:00～9:00	病棟							
9:00～12:00	病棟または手術	■	■		■	■		
9:00～12:00	総回診または手術			■				
13:00～17:00	病棟または手術	■	■	■	■	■		

5. 診療実績

区分1に分類される手術

ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	132
イ	黄斑下手術等	313
ウ	鼓室形成手術等	29
エ	肺悪性腫瘍手術等	93
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	150

区分2に分類される手術

ア	靭帯断裂形成手術等	119
イ	水頭症手術等	37
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	35
エ	尿道形成手術等	8
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	40
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	37

区分3に分類される手術

ア	上顎骨形成術等	7
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	30
ウ	バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	1
エ	母指化手術等	8
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	1
キ	同種死体腎移植術等	0

区分4に分類される手術の件数

1544

その他の区分に分類される手術

人工関節置換術	126
乳児外科施設基準対象手術	5
ペースメーカー移植術及び ペースメーカー交換術	74
冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの を含む。)及び体外循環を要する手術	185
経皮的冠動脈形成術	39
（再掲）急性心筋梗塞に対するもの	5
（再掲）不安定狭心症に対するもの	4
（再掲）その他のもの	30
経皮的冠動脈粥腫切除術	15
経皮的冠動脈ステント留置術	278
（再掲）急性心筋梗塞に対するもの	58
（再掲）不安定狭心症に対するもの	50
（再掲）その他のもの	170

施設名：地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立中央病院

1. 地域における役割と施設の特徴

山梨県の基幹病院として各診療分野の高度専門医療を行っています。県がん診療連携拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センターなど、高度医療施設が整っています。

患者中心の医療提供を原則に、常に地域医療機関との連携を図りながら医療の質向上に努めています。

2. 指導医・外科スタッフ（ 8名）

乳腺外科	井上正行	胃・食道外科	羽田真朗	大腸外科	宮坂芳明
肝胆膵外科	鷹野敦史	小児外科	江村隆起	心臓血管外科	中島雅人
呼吸器外科	後藤太一郎	救命救急センター	岩瀬史明		

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（年間）

	外来患者数	入院患者数
2014年	261,630人	13,460人
2015年	271,442人	12,516人
2016年	278,167人	12,414人

②許可病床数

647床（一般629床、結核16床、感染症病床2床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2014年	1452件	230件
2015年	1766件	
2016年	1883件	
平均	1700件	

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
心臓大血管	100件	10件	90件
末梢血管	50件	40件	10件
一般外科（乳腺、胃消化管、小児）	80件	件	80件
外傷手術	10件	件	10件
合計	240件	50件	190件

⑤取り扱っている疾患の特徴

外科	<p>消化器、乳腺を中心に各専門医がそれぞれの領域の悪性疾患（癌、肉腫）の外科治療を行っています。また、胆石症、ヘルニア、虫垂炎、急性腹症などの疾患の外科治療を行っています。</p> <p>外科は主に手術による治療を行う科です。具体的には消化器（食道、胃、大腸、肝臓、胆道、膵臓）、乳腺、甲状腺、またはヘルニアなどの体表の病気が主な対象となります。各専門医が悪性疾患、主のがんを中心に治療しており、全身麻酔下に年間約700例の手術をしています。</p> <p>最近、体に負担の少ない手術として、鏡視下手術（腹腔鏡や胸腔鏡を利用して、小さな傷で体に負担が少ない手術のこと）が普及しております。胆嚢結石の治療から始まり、今では早期の胃がん、大腸がんを中心にいろいろな病気でも応用されています。当科でも患者さん個々の病態に応じて、鏡視下手術を行っています。</p>
呼吸器外科	<p>肺がん、縦隔腫瘍、転移性腫瘍、気胸など、呼吸器外科全般にわたり診療しております。近年、気胸ホットラインの導入、無痛手術の開発、手術期待日数の短縮化など、新たな取り組みも行い、山梨県内の呼吸器外科診療において基幹的な役割を担っています。</p>

心臓血管外科	当院は、日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設、心臓血管外科専門医認定機構基幹施設です。虚血性心疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、閉塞性動脈硬化症などの診療、ペースメーカー植え込み術、透析用シャント造設、血栓除去術、心臓カテーテル検査等を行っています。
救急科 (救命救急センター)	当院は全国にある救命救急センターのひとつで、山梨県唯一の施設です。救急科の救急専門医が核となって救命救急センターが運営されており、24時間体制で第3次救急医療（一般の病院、診療科では救命の難しい超重症の救急患者様に対応する救急医療）を提供しています。
小児外科	小児は成人のミニチュアではなく、ひとつひとつの臓器の形態や働きも年齢や発達により大きく異なるため、小児外科学会認定指導医、専門医を含む小児外科専任のチームを構成し、早産児・新生児から中学生まで（疾患によっては成人まで）の外科疾患の治療を行っています。

4. 週間スケジュール（心臓血管外科）

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
9:00-10:00	病棟総回診							
9:00-13:00	カテーテル検査、治療							
14:00-	ペースメーカー手術							
17:00-	症例検討会							
9:00-12:00	外来診療							
9:00-13:00	午前手術							
14:00-18:00	午後手術							

5. 診療実績

1 区分1に分類される手術	件数
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	60
イ 黄斑下手術等	17
ウ 鼓室形成手術等	0
エ 肺悪性腫瘍手術等	75
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	76

2 区分2に分類される手術	件数
ア 靭帯断裂形成手術等	26
イ 水頭症手術等	27
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1
エ 尿道形成手術等	17
オ 角膜移植術等	0
カ 肝切除術等	29
キ 子宮付属器悪性腫瘍手術等	20

3 区分3に分類される手術	件数
ア 上顎骨形成術等（医科）	5
ア 上顎骨形成術等（歯科）	0
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等（医科）	6
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等（歯科）	8
ウ バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	0
エ 母指化手術等	2
オ 内反足手術等	0
カ 食道切除再建術等	13
キ 同種死体腎移植術等	0

4 区分4に分類される手術	件数
	221

その他 その他に分類される手術	件数
ア 人工関節置換術	82
イ 乳児外科施設基準対象手術	0
ウ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（電池交換を含む）	100
エ 冠動脈・大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術	234
オ 経皮的冠動脈形成術	18
急性心筋梗塞に対するもの	8
不安定狭心症に対するもの	5
その他のもの	5
オ 経皮的冠動脈粥腫切除術	1
オ 経皮的冠動脈ステント留置術	173
急性心筋梗塞に対するもの	63
不安定狭心症に対するもの	32
その他のもの	78

施設名：医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター

1. 地域における役割と施設の特徴

朝霞市・新座市・和光市・志木市を中心とした救急医療・急性期治療を行う中心的病院。外科（消化器、呼吸器、小児外科、乳腺外科）脳外科、整形外科も積極的に手術に取り組み緊急手術も多く常勤麻酔医師も多い。

平成30年1月1日 新築移転し446床増床、朝霞台中央総合病院よりTMG あさか医療センターに名称を変更してオープンした。

2. 指導医・外科スタッフ（13名）

院長	村田 順
副院長	藤田 竜一
院長補佐	町田 浩道
胸部血管外科部長	飯田 衛
臨床指導部長	木山 輝郎
小児外科部長	李 慶徳
外科部長	塩澤 邦久
外科部長	多田 祐輔
	松尾 真吾
	玉木 雅子
	高橋 直行
	植田 吉宣
	加藤 奈月

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	989人	289人
2015年	973人	298人
2016年	929人	308人

②許可病床数

326床（一般病床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	1083件
2015年	1126件
2016年	1113件
平均	1108件

経験可能数
558件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
ソケイヘルニア	190 件	190 件	0 件
虫垂炎	148 件	148 件	0 件
肛門疾患（内痔核、周囲膿瘍、裂肛）	38 件	38 件	0 件
胃がん	71 件	36 件	35 件
大腸がん	145 件	73 件	72 件
胆嚢結石、胆嚢炎	117 件	117 件	0 件
乳がん	83 件	42 件	41 件
肺がん	14 件	7 件	7 件
肝がん	15 件	8 件	7 件
膵がん	22 件	11 件	11 件
合 計	843 件	670 件	173 件

⑤取り扱っている疾患の特徴

当院にて対応している疾患の範囲は広いと思います。

○救急疾患では、消化管穿孔、炎症性疾患、血流障害などの一般的な疾患から腸管破裂、肝腎損傷、膀胱破裂などの外傷疾患まで広く治療している。

○腫瘍については、肝・胆・膵を含めた消化器から呼吸器、乳腺の治療を行う。

○先天的疾患として、小児ソケイヘルニア、包茎等の治療。

○一般外科としてのヘルニア・ヘモや、栄養としての胃ろう・ポート造設など。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
9：30～18：30	一般外科外来（月～金）						-	-
9：30～17：00	一般外科外来（土曜日）	-	-	-	-	-		-
10：00～17：00	胸部外科外来（2週午後のみ15：00時まで）	-	-		-	-	-	-
	小児外科外来	-		-	-		-	-
	血管外科外来	-		-	-			-
	乳腺外科外来	-	-	-	-	-	-	
	心臓血管外科外来（PM 要予約）		-	-	-	-	-	-
	予定手術日（AM）						-	-
	予定手術日（PM）						-	-

5. 診療実績

前述の様に、救急疾患、癌の手術、一般外科手術と対応分野も多岐にわたっている。

消化器、呼吸器、小児外科領域では鏡視下手術の導入をすすめている。

胆嚢、虫垂はもちろんのこと、胃、大腸、ヘルニア、脾摘、肺切除、小児ソケイヘルニアも鏡視下手術を行っている。また、血管外科領域ではレーザー治療も開始している。

施設名：医療社団法人 常仁会 牛久愛和総合病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は茨城県県南地域における中核病院として機能しています。

総合病院として 3 つの柱「救急医療」「予防医療」「高齢者医療」を通じて地域住民の皆様に最高の医療・福祉を提供することを病院理念に掲げて診療しています。また各診療科で専門的な診療にも取り組んでいます。内科系、外科系ともに各種学会の専門施設、認定施設になっています。

臨床研修指定病院であり、また日本医療機能評価機構認定を受けています。

2. 指導医・外科スタッフ（ 3名）

院長 亀岡信悟
外科部長 野口岳春 外科医長 藤田俊広

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

年間入院患者数 138,890人 1日平均 380.7人
年間外来患者数 241,292人 1日平均 817.9人

②許可病床数

489床（一般病床434床・療養病床55床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	288件
2015年	323件
2016年	322件
平均	311件

経験可能数
322件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
そけいヘルニア	55件	50件	5件
急性虫垂炎	40件	38件	2件
胃癌	19件	5件	14件
大腸癌	27件	10件	17件
胆石症	32件	30件	2件
肝胆膵悪性疾患	5件	0件	5件
乳癌	27件	5件	22件
甲状腺（良性および悪性）	34件	1件	33件
合計	239件	139件	101件

⑤取り扱っている疾患の特徴

当院の外科手術症例は消化器悪性疾患が 1/3 の症例を占めています。そのほか急性虫垂炎、急性胆嚢炎を中心とした腹部救急疾患および良性疾患が多く、特に鼠径ヘルニアは年間 50 例以上あります。腹腔鏡治療も適応を選択していますが、積極的に取り組んでいます。

乳腺甲状腺外科についても、非常勤の専門医を中心に手術治療に取り組んでいます。症例数の増加も期待できる診療分野です。

地域の救急医療に積極的に関わる病院であり、急性腹症に対する診断および手術の適応の判断、消化管出血に対する診断、内視鏡治療なども担当しています。抗がん剤治療も外科で担当することが多く、消化器疾患に関しては診断、手術、術後治療、緩和治療とトータルな診療をおこなっています。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
7:30-9:00	カンファレンスおよび回診							
9:00-12:00	手術							
12:00-17:00	手術							
9:00-13:00	外来							
16:00-17:00	カンファレンスおよび回診							
18:00-19:00	勉強会							
9:00-10:00	休日回診							

5. 診療実績

平成27年 内科診療実績

透析センター

新規血液透析導入患者数 13名
慢性糸球体腎炎 1名
転入血液透析患者数 5名
内シャントPTA 14件
糖尿病性腎症 8名
腎硬化症 1名
内シャント関連手術件数 15件

代謝・内分泌系

糖尿病教育入院 90件

循環器内科系

心臓 MRI 25例 冠動脈 CT 116例 心臓カテーテル検査 221例
経皮的冠動脈形成術 118例 経皮的末梢動脈形成術 14例
恒久的ペースメーカー植込術 12例 ジェネレーター交換 23例 急性心筋梗塞 26例

消化器内科領域

C型肝炎-肝硬変（遺伝子型1型）に対する経口ウイルス治療薬投与 21例
C型肝炎-肝硬変（遺伝子型2型）に対する経口ウイルス治療薬投与 4例
B型肝炎-肝硬変に対する経口ウイルス治療薬投与（2年間） 34例
肝動脈血栓術（動注化学療法を含む） 11例 消化器癌（肝癌以外）化学療法 15例

血液内科領域

悪性リンパ腫 39例 骨髄異形性症候群 17例 多発性骨髄腫 9例
急性骨髄性白血病 8例 急性リンパ性白血病 4例 自己免疫性溶血性貧血 1例
突発性血小板減少性紫斑病 2例 その他血液疾患 12例

平成27年度 内視鏡検査

上部消化管（人間ドックを含む） 3,365件
下部消化管（人間ドックを含む） 983件
内視鏡膵胆管造影（内視鏡的十二指腸乳頭切開術を含む） 39件
経皮的内視鏡的胃瘻造設術 34件

合計 4,169件

平成27年度 外科系手術症例件数

外科消化器外科	327件	皮膚科	239件
整形外科	451件	眼科	324件
脳神経外科	138件	歯科口腔外科	39件
形成外科	615件	耳鼻咽喉科	264件

施設名：大分市医師会立アルメイダ病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は医師会会員による共同利用の開放型病院として昭和44年に開院。

当院はかかりつけ（会員）医師との密接な連携のもと、地域中核病院として急性期疾患を中心とした医療を担っている。

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

白鳥 敏夫, 釘宮 睦博, 橋本 拓造, 山本 壮一郎, 地原想太郎

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

外来平均：84.0人/日

入院平均 50.2人/日

②許可病床数

46床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	889件
2015年	905件
2016年	1046件
平均	947件

経験可能数
525件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）【2016年分】

症例	手術数	術者として	助手として
食道	6件	件	件
胃	66件	件	件
小腸、大腸	311件	件	件
肝	11件	件	件
胆	225件	件	件
膵・脾	24件	件	件
虫垂炎	59件	件	件
痔核	12件	件	件
ヘルニア	89件	件	件
その他	243件	件	件
合計	1016件	件	件

*手術症例数は年によって異なりますが、できるだけ要望に対応できるように致します。

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器および一般外科を中心とする疾患が多い。

また医師会病院という特徴上、緊急手術例が多い。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
09:00-09:30	朝カンファレンス	■						
9:30-	手術	■	■		■	■		
08:30-09:30	手術検討会					■		
09:30-12:00	総回診		■			■		
09:00-13:00	外来			■				

5. 診療実績

学会への積極的な参加を推奨している。

施設名： 一般社団法人 至誠会第二病院

1. 地域における役割と施設の特徴

東京女子医大の同窓会である至誠会を上部組織とする病床数 305 床の中規模病院です。17 の標榜科を有し、二次救急指定医療機関として主に急性期医療を行っています。世田谷区の西、調布市にも近い場所に立地しています。近隣に同規模の病院がないこともあり、地域の中心的病院となっています。全体では、年間 1500 例の手術件数を数え、当科だけでも約 350 例の手術をこなしております。悪性疾患などの定型的な手術はもちろん、急性期の地域病院である当院では外傷や炎症などのバラエティにとんだ症例も存在します。

2. 指導医・外科スタッフ（ 5名）

外科部長 吉田 一成 消化器外科部長 山下 由紀 副院長 梁 英樹
外科医師 佐藤 拓也 外科医師 白井 雄史

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (一日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	797.1人	204.8人
2015年	781.5人	200.0人
2016年	768.5人	194.5人

②許可病床数

305 床（一般病床のみ）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	506件
2015年	372件
2016年	345件
平均	407.7件

経験可能数
230件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
上部消化管良性疾患	5件	5件	件
上部消化管悪性疾患	20件	10件	10件
胆道膵疾患	80件	30件	50件
下部消化管悪性疾患	60件	30件	30件
乳腺疾患	20件	5件	15件
ヘルニア	70件	60件	10件
虫垂炎	90件	90件	件
その他（局麻手術など）	150件	130件	20件
合 計	495件	360件	135件

⑤取り扱っている疾患の特徴

当科では、消化器外科、一般外科、乳腺外科を行っています。上部下部消化管、肝胆膵、乳腺の検査と治療。

検査は上下消化管内視鏡、消化管造影、CT、MRI、超音波、ERCP、マンモグラフィなどを行っています。
治療は外科治療を中心にしており、近年は腹腔鏡下手術も増えてきています。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
9:00~10:00	回診							
10:00~	手術							
9:30~	内視鏡							
13:00~	放射線検査							
16:00~	カンファレンス							
9:00~14:00	外来							

5. 診療実績

1.区分1に分類される手術		手術件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	2
イ	黄斑下手術等	0
ウ	鼓室形成手術等	0
エ	肺悪性腫瘍手術等	0
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	0

2.区分2に分類される手術		手術件数
ア	靭帯断裂形成手術等	12
イ	水頭症手術等	0
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
エ	尿道形成手術等	4
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除手術等	1
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	0

3.区分3に分類される手術		手術件数
ア	上顎骨形成術等	0
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	0
ウ	バセドウ甲状腺全摘術	0
エ	母指化手術等	0
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	0
キ	同種腎移植術等	0

4.区分4に分類される手術	手術件数
	87

その他の区分に分類される手術		手術件数
ア	人工関節置換	37
イ	乳児外科施設基準対象手術	0
ウ	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（電池交換を含む）	1
エ	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人口心肺を使用しないものを含む） 体外循環を要する手術	0
オ	経皮的冠動脈形成術、 経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	0
カ	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	0

施設名：社会医療法人三栄会 中央林間病院

1. 地域における役割と施設の特徴

「地域に密着した急性期医療」を目標として、また「誠実な良匠たれ」を行動理念とし、大和市を中心に二次救急、急性期医療を行っている。

内科、整形外科と連携して消化器を中心とした小回りの利く体制をとっている。

地域性から若年者から高齢者まで幅広く、様々な疾患に対応している。

2. 指導医・外科スタッフ（2名）

院長：木山智

診療部長：河野正寛

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

	外来	入院	人/1日平均（年間患者数）
2014年	165（48366）	94.1（34329）	
2015年	173（50550）	95.0（34679）	
2016年	177（50612）	93.9（34367）	

②許可病床数

116床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	164件
2015年	235件
2016年	251件
平均	216件

経験可能数
251件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
胃癌	9件	8件	1件
結腸癌	21件	19件	2件
直腸癌	3件	3件	0件
虫垂炎	38件	38件	0件
腸閉塞	8件	8件	0件
鼠径ヘルニア	45件	45件	0件
胆石症	33件	33件	0件
合計	157件	154件	3件

⑤取り扱っている疾患の特徴

地域的な面から患者は高齢者が中心であり、地域医療を担う一般外科医師として胃癌、大腸癌などの悪性疾患や虫垂炎、胆石、ヘルニアなど「外科的な common disease」に対

応できるよう、指導医のもとで診断から治療まで行いつつ、外科外来診療、救急外傷処置、外科医療に必要な検査手技、手術手技を研修する。また救急搬送患者も大きく増加中であり急性腹症、消化管出血などへの対応も多い。

ほとんどの手術、検査ともに指導医の指導のもと、術者、施行医として施行していただく。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00-	回診							
9:00-12:00	午前外来							
9:00-12:00	内視鏡検査							
9:00-	手術							
13:00-	手術							
病棟業務								

5. 診療実績

当院での研修内容

外来診療： 初診、再診を問わず一般外科、消化器外科、消化器科としての外来を担当。診断から加療、終診まで必要時には指導医へのコンサルトしつつ関わっていただく。

手術： 常勤の麻酔科医による麻酔のもとでの手術を基本としている。虫垂炎や十二指腸潰瘍穿孔、鼠径ヘルニア、胆石症に対しては鏡視下手術を第一選択としており、結腸癌に対しても鏡視下手術を導入し始めている。院内での血液透析が可能であり、エンドトキシン吸着や急性腎不全に対する対応が可能である。研修者の経験にもよるが、手術症例の9割程度を術者として参加できる。

当直： 週1回程度。地域の病院が輪番で行っている救急当番日に際しては内科医との二人体制をとる。検査科、放射線科ともに技師が待機しており対応が可能である。緊急内視鏡、緊急手術など必要時には対応できる体制をとっている。

施設名：医療法人社団けいせい会 東京北部病院

1. 地域における役割と施設の特徴

足立区は他の都内地域に比べ、都心の大学病院等の大規模病院への受診がしづらい地域性があります。そこにおいて、当院は地域に根差した日常診療から、「がん」「心筋梗塞」「脳卒中」をはじめニーズの多い医療分野において、大学病院レベルの高度な手術まで幅広く手掛ける地域中核病院として診療を行っております。都内である地理性を生かし、大学病院との連携を密にし、最新の機器を取り入れ、カテーテル手術や腹腔鏡手術、低侵襲性治療などにも積極的に取り組み、患者様のご希望に沿った負担の少ない治療など、質の高い医療を地域に居ながらにして提供できる病院を目指しております。

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

院長 荒武寿樹

医局長 西村朝之

部長 谷英己

医員 村上大樹

医員 井原健

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

（1日平均）

	外来	入院
2014年	181人	111人
2015年	228人	101人
2016年	310人	105人

②許可病床数

一般病床：138床（急性期138床）

③2014～2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	239件
2015年	264件
2016年	535件
平均	346件

経験可能数
535件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
大腸がん手術	78件	78件	一件
胃癌手術	55件	55件	一件
胆嚢摘出術	75件	75件	一件
虫垂切除術	56件	56件	一件
鼠径ヘルニア手術	61件	61件	一件
腸管癒着症手術	20件	20件	一件
腹膜炎手術	12件	12件	一件

肛門周囲膿瘍切開術	10件	10件	一件
皮下腫瘍摘出術	20件	20件	一件
痔核手術	10件	10件	一件
合 計	397件	397件	一件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器外科・一般外科では、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肛門にわたる消化管の疾患と、肝臓・胆道・膵臓などの実質臓器の疾患を対象にしています。癌や肉腫などの悪性疾患を中心に、胆石やソケイヘルニア、皮下腫瘍などの良性疾患も対象としています。

また、腹腔鏡を用いた手術も積極的に行っており、胆嚢摘出術のみならず、悪性疾患に対しても適応を拡げております。ERCP、ESD等消化管内視鏡的治療も行っております。

また、種々の原因で引き起こされる腹痛、出血などにより緊急手術が必要な場合は24時間体制で受け入れております。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:45-9:00	朝カンファレンス							
9:00-9:30	総回診							
9:00-13:00	午前外来							
13:00-17:00	午後外来							
9:30-	手術							
9:30-	内視鏡検査							
11:30-	外科カンファレンス							
17:00-	医局会							
9:00-	病棟業務							

5. 診療実績

消化器外科・一般外科として幅広く、救急医療、手術、内視鏡治療、一般外来をおこなっている。地域医療を基本としながら、低侵襲治療など先進治療にも対応できる環境をとっている。大学病院、医局との連携を密にし、地域医療における若手医局員の教育も念頭に、十分なサポート体制をしいている。夜間、休日当直など、医師の手薄となる状況下などでも、遠隔操作の可能な電子カルテ、PACSを駆使し、院内、院外で常勤医と医療情報の共有を図ることで、迅速に緊急手術が対応可能であり、質の高い医療を提供できるようにしている。

施設名：医療法人財団中山会 八王子消化器病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は、1983年に故中山恒明先生が中山記念胃腸科病院として開設されて以来、消化器疾患専門病院として医療活動を行って参りました。その後、1996年の故羽生富士夫元理事長就任を機に名称を八王子消化器病院と改めました。2002年には、現地へ移転し、病院理念であります「患者様のための医療」を实践すべくソフト・ハードの両面で体制を整えて参りました。

教育・研究の特色としては、専門病院ならではの希少な症例を含め、その対象疾患は多岐にわたり消化器疾患のエキスパートを目指すには最高の研修病院です。また、他職種との連携も円滑になされており、自分が関わった症例を内視鏡、手術、標本病理と追跡調査し、深く学ぶことも出来ます。

2. 指導医・外科スタッフ（6名）

理事長	原田 信比古	顧問	今泉 俊秀
病院長	小池 伸定	医員	尾崎 雄飛
副院長	齋田 真		

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

(1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年度	248	83
2015年度	242	80
2016年度	229	79

②許可病床数

一般病床 98床

③2014-2016年のNCD登録数

施設全体		経験可能数
2014年	576件	
2015年	543件	
2016年	601件	
平均	573件	301件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
胃切除術（腹腔鏡下手術を含む）	19件	7件	12件
結腸切除術（ 〃 ）	25件	13件	12件
直腸切除術（ 〃 ）	12件	5件	7件
虫垂切除術（ 〃 ）	8件	7件	1件
胆嚢摘出術（ 〃 ）	50件	15件	35件
膵切除術	4件	0件	4件

肝切除術	2件	0件	2件
小腸切除術	1件	1件	0件
胆管手術	0件	0件	0件
ヘルニア手術	23件	18件	5件
その他の手術	3件	1件	2件
合 計	147件	67件	80件

⑤取り扱っている疾患の特徴

診療科	疾患の特徴
消化器外科	<p>消化器疾患については、食道、胃、小腸、大腸、肝胆膵と多岐にわたる疾患を対象とし、検査、治療を行っています。検査は、内視鏡(上・下部)、注腸造影、CT、エコー等を主に行い、治療は内科的・外科的治療の他、ESD 等の内視鏡治療や腹腔鏡下手術も年々増加しています。また、外来化学療法にも力を入れています。</p>

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00~9:00	朝カンファレンス、回診	■	■	■	■	■	■	
8:45~17:00 (水曜日:PM)	手術		■	■		■		
9:00~17:00	検査 (内視鏡など)	■						
9:00~17:00 (土曜日:AM)	外来				■		■	
17:30~18:30	症例検討会	■						
18:30~19:00	医局会	■						

5. 診療実績

①手術実績

- ・全身麻酔：557件
- ・腰椎・局所麻酔：44件

②内視鏡実績

(検査)

- ・上部内視鏡検査：7,849件
- ・下部内視鏡検査：3,815件

(治療)

- ・大腸ポリペクトミー：1,315件
- ・胃 ESD：57件
- ・大腸 ESD：31件
- ・ERCP：108件

施設名：谷津保健病院

1. 地域における役割と施設の特徴

千葉東葛地区の習志野市において地域に根ざした2次救急対応の急性期医療をおこなっている。(救急車件数：年間2400件、手術総数：年間1200件) 急性期医療の谷津保健病院と同じ医療法人下に回復期リハビリテーション病院、在宅医療支援施設、健診センターを有し、疾病の早期発見、急性期医療、リハビリテーション医療、在宅医療と切れ目のない医療を地域に提供している。総合診療能力を併せ持った専門的診療を行い、「断らない」「待たせない」「質の高い」医療を大切にしている。外科診療においては消化器外科・一般外科・乳腺外科・緩和ケアを柱として各領域の専門性を高めた診療を行っている。関連の大学病院からの派遣医師に手術・診療の中心的役割を担える様に至適な環境を提供し、着実なレベルアップを図ってもらっている。

2. 指導医・外科スタッフ (5名)

指導医：4名 外科医員：1名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

入院患者数(日)：平均180名 外来患者数(日)：平均480名

②許可病床数

280床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	440件
2015年	431件
2016年	408件
平均	408件

経験可能数
201件

④症例別経験可能数(術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載)

症例	手術数	術者として	助手として
胃切除(鏡視下含む)	15件	5件	10件
結腸切除(鏡視下含む)	30件	15件	15件
直腸切除(鏡視下含む)	10件	5件	5件
胆嚢摘出(鏡視下含む)	30件	15件	15件
肝切除	3件	1件	2件
鼠径ヘルニア手術(鏡視下含む)	35件	20件	15件
痔疾患手術	15件	10件	5件
乳腺手術	20件	5件	15件
鏡視下肺切除	10件	3件	7件
下肢静脈瘤手術	10件	4件	6件
その他(イレウスなど)	22件	5件	17件
合計	200件	88件	112件

⑤取り扱っている疾患の特徴

地域に密着した病院であり、消化器・一般外科、乳腺外科を中心に領域・難度の幅の広い手術をおこなっている。一般外来、救急外来、紹介症例等、緊急度においても様々な疾患を扱っている。消化管・胆嚢・鼠径ヘルニアは腹腔鏡手術を基本としておこなっている。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
9:00-17:00	手術							
9:00-10:30	病棟回診							
9:00-16:00	外来診療							
9:00-12:00	外来診療							
9:00-12:00	内視鏡検査（上部消化管）							
13:00-17:00	内視鏡検査（下部消化管）							
13:00-16:00	血管造影検査							
8:15-9:00	カンファレンス							

5. 診療実績

2016年

外科手術件数：408件

胃切除術：30件
結腸切除術：40件
直腸切除術：23件
胆嚢摘出術：53件
肝切除術：2件
鼠径ヘルニア手術：66件
痔疾患手術：29件
乳腺手術：77件
鏡視下肺切除：4件
下肢静脈瘤手術：8件
その他：73件
上部消化管内視鏡件数：3660件 うち ESD 件数：38件 うち EVL 件数：23件
下部消化管内視鏡検査件数：2012件 うち ESD 件数：25件
ERCP 件数：95件 うち ENBD 件数：10件
血管造影件数：25件
超音波検査件数 腹部：5251件 乳腺：2905件

施設名：横浜新緑総合病院

1. 地域における役割と施設の特徴

急性期総合病院としてH3年より横浜市緑区に開設して以来24年「確かな医療・やさしい対応・地域への貢献」を基本理念とし、地域医療に専念しております。横浜市の二次救急拠点病院、日本医療機能評価機構認定病院として地域の方々、近隣医療機関の協力しながら横浜市北部の中核病院として地域医療の一翼を担っています。医療環境の様々な変化とニーズに対応するため、診療科のセンター化を進め、迅速な検査、診断、質の高い治療を提供できる体制を整えております。

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

消化器センター長、兼 外科・消化器科 部長 齊藤 修治
 外科・消化器科 副部長 大塚 亮 外科・消化器科 副部長 平山 亮一
 外科・消化器科 医長 佐々木 一憲 外科・消化器科 医員 宮島 綾子

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

	外来（1日平均患者数）	入院（1日平均患者数）
2014年	442名	179名
2015年	471名	184名
2016年	474名	203名

②許可病床数

236床（一般 199床 療養 37床）

③2014-2016年のNCD登録数

施設全体		経験可能数
2014年	445件	
2015年	387件	
2016年	421件	
平均	418件	
		421件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
結腸悪性	66件	12件	54件
大腸良性	7件	4件	3件
小腸	12件	4件	4件
胃悪性	11件	4件	7件
肝胆道膵臓悪性	7件	0件	7件
胆道良性	67件	25件	25件
虫垂炎	41件	20件	5件
各種ヘルニア	86件	30件	40件
肛門疾患	26件	5件	10件
下肢静脈瘤	24件	4件	6件
合計	347件	108件	161件

⑤取り扱っている疾患の特徴

外科・消化器科：悪性腫瘍手術は結腸・直腸がんを中心に、胃がんや一部肝・胆・膵臓の診断および外科治療を行っております。良性疾患では、ヘルニア、急性虫垂炎、胆嚢結石・胆嚢炎、肛門疾患を中心に、診断および治療を行っております。当科で特に力を入れている知治療に腹腔鏡下手術（前腹部手術の77%を腹腔鏡下に行っております）、大腸ステント治療や直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術などがあります。消化センターとして診療体系をとっていることから、消化器内科医とともに消化器内視鏡検査も行い、結腸憩室炎や憩室出血、様々な腸炎逆流性食道炎、ヘリコバクター関連疾患などの診療にもあたっている。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:30~9:00	病棟回診							
9:00~13:00	手術							
13:00~15:00	手術							
9:00~13:00	外来							
14:00~17:00	外来							
9:00~12:00	上部消化管内視鏡検査							
14:00~15:00	下部消化器内視鏡検査							
17:30~19:00	消化器疾患多職種合同 カンファレンス							
17:30~18:30	病棟回診							

5. 診療実績

区分 1

	件数
頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	20
脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	14
脳動脈瘤頸部クリッピング（2箇所以上）	4

区分 2

靭帯断裂形成術（その他の靭帯）	1
観血的関節授動術（膝）	1
水頭症手術（シャント手術）	19
水頭症手術（脳室穿破術（神経内視鏡手術によるもの）	5
髄液シャント抜去術	0
経皮的脳血管形成術	10
前立腺悪性腫瘍手術	0
肝切除術（3区域切除以上のもの）	1
肝切除術（外側区域切除）	0
腹腔鏡下肝切除術（部分切除）	1
腓体尾部腫瘍切除術	1
腓頭部腫瘍切除術	2
胆管悪性腫瘍手術	0

区分 4

腹腔鏡下胆嚢摘出術	60
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	22
腹腔鏡下鼠径ヘルニア（両側）	13
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	18
腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	7
腹腔鏡下胃・十二指腸潰瘍穿孔縫合術	3
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	8
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍以外の切除術）	1
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	35
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	3
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）	0
腹腔鏡下直腸脱手術	4
子宮附属器腫瘍摘出術（両側、腹腔鏡）	1
腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	0
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	0
卵管腫瘍全摘除術（両側、腹腔鏡）	0

その他の区分

人工関節置換術（股）	18
人工関節置換術（膝）	25

施設名：東京都保健医療公社 荏原病院

1. 地域における役割と施設の特徴

大田区、品川区を中心とした東京都区南部地域の中核病院として地域の医療機関と連携しながら医療を提供している。特にがん医療、救急医療、脳血管疾患治療に重点をおいている。

2. 指導医・外科スタッフ（7名）

外科部長	太田 岳洋	乳腺外科部長	日野 真人
外科医長	吉利 賢治	外科医長	梶山 英樹
外科医長	山中 澄隆	外科医員	藤田 泉
外科医員	金子 由香		

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

2014年	入院	7951人	外来	212728人
2015年	入院	7930人	外来	211379人
2016年	入院	8238人	外来	212319人

②許可病床数

500床であるが現在は447床で稼働

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	514件
2015年	535件
2016年	510件
平均	520件

経験可能数
254件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）1年間の数字

症例	手術数	術者として	助手として
胃切除	25件	10件	5件
大腸切除	50件	15件	10件
肝切除	15件	2件	10件
胆のう摘出	55件	30件	10件
膵頭十二指腸切除	6件	1件	3件
虫垂切除	50件	25件	5件
ヘルニア手術	60件	30件	10件
消化管穿孔	10件	5件	3件
乳房切除	60件	2件	10件
肺切除	30件	0件	5件
合計	361件	120件	71件

⑤取り扱っている疾患の特徴

当院の外科は消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺外科疾患を扱っている

消化器・一般外科では食道、胃、大腸、肛門、肝・胆・膵などの良性、悪性疾患に対して検査、治療（手術療法、内視鏡治療、化学療法など）を行っている。また各種ヘルニアに対する手術も行っている。当院は一救急疾患の受け入れも多く、虫垂炎、胆石・胆嚢炎・胆管炎、腸閉塞、消化管穿孔、腹部外傷などの手術を行っている。

呼吸器外科は原発性、転移性肺がん、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸部外傷などを扱っている。胸部外科医は常勤医は1人であるが、昭和大学の胸部外科と連携して治療にあたっている。

乳腺外科は乳腺科として別の独立した標榜科として存在し、乳腺専門医が診断から治療まで行っている。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:00	総回診							
9:00～	手術または病棟業務							
9:00～	検査、病棟業務							
5:00-6:00	夕回診							
6:00-7:30	外科カンファレンス							
6:00-6:30	内科外科放射線科合同カンファレンス							
6:00-7:00	外科病理カンファレンス							

5. 診療実績

悪性疾患では大腸癌が年間60例ほどで最も多い。大腸癌イレウスを生じたような進行癌の割合が高いのが特徴である。このため鏡視下手術は全体の4割程度にとどまっている。肝転移症例も多く、化学療法を併用しながら肝切除を行うなど積極的に治療を行っている。

肝胆膵の専門医も充実しており、肝胆膵領域の高難度手術も年間20例近く行っている。また、大学病院などとは異なり、一般病院であるので鼠径ヘルニア、虫垂炎、腸閉塞や消化管穿孔などの手術も多数経験することが可能である。

外科専門医を目指す研修医には指導医のもとで積極的に術者を経験させており、年間約120例程度の術者経験を積んでもらっている。また手術だけでなく内視鏡検査や治療も経験させている。学術集会には年間2回程度は症例報告を中心に報告させるようにするとともに、論文とするように指導している。

施設名：上福岡総合病院

1. 地域における役割と施設の特徴

地域における災害拠点病院、2時救急の中心施設。地元医師会からの紹介件数4000件以上。癌認定医機構認定病院として腹腔鏡手術を中心に施行。化学療法も外来、入院で多数施行している

2. 指導医・外科スタッフ（5名）

外科学会指導医 専門医：院長井上達夫 外科部長須藤泰裕 松下典正
 専門医：窪田猛
 名誉院長：喜多村陽一

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

外来1月平均患者数：471

②許可病床数

一般242床 医療療養型42床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	218件
2015年	276件
2016年	247件
平均	247件

経験可能数
247件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
胃癌手術 胃全摘	10件	5件	5件
胃切除	30件	5件	20件
大腸癌手術 結腸切除	30件	5件	10件
直腸切除	15件	3件	10件
直腸切断術5	5件	1件	4件
乳房部分切除	30件	0件	30件
内痔核切除術	80件	30件	10件
臍頭十二指腸切除術	3件	0件	3件
鼠径ヘルニア手術	80件	30件	2件
胆嚢摘出術	30件	15件	15件
合計	313件	94件	109件

⑤取り扱っている疾患の特徴

胃癌、大腸癌、膵臓癌、肝臓癌の各種癌
鼠径ヘルニア 痔核 などの手術
巻き爪、アテローム、皮下腫瘍などの小手術

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
9：00～12：00	胃内視鏡			■			■	
	病棟回診		■			■		
	外来				■			
13：00～17：00	大腸内視鏡				■			
	外来		■			■		
	手術			■		■		
13：00～15：00	外科合同カンファレンス						■	
17：00～19：00	医局全体ミーティング	■						

5. 診療実績

腹腔鏡の手術を年に 60 例以上、大腸癌の 80%胃癌の 50%を施行しています。
鼠径ヘルニアは 3 割が腹腔鏡で施行。
乳がんは埼玉医大の大西教授が週に 1-2 例施行。甲状腺も 1 月に 1 回施行
末梢血管は、シャント手術を施工中
小手術は多数あります
胃カメラは年 3000 件 大腸カメラは 1000 件 血管造影は 30 例
外来化学療法、入院化学療法はのべ 1000 例施行

施 設 名：東京都保健医療公社 多摩南部地域病院

1. 地域における役割と施設の特徴

完全予約制の地域支援病院。癌治療と二次救急を中心とした高度医療を提供

2. 指導医・外科スタッフ（ 12名）

指導医 5名 スタッフ 4名

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

新入院患者数 48337人/年間

②許可病床数

300床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	494件
2015年	519件
2016年	568件
平均	527件

経験可能数
170件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
胃切除	19件	5件	15件
胃全摘	13件	1件	10件
結腸切除	55件	10件	35件
腹腔鏡下結腸切除	22件	1件	10件
腹腔鏡胆嚢摘出術	50件	10件	25件
直腸切除	30件	3件	20件
膵頭十二指腸切除	12件	0件	6件
肝切除	11件	1件	6件
ヘルニア根治術	123件	24件	40件
合 計	335件	55件	167件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化管癌中心に、肝胆膵癌も扱い消化器外科万遍なく経験できる。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:30~8:45	朝カンファレンス							
9:30~	手術							
9:00~	病棟業務							
16:30~	総回診							
8:00~9:00	手術症例検討会							
16:30~	病棟カンファレンス							
9:00~15:30	外来							

5. 診療実績

入院患者数は一日当たり 55.3 人で、病床利用率は 92.9%でした。新入院患者数は 1800 人でした。

手術例数

平成 25 年度の手術例数は 435 例でそのうち全身麻酔症例が 249 例でした。定時手術は 390 例、緊急手術は 45 例でした。疾患別では悪性疾患が 193 例、良性疾患が 242 例で年々悪性疾患の割合が増加しております。悪性疾患では、大腸癌 (88 例) が一番多く次いで乳癌 (56 例)、胃癌 (26 例) と続き、原発性・転移性肝癌、膵癌、胆道癌、食道癌の手術も積極的に行っております。良性疾患では、鼠径ヘルニア、胆石症が多く行われました。腹腔鏡下手術も積極的に行っており、胆石症においては 69%に腹腔鏡下手術が行われております。また大腸癌手術もチームを作成して腹腔鏡下手術を導入し、更に虫垂炎手術・イレウス解除手術にも適応を拡大しております。更に腹腔鏡下胃切除術も導入中です。

その他

近年のがん医療においては、積極的な手術療法のみならず、急速に進歩する化学療法も大事であり、最新がん化学療法を取り入れております。またがん集学的医療の一環として放射線科との連携により放射線化学療法も積極的に取り入れております。また栄養サポートチーム (NST) に積極的に参加すると共に術前免疫療法を取り入れることにより術後合併症の軽減を図っております。更にがん終末期のみならずがん医療早期からの緩和ケア導入にも取り組んでおります。

施設名：東京都保健医療公社 豊島病院

1. 地域における役割と施設の特徴

重点医療に「救急医療」、「脳血管疾患医療」、「がん医療」を掲げ、23区西北部（板橋区、練馬区、北区、豊島区）の地域医療を担っています。その他にも緩和ケア、精神科救急、感染症、リハビリテーション、障害者歯科にも積極的に取り組んでおります。

2. 指導医・外科スタッフ（14名）

福田 晃 安藤昌之 青木信彦 飯田 聡 阿美克典 今井健一郎
 鷹野秀明 天笠秀俊 本山一夫 前田新介 川口真智子 渋谷豪
 梶山大介 山田 梓

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

総入院患者数：123,039名 総外来患者数：182,110名

②許可病床数

418床 うち外科 86床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体	
2014年	950件	経験可能数 240件
2015年	954件	
2016年	840件	
平均	914件	

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
食道 悪性	5件	1件	1件
食道 良性	2件	0件	1件
胃 悪性	50件	10件	10件
胃 良性	7件	2件	2件
腸 悪性	135件	20件	20件
腸 良性	184件	15件	20件
肝臓 悪性	21件	3件	4件
胆道 悪性	8件	0件	2件
胆道 良性	78件	25件	20件
膵臓 悪性	8件	1件	3件
その他	342件	30件	50件
合 計	840件	107件	133件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器（食道、胃、小腸、大腸、肛門疾患、肝臓、胆道、膵臓）関連の手術以外にも内視鏡検査や PEG、PTEG、EMR、ESD、EST、胆道ステント、上部消化管・大腸ステントなどの内視鏡的治療、PTGBD、PTCD、CT 下ドレナージ、神経ブロック等の IVR にも外科医が積極的に取り組んでいます。

精神科救急を行っている病院のため、外科的治療を要する精神疾患患者の治療も当院精神科と連携のうえ数多く治療してきました。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～8:45	病棟全員回診（病棟の総回診）	○						
7:45～8:45	術前カンファランス（放射線科合同）		○					
8:00～8:45	術後合併症検討会（内科、麻酔科）			○				
8:00～8:45	入院患者カンファレンス				○			
8:00～8:45	抄読会・勉強会					○		
8:45～9:00	朝カンファレンス	○	○	○	○	○		
8:50～	手術	○	○	○	○	○		
9:00～	外来	○	○	○	○	○		
9:00～	各種検査	○	○	○	○	○		
17:00～	グループ回診	○	○	○	○	○		
18:00～（1/月）	内視鏡病理カンファレンス					○		
17:00～（1/2W）	がんセンターボード		○					

5. 診療実績

外科手術件数は年 800～900 件で、人材の充実に伴い手術件数や高難度手術件数も徐々に増えてきております。手術以外にも内視鏡検査や PEG、PTEG、EMR、ESD、EST、胆道ステント、上部消化管・大腸ステントなどの内視鏡的治療、PTGBD、PTCD、CT 下ドレナージ、神経ブロック等の IVR にも外科医が積極的に取り組んでいます。

当院では“断らない救急“を目指しており救急医療にも非常に積極的に取り組んでおります。また区西北部医療圏の災害拠点病院として、外科医 2 人が日本 DMAT 隊員となり、2010 年より大規模災害訓練や各種防災訓練、医療救護班活動などの災害医療の中心メンバーとして活動しています。

施設名：社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院

1. 地域における役割と施設の特徴

地域支援病院である。高齢者の手術症例が多い。内視鏡外科に積極的に取り組んでいる。琉球大学消化器腫瘍外科学講座の関連施設である。

2. 指導医・外科スタッフ（9名）

奥島憲彦 西原 実 宮平 工 花城直次 野村寛徳
嵩原裕夫 阿嘉裕之 国吉史雄 仲本正哉

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

NCD登録数は下記 その他、消化器癌患者の化学療法や胆石胆嚢炎、大腸憩室炎、イレウスなどの保存的治療も担当している。高齢者の手術症例が多い。緊急手術が多い。他都道府県に比較して大腸癌が多く、胃癌が少ない。

②許可病床数

外科 42 床、病院全体 308 床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	915件
2015年	939件
2016年	932件
平均	929件

経験可能数
232件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
消化管悪性疾患	25件	5件	20件
消化管良性疾患	35件	25件	10件
肝胆膵悪性疾患	15件	0件	15件
肝胆膵良性疾患	30件	20件	10件
乳腺疾患	25件	10件	15件
ヘルニアなど	30件	10件	20件
小外科	70件	60件	10件
合 計	230件	130件	100件

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器領域の疾患はほとんど網羅している。悪性疾患、良性疾患のバランスがとれている。緊急手術が多い。消化管内視鏡治療（ESD, POEM など）も行っている。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:30	病棟回診、グループ別							
17:30-18:00	病棟回診、グループ別							
18:00-19:00	消化器内科との合同カンファレンス							
8:15-9:00	術後カンファレンス							
14:00-15:30	外科全体回診							
15:30-17:30	術前カンファレンス、抄読会							

5. 診療実績

全国学会、九州地方会、沖縄県内学会に積極的に発表している。論文投稿も励行している。

施設名：一般財団法人 防府消化器病センター 防府胃腸病院

1. 地域における役割と施設の特徴

急性期消化器専門病院として特化しているが、同時に緩和医療、在宅医療にも力を入れており、地域における中核病院としての機能を果たしている

2. 指導医・外科スタッフ（4名）

理事長・病院長 三浦修、副院長 松岡功治、医局長 竹尾幸子、柿本忠俊

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

外来患者数 41,663人（2016年） 入院患者数 30,212人（2016年）

②許可病床数

一般120床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	325件
2015年	324件
2016年	299件
平均	316件

経験可能数
299件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
消化管および腹部内臓	290件	件	件
頭頸部・体表・内分泌外科	5件	件	件
上記の各分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）	152件	件	件
合計	447件	件	件

※術者および助手としての経験可能数は、その都度変更となる為不明です。

⑤取り扱っている疾患の特徴

消化器内科疾患、消化器外科疾患を中心に上部、下部消化管内視鏡治療、開腹手術、腹腔鏡下手術、肝胆膵疾患インターベンション治療、さらに緩和医療、在宅医療も行っている。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
午前	外科診療							
〃	諸検査（上部消化管内視鏡）							
午後	諸検査（下部消化管内視鏡）							
午前	医局会							
午後	症例検討会、手術検討会							
午後	総回診							
午後	抄読会							

5. 診療実績

平成28年手術症例

(平成28年1月～12月)

314症例(手術数299件)

食道	2	良性	2	腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術 腹腔鏡下腹腔ドレナージ、胃瘻造設術	1 1
胃・ 十二指腸	29	良性	4	胃部分切除 バイパス胃空腸吻合 腹腔鏡補助下腫瘍摘出術	2 1 1
		悪性	25	バイパス胃空腸吻合 胃全摘食道空腸RY吻合術、脾体尾部脾合併切除 胃全摘食道空腸RY吻合術、胆嚢摘除術(開腹) 胃全摘食道空腸RY吻合術、脾全摘除 残胃亜全摘術、小腸切除[十二指腸局所的切除] 腹腔鏡補助下胃全摘術、腹腔鏡下胆嚢摘出術 噴門側胃切除、double tract 腹腔鏡下幽門側胃切除術 幽門側胃切除(B-1) 幽門側胃切除(B-2) 幽門側胃切除(R-Y) 試験開腹術	2 1 3 1 1 2 2 6 2 3 1
小腸・ 結腸	117	良性	61	小腸切除、人工肛門閉鎖 小腸切除、腸管癒着症手術 小腸切除術 腹腔鏡下虫垂切除術 腹腔鏡下虫垂切除術(単孔式) 腹腔鏡下虫垂切除術、膿瘍ドレナージ術 虫垂切除、膿瘍ドレナージ術 腹腔鏡下結腸切除術 腹腔鏡下結腸切除術(単孔式) 結腸切除術 半側結腸切除 人工肛門造設 人工肛門閉鎖 腸管癒着症手術 腹腔鏡補助下腫瘍摘出術	1 4 1 17 9 4 3 2 1 8 1 2 2 5 1
		悪性	56	小腸切除、小腸大腸吻合 虫垂切除、膿瘍ドレナージ術 腹腔鏡下結腸切除術 腹腔鏡下結腸切除術(単孔式) 腹腔鏡下右半結腸切除 腹腔鏡補助下半側結腸切除 右半結腸切除、肝部分切除 半側結腸切除 結腸切除術 S状結腸切除、人工肛門造設術、子宮全摘[腹式] 腹腔鏡下高位前方切除術 直腸高位前方切除 ハルトマン手術 腸吻合 人工肛門造設術	1 1 11 3 2 2 1 10 17 1 1 1 2 1 2

平成28年手術症例

(平成28年1月～12月)

直腸・ 肛門	29	良性	6	腹腔鏡下高位前方切除術 直腸切除術 直腸脱手術(経肛門)、痔核結紮切除 人工肛門造設術 肛門周囲膿瘍の排膿	1 2 1 1 1
		悪性	23	腹腔鏡下高位前方切除術 直腸高位前方切除 腹腔鏡下低位前方切除術 直腸低位前方切除 腹腔鏡下超低位前方切除術 直腸超低位前方切除 腹腔鏡下直腸切断術 ハルトマン手術 結腸切除術、人工肛門造設術 直腸腫瘍摘除術 肛門病巣切除	2 4 4 4 1 1 3 1 1 1 1 1
胆	52	良性	50	総胆管切開切石術 総胆管切開切石術、総胆管十二指腸吻合 総胆管切開切石術、胆嚢摘除術(開腹)、総胆管ドレナージ 腹腔鏡下胆嚢摘出術 腹腔鏡下胆嚢摘出術(単孔式) 胆嚢摘除術	2 1 2 35 5 5
		悪性	2	幽門輪温存膵頭十二指腸切除	2
肝	4	良性	1	肝部分切除	1
		悪性	3	肝右葉切除 肝区域切除、胆嚢摘除術(開腹) 肝ラジオ波焼灼術2cm以内	1 1 1
膵	8	良性	4	幽門輪温存膵頭十二指腸切除 膵体尾部切除、脾全摘除	2 2
		悪性	4	バイパス胃空腸吻合 十二指腸潰瘍部縫合、胆嚢外瘻造設術、腹腔ドレナージ 腸吻合	2 1 1
その他	73	良性	71	腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復[両側](TAPP) 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復[両側](TEP) 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TAPP) 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TEP) 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TEP)(単孔式) 腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術、腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術 鼠径ヘルニア修復術 腹腔鏡下大腿ヘルニア修復術 腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術 腹腔鏡下閉鎖孔ヘルニア修復術 腹腔鏡下臍ヘルニア修復術 腹壁癒痕ヘルニア根治 臍ヘルニア修復術 腹腔鏡下潰瘍穿孔大網充填術、腹腔ドレナージ 急性汎発性腹膜炎手術 腹腔ドレナージ 横隔膜縫合術、腸腹腔内用手の手技術、ヘルニア修復術、大網固定 腹腔鏡下後腹膜腫瘍摘出術 アテローム摘出術 皮下異物除去[切開を伴う] 陰のう水腫穿刺術	2 2 14 14 6 1 10 1 3 1 1 1 2 1 2 1 1 1 1 3 3 1
		悪性	2	頸部リンパ節切除 腹腔鏡下試験開腹術	1 1

施設名：独立法人地域医療機能推進機構山梨病院

1. 地域における役割と施設の特徴

甲府地域の中核病院である。消化器に特化していることが大きな特徴であり、消化器外科医 3 名と消化器内科医 3 名で構成する消化器病センターは、医療過疎の甲府地域の中核病院の中では、最も充実した施設である。また、乳腺外科と整形外科手術も多数行っており、内科治療より、外科治療に秀でた病院であることも特徴の一つである。また輪番で二次救急疾患を請け負っており、腹部・整形疾患においては、多数の緊急手術に対応している。また、当院外科では山梨県立中央病院との連携で、小児外科・呼吸器外科・循環器外科手術への助手参加が可能な状態となっており、各々の科で助手として NCD 登録をされている状態となっている。

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

院長 外科学会指導・専門医 小澤 俊総
 外科部長 外科学会指導・専門医 消化器外科学会指導・専門医 安村 友敬
 外科部長 外科学会指導・専門医 曾田 均

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

2014年度 外来患者数	85877人	2014年度 入院患者数	42544人
2014.1～12 外来患者数	9479人	2014.1～12 入院患者数	5980人
2015年度 外来患者数	83626人	2015年度 入院患者数	46806人
2016年度 外来患者数	81133人	2016年度 入院患者数	45120人

②許可病床数

一般病棟 168床

③2014-2016年のNCD登録数(外科+乳腺外科)

施設全体		経験可能数
2014年	394件	
2015年	302件	
2016年	323件	
平均	339件	107件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

（2014年度の後期研修医5年目医師の実際を記載します。）

症例	手術数	術者として	助手として
食道悪性	2件	0件	2件
胃悪性	39件	2件	37件
結腸悪性	25件	3件	22件
直腸悪性	29件	2件	27件
肝臓悪性	3件	0件	3件
胆膵悪性	10件	1件	9件
胆道良性	37件	10件	27件
虫垂炎	10件	5件	5件

各種ヘルニア	60件	25件	0件
乳癌	99件	0件	10件
その他	54件	3件	20件
合計	368件	51件	162件

⑤取り扱っている疾患の特徴

外科

食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆道・膵臓まですべての消化器臓器の良・悪性疾患の検査・診断から手術までを行っている。胆嚢摘出や虫垂炎などの良性疾患・胃大腸の早期悪性疾患に対して積極的に腹腔鏡下手術を行っている。胃・大腸などの粘膜内癌のESD等の消化管内視鏡下治療も一部外科で行っている。内科とタイアップし、腹腔鏡下手術に消化管内視鏡治療を併用する、胃 GIST に対する LECS 法、術前胆管切開が困難であった総胆管結石に対するランデブー法なども行っている。基幹病院ではあまり行わないような、ヘルニア手術、急性腹症に対する緊急手術が多いのも大きな特徴である。

乳腺外科

乳房に対する訴えのある患者は全て診察しており、良性疾患では局所麻酔下での良性腫瘍の摘出や乳腺膿瘍に対する切開排膿を年間 30 例ほど行っている。乳癌手術は年間 100 例程で、そのうち温存手術は 30%程度である。現在は標準手術とされるセンチネルリンパ節生検を RI/色素併用で行い、常勤病理診断医による術中迅速組織診断を行っている。当院健診センターでの乳癌マンモグラフィ検診は年間約 6000 例で、要精検者の 80%以上が当院乳腺外来を受診しており、乳癌発見と検診精度管理の両方に有益である。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:30~9:00	カンファレンス+回診							
9:00~	手術							
9:00~12:00	外来							
9:00~12:00	内視鏡検査							
9:00~12:00	腹部超音波							
13:00~	手術							
16:30~17:00	回診							
17:00	消化器外科内科症例検討会							

5. 診療実績

手術の施設基準に定められた当院手術症例数 2015. 1. 1~12. 31

肺悪性腫瘍手術等 区分 1 に分類される手術 (エ) 0 例
 靭帯断裂形成手術等 区分 2 に分類される手術 (ア) 7 例
 肝切除 区分 2 に分類される手術 (カ) 0 例
 子宮付属器悪性腫瘍手術 区分 2 に分類される手術 (キ) 0 例
 食道切除再建術等 区分 3 に分類される手術 (カ) 0 例
 胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等 区分 4 に分類される手術 38 例
 人工関節置換術 10 例
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換含む) 2 例
 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術 0 例
 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術 0 例

施設名：東京医科大学茨城医療センター

1. 地域における役割と施設の特徴

地域がん診療連携拠点病院としてがんに対する高度先進医療の提供とともに、地域の医療ニーズを充足する急性期病院として『総合救急』を標榜し、“断らない医療”の実践を行い、外傷も含めた救急医療を提供している。また地域完結型医療の一端を担う医療機関として、医療、福祉の連携を強化した地域包括医療システムの構築している。

また教育・研究面として診療科間の連携とともに優秀な指導医による研修指導とともに共同研究センターや他施設との連携研究も進捗している。各分野のがん拠点病院としての専門性、先進性とともに地域医療を担う両面を有し、建学の「正義・友愛・奉仕」の精神に基づき、患者中心の優しい医療を推進致しております。

2. 指導医・外科スタッフ（7名）

主任教授	鈴木 修司（消化器外科）	講師	中島 英治（呼吸器外科）
教授	古川 欣也（呼吸器外科）	講師	大城 幸雄（消化器外科）
准教授	下田 貢（消化器外科）	助教	海瀬 博史（乳腺・内分泌外科）
准教授	島崎 二郎（消化器外科）		

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

(1日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	907.2人	361.4人
2015年	836人	353人
2016年	840.7人	354.5人

②許可病床数

501床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	736件
2015年	604件
2016年	586件
平均	642件

経験可能数

135件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
胃癌	47件	5件	20件
大腸癌	79件	10件	30件
肝癌	17件	1件	10件
膵癌	10件	0件	10件
胆石症	57件	20件	10件
鼠径ヘルニア	60件	30件	10件
急性虫垂炎	34件	20件	5件

肺癌	72件	5件	62件
自然気胸	10件	5件	5件
乳癌	51件	2件	40件
甲状腺癌	3件	1件	2件
合計	440件	99件	204件

⑤取り扱っている疾患の特徴

診療科	疾患の特徴
消化器外科	消化器の病気についてはすべての疾患を網羅し、食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵などすべての消化器（胃腸科）疾患に対する検査、治療を行っている。地域がん診療連携拠点病院であり、がんに対しては集学的治療も積極的に行っている。また地域の救急医療を担っており、腹部救急疾患についても対処している。高難度手術とともに低侵襲手術もできるように体制をとっている
呼吸器外科	原発性肺癌、転移性肺腫瘍、気腫性肺疾患、縦隔腫瘍、中皮腫、慢性膿胸などに対する外科的治療を中心に診療し、肺癌に対する完全胸腔鏡下手術も積極的に施行している。肺癌に対する抗癌剤や放射線による術前術後療法も行い、予後改善を図っている。中心型早期肺癌では、光線力学的治療法（PDT）により、手術回避あるいは縮小手術が可能になり呼吸機能の温存を可能にしている。進行癌などの気道狭窄症例に対しては、呼吸器インターベンションを用いて気道を拡張し、硬性気管支鏡下ステント留置により QOL の改善に努めている。気管支鏡検査の他に、縦隔鏡を用いた縦隔リンパ節の確定診断も行っている。
乳腺・内分泌外科	乳腺疾患・甲状腺腫瘍を対象にしている。地域に根ざしたがん検診から high volume center ならではの専門性の高い診断と治療および先進的な高度医療を提供している。診療科横断的な協力体制が必要で、他部署の多くのスタッフの協力のもと、現体制を維持している。

4. 週間スケジュール

消化器外科

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:30	回診							
8:30-8:45	朝カンファレンス							
9:00～	手術							
9:00～	病棟業務							
	午前外来							
	午後外来							
5:00～5:30	症例検討会							
5:30～6:00	医局全体ミーティング							
5:00～	キャンサーボード							

5. 診療実績

医科点数表第2章第10部手術通則第5号及び第6号並びに
 歯科点数表第2章第9部手術通則第4号に掲げる手術（平成28年）

区分	名称	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
1	ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	3	1	6	5	11	4	1	1	8	6	3	6	55	
	イ 黄斑下手術等	22	26	31	26	16	30	17	25	21	11	25	18	268	
	ウ 鼓室形成手術等	2	0	2	2	0	1	1	4	2	1	1	1	17	
	エ 肺悪性腫瘍手術等	6	2	6	4	9	5	3	4	6	1	6	6	58	
	オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	ア 靭帯断裂形成手術等	4	0	1	2	2	0	1	1	0	1	0	1	13	
	イ 水頭症手術等	0	2	5	4	4	6	3	5	4	2	4	4	43	
	ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	エ 尿道形成手術	2	2	1	1	0	1	0	2	0	1	1	1	12	
	オ 角膜移植術	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	カ 肝切除術等	3	2	3	4	9	5	4	4	3	4	1	8	50	
	キ 子宮附属器悪性腫瘍手術等	0	0	0	3	2	0	3	3	4	2	0	1	18	
3	ア 上顎骨形成手術等	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	ウ バセドウ甲状腺全(亜全摘)摘術(両葉)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	エ 母指化手術等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オ 内反足症等	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	カ 食道切除再建術等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4	
	キ 同種腎移植術等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	区分4に該当される手術	12	19	12	11	8	12	16	20	13	16	7	9	155	
その他の区分	人工関節置換術	5	2	2	3	1	4	3	3	3	3	1	3	33	
	乳児外科施設基準対象手術	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	3	5	4	3	0	3	3	2	5	3	1	0	32	
	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む)及び体外循環を要する手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	経皮的冠動脈形成術	急性心筋梗塞に対するもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		不安定狭心症に対するもの	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
		その他のもの	1	0	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	6
	経皮的冠動脈粥腫切除術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	経皮的冠動脈ステント留置術	急性心筋梗塞に対するもの	5	4	9	5	2	2	1	2	1	1	3	6	41
		不安定狭心症に対するもの	2	1	4	3	3	4	2	2	2	3	1	1	28
その他のもの		8	14	15	16	16	11	12	15	17	15	20	21	180	

施設名：埼玉県済生会栗橋病院

1. 地域における役割と施設の特徴

医療現場で働く喜びを自覚し、医療を通して社会と地域に貢献するという理念のもと、2011年に地域救急センターを開設し、2.5次ともいえる救急医療に積極的に取り組み、地域住民に質の高い医療を提供している。施設の特徴として当院は東京女子医科大学の特定関連病院として位置づけられ、原則として医師は同大学からの派遣である。このため診療スタッフは常に最新医療を導入する姿勢を持ち続け、診療とともに臨床研究にも力を注いでいる。救急から専門性の高い治療まで、さまざまな臨床研修が可能な施設である。

2. 指導医・外科スタッフ（7名）

診療技術部長	小池太郎	外科統括部長兼手術部長	吉松和彦
乳腺外科非常勤医師	木下 淳	呼吸器外科担当部長	小山邦広
呼吸器外科副担当部長	宮野 裕	診療統括部副部長(外科系)	伊藤嘉智
外科主任医長	今泉理枝		

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

① 患者数（2016年度実績）

一日平均外来患者数 666人 一日平均入院患者数 276人

② 許可病床数

329床（一般325床・感染病床4床）

③ 2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	698件
2015年	803件
2016年	890件
平均	797件

経験可能数
350件

④ 症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症 例	手術数	術者として	助手として
ヘルニア根治術（腹腔鏡・前方アプローチ）	55件	30件	25件
虫垂切除術（腹腔鏡・開腹）	30件	15件	15件
胆嚢摘出術（腹腔鏡・開腹）	45件	15件	30件
結腸切除術（腹腔鏡・開腹）	45件	10件	35件
胃切除術（腹腔鏡・開腹）	22件	2件	20件
人工肛門造設術	5件	3件	2件
乳腺手術	10件	5件	5件
胸腔鏡下手術	15件	5件	10件
末梢血管手術	15件	5件	10件
腫瘍摘出術	15件	10件	5件
合 計	257件	100件	157件

⑤ 取り扱っている疾患の特徴

当院外科は消化器外科・腎不全外科・乳腺外科・呼吸器外科により構成されている。

消化器外科では胃・小腸・大腸・肛門・肝胆膵の悪性疾患（胃癌・大腸癌・肝癌・膵癌など）から良性疾患（ヘルニア・胆石症・腸閉塞など）、緊急手術（虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔など）まで、消化器全般の診療・手術を行っている。腎不全外科ではブラッドアクセス手術やカテーテル治療を行い、腎移植も行っている。乳腺外科では乳癌（温存・全摘など）や良性腫瘍の診断・手術を行い、呼吸器外科では主に気胸や肺癌、縦隔腫瘍の手術を行っている。

各領域でプライマリ・ケアから抗がん剤を含めた薬物療法、緩和治療にあたっており、上述疾患の発症初期から終末期までの診療に携わることが可能である。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00 ~ 8:30	抄読会・勉強会							
8:00 ~ 8:30	内視鏡カンファレンス							
8:30 ~ 9:00	朝回診							
9:00 ~	病棟業務							
9:00 ~ 17:00	手術							
16:00 ~ 17:00	手術・病理カンファレンス							
17:00 ~ 17:30	死亡症例カンファレンス							
17:45 ~ 18:00	病棟カンファレンス							
18:00 ~ 18:15	新患カンファレンス							
18:15 ~ 18:30	夕回診							
17:30 ~ 18:00	病棟合同カンファレンス							

5. 診療実績

※施設基準届出手術件数（2015年1月～12月実績）

頭蓋内腫瘍摘出術等	(年間症例数:17件)
黄斑下手術等	(年間症例数:0件)
鼓室形成手術等	(年間症例数:13件)
肺悪性腫瘍手術等	(年間症例数:31件)
経皮的カテーテル心筋症灼術	(年間症例数:0件)
靭帯断裂形成手術等	(年間症例数:4件)
水頭症手術等	(年間症例数:10件)
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	(年間症例数:0件)
尿道形成手術等	(年間症例数:38件)
角膜移植術	(年間症例数:0件)
1歳未満の乳幼児に対する先天性食道閉鎖根治術等	(年間症例数:0件)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(年間症例数:45件)
冠動脈、大動脈バイパス移植術 (人工心肺を使用しないものを含む)及び対外循環を要する手術	(年間症例数:0件)
経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び 経皮的冠動脈ステント留置術	(年間症例数:480件)

施設名：都立多摩総合医療センター（胸部外科）

1. 地域における役割と施設の特徴

都立多摩総合医療センターは、同じ建物内に都立小児総合医療センターがあり、両院あわせて、1350床という大規模病院である。総合的医療機能を持つ高度急性期病院として、地域医療機関と連携し、人口約400万人の多摩地域の中核病院の役割を担っている。救急医療、がん医療、周産期医療を重点医療としているが、それらを支える総合診療を強化しており、ほぼ全科を網羅している。救急医療は救命救急センター、東京ER多摩総合を有し、周産期医療については、小児総合医療センターNICU GCU部門と一体となり、総合周産期センターとして、多摩地域の困難事例に対応している。また、がん診療拠点病院として、様々ながん症例に対して高い診療実績を誇っている。

2. 指導医・外科スタッフ（2名）

部長 小原 徹也
 医長 吉川 拓磨

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

1日 院内平均外来患者数 1555人 胸部外科 平均25人

②許可病床数

16床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2014年	134件	50件
2015年	150件	
2016年	160件	
平均	148件	

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
気胸 胸腔鏡下肺部分切除術	15件	10件	5件
転移性肺腫瘍 胸腔鏡下部分切除術	20件	10件	10件
縦隔腫瘍摘出術	5件	2件	3件
肺癌 胸腔鏡下肺部分切除術	8件	4件	4件
肺癌 胸腔鏡下肺区域切除術	5件	1件	4件
肺癌 胸腔鏡下肺葉切除術	20件	1件	19件
気管支鏡下レーザー、ステント	5件	1件	4件
膿胸	2件	1件	1件
合計	80件	30件	50件

⑤取り扱っている疾患の特徴

診療範囲は原発性肺癌、転移性肺腫瘍、結核を含む肺感染症や膿胸、重症筋無力症を含む縦隔疾患、自然気胸や嚢胞性肺疾患、胸部外傷、その他呼吸器に関する外科を扱っている。疾患としては、原発性肺癌が最も多く、次いで、気胸などの嚢胞性肺疾患、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍が多い。

肺癌に対して、全体の約80%を胸腔鏡下手術で行っており、特に3D-CTを用いた術前シミュレーションで安全かつ精密な肺葉切除・区域切除等を行っている。また術後の補助化学療法や放射線照射など集学的治療も行っている。

多剤耐性肺結核、肺アスペルギルス症、MRSA や耐性緑膿菌による慢性膿胸に対する外科的手術を以前より行っており、全国より紹介患者を受け入れている。

近隣の都立神経病院と連携しており、重症筋無力症に対する胸腺摘出術が多いことが特徴である。その他の縦隔腫瘍に対しては積極的に胸腔鏡下手術を行っている。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:40 ~ 9:00	朝回診							
8:45 ~	手術							
9:00~ 12:00	午前外来							
13:00~ 16:00	午後外来							
9:00~ 17:00	病棟業務							
17:00~ 17:45	夕回診							
9:00~ 12:00	気管支鏡検査							
16:00~ 17:00	呼吸器内科、放射線科カンファレンス							

5. 診療実績

2014年症例 実績	症例数	胸腔鏡下手術症例
原発性肺癌 肺葉切除	34例	32例
肺区域切除	6例	5例
肺部分切除	8例	8例
転移性肺腫瘍	23例	23例
縦隔腫瘍	11例	4例
重症筋無力症	9例	0例
気胸、嚢胞性疾患	29例	29例
膿胸	2例	2例

施設名：社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は450床の中規模病院ですが、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、年間7000台救急搬送の救急指定病院、埼玉県がん診療指定病院の機能を有する埼玉西部地区の地域中核病院として消化器外科、乳腺内分泌外科、心臓血管外科を中心に年間3000件の手術を行っています。

2. 指導医・外科スタッフ（9名）

<外科・乳腺・内分泌外科>

主任部長	堤 謙二	副部長	荻野健夫	医員	庄子 渉
部長	清水喜徳			医員	柳田充郎
部長	児玉ひとみ（乳腺・内分泌）				
顧問	河村 正敏	医長	杉浦良子（乳腺・内分泌）		
		医長	中村 靖（乳腺・内分泌）		

<心臓血管外科>

部長	加藤泰之	医長	山田宗明		
副院長	木山宏	医員	加藤 昂	医員	菅野靖幸
副院長	小柳俊哉				

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（1日平均）

	外来患者数	入院患者数
2014年	72.5	325.5
2015年	73.0	320.9
2016年	78.9	319.1

②許可病床数

450床（一般病床：450床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体	経験可能数
2014年	1,131件	170件
2015年	1,632件	
2016年	1,644件	
平均	1,469件	

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
消化管及び腹部内臓	790件	100件	200件
乳腺	80件	10件	20件
呼吸器	0件	0件	0件
心臓・大血管	305件	10件	190件
末梢血管（頭蓋内血管を除く）	240件	50件	230件
頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚，軟部組織，顔面，甲状腺，上皮小体，性腺，副腎など）	229件	10件	20件
小児外科	0件	0件	0件
上記各分野における内視鏡手術（腹腔鏡胸腔鏡を含む）	386件	件	件
合計	1,644件	180件	660件

⑤取り扱っている疾患の特徴

<消化器外科・乳腺・内分泌外科>

当院は救急医療、高齢者医療、消化器悪性腫瘍診療、内視鏡外科、乳腺・内分泌外科、埼玉県がん診療指定病院の役割を担う地域中核病院で、救急・急性期診療、手術、内視鏡検査、化学療法、緩和医療など一般・消化器外科、乳腺内分泌外科診療全般を行っている。主な手術は胆

石症、虫垂炎、イレウス、消化管穿孔をはじめとする急性腹症、大腸癌、胃癌、乳癌、甲状腺癌等の悪性疾患、副甲状腺機能亢進症である。また胃癌、大腸癌を中心とした消化器がん、乳癌の化学療法も当科が中心となって行っている。緩和ケアに関しては当院の緩和ケア科・緩和ケアチームと連携しており、以上のごとく初療から手術、化学療法、緩和ケアと一貫した治療を行っているのが当院の特徴である。

<心臓血管外科>

常勤医6名体制（うち心臓血管外科専門医2名）で心臓大血管、末梢血管と肺疾患の外科的治療を中心に24時間体制で対応しています。

当科診療上の特徴

1. 外科的手術を必要とする心臓血管関連の疾患には24時間365日対応できる体制を整えています。そのため動脈瘤破裂、急性大動脈解離や急性動脈閉塞などの緊急手術を多く行っています。また80歳以上、透析や以前心臓手術を受けた患者さんなどの一般的にリスクの高い手術にも対応しており、当院のユーロスコア（別記参照）は7.7と極めて高い値です。
2. 患者さんが当院を受診しやすくするために、当科で行われている診療内容を情報公開しています。具体的な試みとして、手術の数、成績は偽りなく、紹介医やホームページに公表し、常に成績改善の努力をします。また心臓・大血管手術はDVDに記録していますので、患者さんのご希望があればDVDでのダビングを後日お渡しします。
3. 担当医が診察ごとによって変わると治療方針や説明内容が変わり、不安感を訴える患者さんが多くみられます。手術前の説明から手術の執刀は極力同じ医師が担当するように努めます。
4. 心臓手術には危険性が伴います。手術の前に手術の必要性、方法、危険性について充分説明します。患者さんやご家族が理解および納得した上で手術を行います。決して手術を強要する事はしません。
5. 他院よりのセカンドオピニオンは随時受け入れています。また他院へのセカンドオピニオンをご希望される患者さんは担当医にご気軽に相談してください。

疾患別治療法の特徴

1. 虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞のこと）：
狭心症や心筋梗塞に対する冠動脈バイパス手術では手術の質を維持するために、以下の2点に留意しています。まずは長期的な成績が良好といわれている動脈をバイパスに使用することです。足の静脈を使用するより、技術的には難しく、時間も必要とします。しかし患者さんの長期的なメリットを考え、バイパス材料にはなるべく動脈を使用しています。もうひとつは患者さんの状態に応じて、心停止下の手術と心拍動下の手術を使い分けることです。心停止下の手術は血管吻合を容易にしますが、患者さんの体への負担が増え、脳梗塞も発生しやすくなります。逆に心拍動下の手術は血管吻合が難しくなりますが、患者さんへの体の負担が減ります。我々はそれぞれの手術法の利点、欠点を考慮し、患者さんに適した手術方法を選択しています。その結果、平成14年12月からの193例の単独冠動脈バイパス術に術中脳梗塞発生は1例もありません。
2. 心臓弁膜症：
弁膜症には人工弁を移植する事が多いのですが、人工弁を移植することにより、一生飲まなければならない薬（ワーファリン）が必要となります。我々は人工弁の移植を可能な限り避けるため、自分の弁を残す弁形成術を試みています。僧帽弁閉鎖不全症の8割で形成術を行いました。またワーファリンを必要としない生体弁も積極的に移植しています。
3. 大動脈疾患：
腹部大動脈瘤の手術は皮膚切開10cm以下の小切開下に行っています。切離する筋肉の量が少ないため術後の痛みが軽いのが特徴です。術後回復も早く手術5日後に退院した患者さんもいます。急性大動脈解離、大動脈瘤破裂といった突然死を引き起こす疾患が急増しています。このような緊急を必要とする大血管手術に対しても24時間体制で対応しています。
4. 下肢静脈瘤：
患者さんの足の状態やご都合に合わせて、入院手術と外来手術を選択しています。約6割の患者さんが外来のみで治療しています。また軽症の患者さんには薬を静脈瘤に注入して治す、硬化療法を行っています。
5. 肺疾患：
肺疾患は気胸の治療を主に行っています。手術はほとんどカメラ補助下（胸腔鏡下手術）でします。胸腔鏡下手術は手術創も小さく、術後の痛みが軽いという特徴があります。ま

た 2004 年より再発予防を目的に肺表面に特殊なシート（ポリグルコール酸）を貼っています。この方法を導入してからは連続 84 例術後再発がありません。気胸の術後再発は 5～10%といわれていますので、当院の成績は驚異的な数字です。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
7:45-8:15	モーニングセミナー							
8:05-8:30	ER ケースカンファレンス							
8:15-8:30	外科術前カンファレンス							
8:30-8:45	救急カンファレンス							
8:45-	病棟業務							
9:00-	手術							
9:00-12:00	病棟回診							
9:00-12:00	外来							
12:30-13:00	ランチョンセミナー							
14:00-15:00	外科病棟カンファレンス							
17:00-18:00	外科カンファレンス							
17:00-18:00	手術症例カンファレンス							
17:00-18:00	外科病理カンファレンス							
18:00-19:00	C P C							

5. 診療実績

・区分 1 に分類される手術		件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	10
イ	黄斑下手術等	0
ウ	鼓室形成手術等	0
エ	肺悪性腫瘍手術等	0
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	30

・区分 2 に分類される手術		件数
ア	靭帯断裂形成手術等	4
イ	水頭症手術等	76
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
エ	尿道形成手術等	6
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	7
キ	子宮付属器悪性腫瘍手術等	0

・区分 3 に分類される手術		件数
ア	上顎骨形成術等	3
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	0
ウ	バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	4
エ	母指化手術等	0
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	1
キ	同種死体腎移植術等	0

・区分 4 に分類される手術の件数	303
-------------------	-----

・その他の区分に分類される手術	手術の件数
人工関節置換術	63
乳児外科対象手術	0
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	117
冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術	259
経皮的冠動脈形成術	76
急性心筋梗塞に対するもの	7
不安定狭心症に対するもの	4
その他のもの	65
経皮的冠動脈粥腫切除術	0
経皮的冠動脈ステント留置術	669
急性心筋梗塞に対するもの	84
不安定狭心症に対するもの	66
その他のもの	519

施設名：熊本赤十字病院

1. 地域における役割と施設の特徴

24時間365日、1次から3次まで、年間6万人の患者を受け入れる救命救急センターを持つ当院では救急を28診療科で支える診療を行っている。

また、平成24年にドクターヘリ基地病院として運用を開始し、九州で初となるPICUを併設したこども医療センターも整備。

平成25年には全国で5か所目、西日本では初となる「小児救命救急センター」の指定を県から受け、重篤な小児外科疾患を診ることができる。

2. 指導医・外科スタッフ（2名）

部長 吉元 和彦
副部長 比企 さおり

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数

	外来患者数	入院患者数
2014年	3897人	1982人
2015年	3,558人	1,629人
2016年	3,616人	1,144人

②許可病床数

490床（一般：490床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	375件
2015年	287件
2016年	293件
平均	318件

経験可能数
200件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）※主なもの

症例	手術数	術者として	助手として
鼠径ヘルニア（LPEC）	50件	35件	15件
虫垂炎（腹腔鏡下虫垂切除）	10件	5件	5件
腹腔鏡下噴門形成	15件	5件	10件
腹腔鏡下胃瘻増設	15件	10件	5件
喉頭気管分離	10件	8件	2件
合計	100件	63件	37件

⑤取り扱っている疾患の特徴

○小児救急：小児の外傷患者数は年間約 4000 人で、そのうち入院は 150 人。その多くは四肢の骨折、頭部外傷だが、重症の小児外傷は小児科、小児外科が各科と共同で診察している。

平成 26 年の小児外傷の救急搬送患者は 424 人、そのうち入院は 105 人（25%）、手術は 44 人（10%）だった。

○内視鏡手術：小児外科では将来に影響を残しにくい内視鏡手術を積極的に取り入れている。

平成 26 年は手術件数 344 件で、うち内視鏡手術は 233 件（68%）。

主な手術は腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（LPEC）116 件、腹腔鏡下噴門形成術 27 件、特に、腹腔鏡下噴門形成は日本でもトップクラスの数を行っている。

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
7：00-8：00	週替わりカンファレンス 術前検討会							
8：00-8：30	病棟カンファレンス							
8：30-8：40	診療部医局朝礼							
8：40-9：00	外科申し送り							
9：00-18：00	手術 病棟回診							
18：00-	カンサーボード							

5. 診療実績

2015 年実績

腹腔鏡下噴門形成術	27 例
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（LPEC）	116 例
腹腔鏡下虫垂切除術	33 例
喉頭気管分離術	17 例
腹腔鏡下卵巣腫瘍核出術／附属器切除術	8 例

施設名：独立行政法人地域医療推進機構 東京城東病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は外科（消化器科・肛門外科を含む）、内科、整形外科の三科が協力し地域医療に貢献している東京都指定二次救急医療機関である。外科については日本外科学会専門医制度修練施設（関連施設）、日本消化器内視鏡学会指導施設となっており、日本外科学会・日本消化器外科学会・日本消化器内視鏡学会・日本消化器病学会・日本肝臓学会の各専門医、マンモグラフィー読影認定医および日本内視鏡外科学会技術認定医が常勤しているため、消化器がんをはじめとした消化器疾患から外傷・粉瘤などの一般外科的疾患に至るまで幅広い疾患に対応可能である。また、独立行政法人地域医療推進機構（JCHO）の一員として“皆様に信頼される安全な医療を提供に努めること”を基本理念と考え、患者様の権利と人格を尊重し、患者様中心の医療を実践し地域の皆様の健康管理を通じ、地域医療への貢献を目指している。

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

外科部長 阪井 守 消化器外科医長 清水 香
外科医長 西村 明浩

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（一日平均）

	外来患者数	入院患者数
2014年	322.6人	80.7人
2015年	323.6人	95.9人
2016年	303.5人	106.7人

②許可病床数

130床（一般病床のみ）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	102件
2015年	135件
2016年	169件
平均	135件

経験可能数
169件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
胃全摘出術	1件	1件	1件
結腸切除術	22件	22件	22件
直腸癌手術	16件	16件	16件
胆石手術（腹腔鏡）	21(14)件	21(14)件	21(14)件
イレウス手術	6件	6件	6件
虫垂炎手術	8件	8件	8件
鼠径ヘルニア手術	28件	28件	28件
痔核・痔瘻・肛門周囲膿瘍	25件	25件	25件
体表手術（粉瘤・脂肪腫など）	16件	16件	16件
合計	143件	143件	143件

基本的に全手術症例について術者、助手を問わず経験可能である。

⑤取り扱っている疾患の特徴

胃癌・大腸癌を中心とした上部・下部消化管および肝・胆・膵の消化器病疾患に対する診断および治療から外傷や粉瘤などの一般外科的処置まで幅広く対応している。また、虫垂炎や絞扼性イレウスなどの救急疾患やヘルニア、痔核・痔瘻・肛門周囲膿瘍などあまり大学病院では取り扱うことが少ない疾患に対しても緊急手術を含めた積極的な治療を行っている。検査については専門医による上部および下部消化管内視鏡検査、胆道疾患に対する内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）による治療および腹部・乳腺・体表臓器の超音波検査を行っている。また、肝臓疾患に対する肝動脈塞栓術（TAE）・経皮経肝門脈塞栓術（PTPE）など血管造影による治療についても適宜、対応している。

4. 週間スケジュール

時間	内容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～8:30	朝カンファレンス							
8:30～9:30	病棟回診および業務							
9:30～12:00	午前外来もしくは内視鏡業務							
9:00～	手術							
13:00～	手術							
14:00～16:00	午後外来もしくは内視鏡業務							
15:30～	合同カンファレンス（症例検討会を含む）							
16:30～	勉強会、抄読会							

5. 診療実績

当院外科では消化器がん・胆石症・虫垂炎・鼠径ヘルニア・痔などの消化器外科、肝硬変や膵炎などの消化器内科および粉瘤・外傷などの一般外科に属する疾患を診察している。当院は東京女子医大消化器病センターと連携した日本外科学会専門医制度修練施設（関連施設）および日本消化器内視鏡学会指導施設である。また、女性医師も常駐しており、女性研修医も安心して研修を受けられるような環境作りに配慮している。

- ①手術については、胃、大腸、肛門をはじめ、肝臓、胆道、膵臓に至るまで消化器全般を行っている。現在 3 室しかない手術室を手術室スタッフおよび東京女子医科大学東医療センター麻酔科の先生方の協力のもと、フル回転することにより高難易度手術も実施されるようになってきている。平成 27 年 11 月より内視鏡外科技術認定医の資格を有する先生も着任され、腹腔鏡下手術にも本格的に力を入れており、胆石はもちろん、大腸癌、虫垂炎、鼠径ヘルニア、食道裂孔ヘルニアなどに対する腹腔鏡下手術も最近増加している。将来的には内視鏡外科技術認定医の資格取得を目指す腹腔鏡下消化器手術の教育機関となることを目標としている。胆石、虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔ろう、痔核等はクリティカルパスを使用し早期退院に努めており、下町という地域柄、ご高齢の患者様でも当院での手術を強く希望されることもあるため、患者様に分かりやすく、やさしい治療が提供している。
- ②各種がんに対する化学療法は外来通院を中心に行っており、積極的に学会や勉強会などに参加し情報収集を行い、癌薬物治療認定薬剤師とともに最新かつ安全な化学療法が患者様へ提供している。
- ③近年、内視鏡科の進歩に伴い、術後 QOL を重視した低侵襲治療として内視鏡的治療も積極的に行っている。早期胃がん・大腸がんに対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）、総胆管結石に対する十二指腸乳頭切開（EST）・切石術、経口摂取不能に対する内視鏡的胃ろう造設術（PEG）をはじめ、膵・胆道疾患に対する内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）検査はもとより、閉塞性黄疸に対する、経鼻的胆管ドレナージ術（ENBD）、経皮経肝的胆管ドレナージ術（PTCD）胆管ステント留置術も適応に応じて行っている。
- ④術前・術後管理の一環として、理学療法士・作業療法士による呼吸・運動リハビリテーション・“がん患者リハビリテーション”、薬剤師による服薬指導、栄養サポートチーム（NST）による栄養管理、管理栄養士による退院時の栄養食事指導、医療ソーシャルワーカー（MSW）による医療相談など各種専門医療スタッフによるチーム医療を実践している。また、末期がんの患者様に対しては、当院訪問看護チームの協力により在宅栄養（中心静脈栄養、経腸栄養）・疼痛緩和ケアを実施している。

施設名：医療法人社団 栄悠会 綾瀬循環器病院

1. 地域における役割と施設の特徴

当院は1986年6月に心血管疾患の専門病院として開設以来、32年間にわたり、急性期循環器医療を中心に展開してきました。

2017年の診療実績は下記5.に記したとおりです。また、心大血管リハビリテーション22,920単位を実施、病床稼働率86.6%、平均在院日数10.02日でした。

人口137万人の区東北部における、循環器疾患の医療圏シェアは22.5%になります。

救急医療では、救急搬送1,650件、モービルCCU出動件数268件、救急応需率98.6%、東京CCUネットワーク加盟施設、大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈重点病院として2017年には急性心筋梗塞171例、急性大動脈疾患100例の受入実績があり、地域の循環器センター、救急病院としての役割を担っています。

2015年9月には新築移転し、急性期病床を拡充(67床→76床)、ハイブリット手術室新設、カテ室2室、手術室2室、320列MDCT、ICU/CCU、HCU、ER機能の拡充(特定集中治療室管理料Iの算定)、災害時継続医療を目指し免震・水害対応建築、IT化推進(新電子カルテ等)を導入し、医療機能、医療安全の更なる向上を目指しています。

2. 指導医・外科スタッフ(6名)

丁 毅文(指導医)、青見 茂之、建部 祥、遊佐裕明、半沢善勝、田邊友暁

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数 (一日平均)

	外来患者数	入院患者数
2014年	32.7人	56.7人
2015年	26.4人	62.0人
2016年	17.7人	65.2人

②許可病床数

76床

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	354件
2015年	332件
2016年	321件
平均	336件

経験可能数
161件

④症例別経験可能数(術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載)

症 例	手術数	術者として	助手として
冠動脈バイパス術	95件	6件	72件
弁膜症手術	44件	2件	36件
胸部大動脈瘤手術	37件	0件	26件
腹部大動脈瘤手術	12件	0件	7件
末梢血管手術	24件	14件	7件
ステントグラフト内挿術	75件	0件	40件
先天性	1件	0件	1件
その他の開心術	5件	0件	5件
その他(開心術以外)	26件	2件	10件
合 計	319件	24件	204件

⑤取り扱っている疾患の特徴

90%以上が循環器疾患

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00-9:20	CAG カンファレンス、総回診							
8:00-8:20	ICU, HCU, ER 回診							
9:30-12:00	午前外来							
8:30-	手術							
9:30-	手術							
16:00-17:00	手術カンファレンス							
17:00-17:30	ICU, HCU, ER 回診							
7:45-8:15	医局会、抄読会（月1回、第1週）							
7:45-8:15	運営会議（月1回、第3週）							

5. 診療実績

施設基準に関する手術の症例数

平成29年1月1日～平成29年12月31日

◆冠動脈、大動脈バイパス移植術又は体外循環を要する手術	241例
＊冠動脈、大動脈バイパス移植術	96例
＊弁膜症手術	62例
＊大動脈瘤切除術	70例
＊その他の手術	13例
◆ステントグラフト内挿術	65例
◆経カテーテル大動脈弁置換術（経心尖大動脈弁置換術）	21例
経皮的冠動脈形成術	56例
＊急性心筋梗塞に対するもの	8例
＊不安定狭心症に対するもの	2例
＊その他のもの	46例
◆経皮的冠動脈ステント留置術	552例
＊急性心筋梗塞に対するもの	113例
＊不安定狭心症に対するもの	49例
＊その他のもの	390例
◆経皮的頸動脈ステント留置術	12例
◆経皮的カテーテル心筋焼灼術	222例
◆ペースメーカー移植術及び交換術	106例
◆両心室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び埋込型除細動器移植術	18例
◆その他の手術	218例

施設名：国際医療福祉大学熱海病院

1. 地域における役割と施設の特徴

国際医療福祉大学熱海病院のルーツは、1911年に創立された東京第一衛戍病院熱海分院、1950年に改称された国立熱海病院にあります。2002年に国際医療福祉大学が継承し、現在の病院となりました。

診療科目は、予防医学、総合診療、各専門の診療科、救急医療、リハビリテーションなど、時代に即した最先端の医療を提供できる体制を整えております。静岡県東部、伊豆半島全域、神奈川県西部の医療を支える中核病院として機能しています。

熱海市は高齢化率が44%を超える超高齢社会です。5大がんの検診率は静岡県下で最も低い地域となっており、市民のQOL（生活の質）向上と予防医学分野の充実が重要な課題です。さらに、救急車の出動回数は年間約3,800件となっており、人口が約2倍の近隣伊東市と変わらない出動回数です。当院は、2016年4月に認定された地域がん診療病院として、また地域の2次救急医療を提供する救急医療の拠点としても大きな役割を果たしております。

2. 指導医・外科スタッフ（3名）

教授 唐仁原 全
教授 白井 博之
准教授 矢嶋 淳

3. 患者数、病床数、3年間のNCD登録数、症例別経験可能数、取り扱っている疾患の特徴

①患者数（1日平均）

2014年 外来 682.4人 入院 227.4人
2015年 外来 691.5人 入院 229.5人
2016年 外来 682.0人 入院 223.9人

②許可病床数

269床（一般：234床、感染症：4床、療養：31床）

③2014-2016年のNCD登録数

	施設全体
2014年	263件
2015年	340件
2016年	736件
平均	446件

経験可能数
168件

④症例別経験可能数（術者もしくは助手として経験可能な手術数を記載）

症例	手術数	術者として	助手として
腹部・消化器	30件	10件	20件
末梢血管	138件	100件	38件
合計	168件	110件	58件

⑤取り扱っている疾患の特徴

- ・**移植外科** 2008年より移植医療を実施するため「移植外科」を開設しています。臓器移植は根治不能な臓器不全を完治しうる究極の医療です。内科的治療が限界となった

肝不全には肝移植が唯一の救命手段であり、若年に発症する1型糖尿病は膵移植によってインスリン自己注射や低血糖発作から解放され、腎移植による透析療法からの離脱はQOL（生活の質）の向上のみならず生命予後を改善します。こうした臓器移植は今や一般医療となっており、腎移植でみると、全国150を超える施設で実施され、生体腎と献腎合わせて1,100件を突破し着実に増加しています。こうした背景には、免疫抑制剤の進歩による生着率の向上や生体移植ドナー手術における低侵襲手術（内視鏡）の導入などがあり、多くの臓器不全患者が恩恵を受けています。

腎移植を中心に実施していますが、将来的には肝・膵移植のみならず、虚血肢に対する幹細胞移植による血管再生療法も準備を進めたいと考えています。また、透析患者に対するバスキュラーアクセス手術等も積極的に行っています。

- ・**外科（消化器）** 消化器外科をはじめ内分泌外科や下肢静脈瘤に至るまで、どのような疾患に対しても幅広く対応できるようにチームで取り組んでいます。

年間400例以上の手術を行っていますが、ヘルニアや腹腔鏡下胆嚢摘出術は数日間の入院、胃がん・大腸がんの手術でも3週間以内の入院で社会復帰が可能です。特に、食道がん、胃がん、大腸がんに関しては、進行度に応じて、徹底した手術、負担の少ない機能温存手術や縮小手術、胸腔鏡や腹腔鏡を用いた鏡視下手術、抗がん剤による化学療法などを組み合わせることで、最良の治療を提供しています。消化器疾患はもちろん、痔疾患や乳腺疾患、甲状腺疾患についても経験豊かな専門医が診療しています。また、外傷、急性虫垂炎をはじめとする救急医療でも、地域の中核病院として、緊急手術がいつでもできる体制を整えています。熱海市在住の方だけでなく旅行者の急病にも対応しており、観光都市熱海の発展に医療面で貢献しています。

- ・**呼吸器外科** 手術療法を中心に治療を行っています。対象となる疾患は、肺がんや各臓器からの転移性肺腫瘍などの悪性肺腫瘍、胸腺腫を主とする縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍、気胸・巨大肺嚢胞などの嚢胞性肺疾患、重症筋無力症、膿胸、縦隔炎などです。呼吸器内科と協力のうえ正確な診断を行い、個々の病状に合わせた治療法を行います。

具体例

- ①内視鏡を活用した低侵襲手術：胸腔鏡〔補助下〕手術（VATS）による手術創部の縮小・術後疼痛の緩和・呼吸筋の温存
- ②積極的な拡大手術による根治性の追求・呼吸機能の温存：気管支および血管の形成手術、胸壁切除や横隔膜切除
- ③生活の質（QOL）の重視：丁寧な手術の実施による早期離床・術後合併症の減少・早期退院

4. 週間スケジュール

時 間	内 容	月	火	水	木	金	土	日
8:00～8:30、12:00～12:30	抄読会、勉強会			●	●			
8:30～9:00	カンファレンス						●	
9:00～12:00	外来	●						
9:00～12:00	病棟			●				
9:00～17:00	手術		●		●	●		
14:00～14:30	病理カンファレンス			●				
17:00～18:00	医局会	●						

5. 診療実績

1.区分1に分類される手術		手術の件数	
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	18	
イ	黄斑下手術等	90	
ウ	鼓膜形成手術等	1	
エ	肺悪性腫瘍手術等	7	
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	0	
2.区分2に分類される手術		手術の件数	
ア	靭帯断裂形成手術等	0	
イ	水頭症手術等	20	
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0	
エ	尿道形成手術等	7	
オ	角膜移植術	0	
カ	肝切除術等	11	
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	0	
3.区分3に分類される手術		手術の件数	
ア	上顎骨形成術等	1	
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	0	
ウ	バセドウ甲状腺線全摘出(亜摘出)術(両葉)	0	
エ	母指化手術等	0	
オ	内反足手術等	0	
カ	食道切除再建術等	0	
キ	同種腎移植術等	17	
区分4に分類される手術の件数		89	
		手術の件数	
4.	人工関節置換術	57	
5.	乳児外科施設基準対象手術	0	
6.	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む)	20	
7.	冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術	0	
8.	経皮的冠動脈形成術	急性心筋梗塞に対するもの	0
		不安定狭心症に対するもの	0
		その他のもの	32
経皮的冠動脈血栓切除術		0	
経皮的冠動脈ステント留置術	急性心筋梗塞に対するもの	2	
	不安定狭心症に対するもの	11	
	その他のもの	131	

平成29年4月1日